

目 次

I	はじめに	校長 浅田尚宏	2
II	平成25年度学校概要		3
III	各部署の取り組み		
	1 インスパイア・ハイスクール事業（魅力ある高校づくり）		4
	2 中高連携環境美化活動		5
	3 中高連携「千種学」講演会		6
	4 小中高連携講演会（宍粟市青年期人権・同和教育研修会）		7
	5 オープンハイスクール		8
	6 第5回保幼小中高合同「ふれあい文化祭」		9
	7 オープンスクール（学校公開週間）		10
	8 地域連携総合防災訓練（木造仮設住宅公開建築会）		11
	9 兵庫県教育委員会学校訪問指導		12
10	総合的な学習の時間		13
11	連携授業（中高・小高）の記録		14
12	アクティブ授業（内）（外）の記録		15
13	ロングホームルーム活動（LHR）		17
14	平成25年度生徒指導の概要		18
15	高校生心のサポートシステム実践研究（ネット利用問題改善運動）		19
16	山と海の学校間交流（家島高校との交流記録）		22
17	第39回千種高校文化祭		23
18	第39回千種高校体育大会		24
19	第5回千種中高連携マラソン大会		25
20	生徒会主催「百人一首大会」		26
21	千種中高連携生徒会執行部ミーティング		27
22	39回生進路状況報告		28
23	進路ガイダンス・模擬試験・進路検討会		30
24	平成25年度実施の健康教育		32
25	身体測定記録		33
26	教育相談活動（キャンパスカウンセリング）		34
27	人権教育の概要		35
28	第1学年「皆生・大山野外活動」		37
29	第1学年「就業体験」（アクティブデイズ）		38
30	第40回生修学旅行		39
31	県庁21世紀兵庫長期ビジョン出前講座（中高連携社会科授業）		41
32	「千種災害対策プロジェクト」実施の記録		42
33	沖繩県立本部高校・本部町議会議員団ご来校の記録		45
IV	各教科の取り組み		
	1 漢字検定		46
	2 数学検定		47
	3 英語検定・千種町英語教育研究会		48
	4 商業関係検定		49
V	部活動の取り組み	一光る汗・輝く瞳・草魂千種の活動記録一	
	1 硬式野球部		50
	2 サッカー部		50
	3 男子バレーボール部		51
	4 女子バレーボール部		52
	5 ゴルフ部		53
	6 ライフル射撃部		54
	7 カルチャー部（軽音楽）		55
	8 ボランティア部		55
	9 茶華道部		56
10	パソコン部		56
VI	平成25年度式典の記録		
	1 入学式 校長式辞		57
	2 卒業証書授与式（1）校長式辞		58
		（2）在校生送辞（3）卒業生答辞	59
VII	平成25年度学校評価		62
VIII	平成25年度年間実施行事		64
IX	平成25年度の広報活動		66
X	提言：千種高校の更なる成長を図るために		68
XI	千種高校の書画・石碑等あれこれ		70
	編集後記		79

I はじめに

「千種高校の更なる発展を願って」



県立千種高等学校

校長 浅田 尚宏

本校の教育活動の1年間を振り返り、その進むべき道に思いを致す時節が『千種高校展望』の発刊と共に巡って参りました。平成22年度に兵庫県下初の『連携型中高一貫教育校』となり、宍粟市立千種中学校と共に歩んで4年、千種町独自の「保幼小中高連携一貫教育」の動きや地域の皆様方の温かいご支援にも支えられて、たいへん活発な教育活動が展開されています。

千種高校では、生徒の多様なニーズに対応するため、「チャレンジ」「ベーシック」「アクティブ」の3コースを設置し、生徒の個性・能力・進路希望に合わせ、幅広い教育内容を実践してきたことで、進路実績でも進学・就職ともにすばらしい成果をあげて参りました。しかし、これもひとえに千種中学校の先生方が、「連携」の中で生徒たちを常に応援し、温かい「まなざし」を向けて励まして下さっていたからこそであると思っています。本当にありがとうございます。

千種高校を語る時、「小規模」という言葉がよく用いられますが、私たちはこの点をマイナスと捉えず、「小規模校だからこそできること」を合言葉に様々な工夫を試みてきました。クラブ活動も、少人数ながら活発になり上位大会に出場する成果も上げています。さまざまな教育活動の場面で、地域の方々のご支援・ご理解をいただき、少人数だからこそできる丁寧な指導により、生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、夢や希望をかなえ、地域に貢献できるこころ豊かな人づくりをめざして参りました。昨年の夏、野球部が兵庫大会に出場した時、バレー部員2名がボールボーイを務めてくれたのですが、野球部の窮地を見過ごせず、名乗りを上げてくれたことに対し、目頭が熱くなる思いがいたしました。このことは、神戸新聞の「緑陰」というコラムで取り上げられ、永年野球部の指導に関わってきた私にとって忘れられない思い出の一つとなっています。

平成25年度は、「千種災害対策プロジェクト（木造仮設住宅）」などの取り組みに象徴されるように、地域との結びつきを更に深めることができた年でもありました。地域に支えられ、地域に愛される学校、そしていつでも地域に貢献できる学校として、千種高校が何を為すべきなのか少しずつ明確になってきたように思います。今後とも学校・家庭・地域が連携した特色ある教育活動を展開し、「明るいあいさつ」と「さわやかな笑顔」の千高生が更に輝き続けることを願って、はじめのことばといたします。

II 平成25年度 兵庫県立千種高等学校 学校概要

- 1 所在地：兵庫県宍粟市千種町千草 727 番地 2
〒671-3201 TEL 0790-76-2033(代) FAX 0790-76-2233
位置：海拔 328.57m 東経 134 度 26 分 北緯 35 度 8 分
- 2 沿革：昭和 23 年 10 月 1 日 県立山崎高等学校千種分校(定時制・学級数 1)開設
昭和 36 年 4 月 1 日 同分校全日制課程に移行
昭和 50 年 4 月 1 日 兵庫県立千種高等学校として独立
昭和 63 年 11 月 27 日 学校開設 40 周年記念式典
平成 10 年 6 月 19 日 学校開設 50 周年記念公演
平成 13 年 5 月 1 日 文部科学省「研究開発学校」指定
平成 17 年 6 月 2 日 文部科学省「コミュニティ・スクール推進事業調査研究校」指定
平成 19 年 4 月 1 日 「県立高等学校小規模校活性化支援事業」指定
平成 20 年 6 月 21 日 学校開設 60 周年記念文化祭開催
平成 22 年 4 月 1 日 「連携型中高一貫教育校」に改編
- 3 教職員組織：(*は非常勤講師)
校長 浅田尚宏
教頭 原田尚昭
事務長 尾崎隆博
国語 西佑一郎、安積拓男、金本有加、大川夕貴*
数学 照本和生、坂根大樹
英語 松井利澄、田中孝英、坪内麻衣*、Marcus Day*、David Berg
理科 角野陽介、中村増男*
地歴公民 八十川洋一
保健体育 福永順二郎、上山麻美
商業情報 戎原進一、高野安信*
家庭 中村かおり*
芸術 武野初美*、野村直城*
養護 沼田真穂、小林 愛
事務 橋本かすみ、池田幸司、山木康子
茶華道 小原千鶴子*
学校医 藤多和彦(内科)、横川浩己(眼科)、柴原豊弘(耳鼻科)、林 大輔(歯科)
薬剤師 田口 勉
- 4 在籍生徒数(平成 25 年 5 月 1 日現在)：

性別 \ 学年	1 学年	2 学年	3 学年	合計
男子	23	21	15	59
女子	16	13	14	43
計	39	34	29	102

Ⅲ 各部署の取り組み

1 インスパイア・ハイスクール事業（魅力ある高校づくり）

総務部

(1) トップアスリート講座

① 女子野球世界大会優勝選手によるソフトボール教室（8月19日）〔於：千種高校グラウンド〕

元トヨタ自動車ソフトボール部主将で、現岡山県美作高等学校教諭・ソフトボール部監督の杉本有加氏を招き、近隣の中学校ソフトボール部員及び指導者を対象にソフトボール講習会を開催した。中学生・高校生約50名が、基本的な体づくりから投球・打撃方法について具体的な指導を受け、練習試合等も積極的に行うことによって本物の「技」に触れる、またとない機会となった。



② Vリーグ選手（岡山シーガルズ）によるバレーボール教室（8月20日）〔於：千種高校体育館〕

Vリーグの一つ、「岡山シーガルズ」の現役選手5名とコーチ1名を招き、千種中学校・千種高等学校男女バレーボール部員及び千種町少女バレーボールチーム計約50名が、直接指導を受ける機会を持った。高校生から小学1年生まで全員が懸命に取り組んでいた。



③ プロゴルファーによるゴルフ直接指導（8月2日）〔於：千草カントリークラブ〕

千種高校ゴルフ部員と住民約15名が、地元宍粟市を中心に活躍されている香川広高プロの指導を受け、飛距離の伸びる打ち方や正確なパターの方法について多くのことを学ぶことができ、プロならではの話題満載で非常に有意義な機会であった。



(2) 地域のサイエンスアカデミー（7月27日〔妙見祭〕、10月25日〔千種小〕、3月4日〔三土中〕）

地元の小中学生が科学に興味を持ち、日常生活の中で様々な不思議を体験することができる機会を提供するべく、本校の理科教諭と生徒たちが地元の祭りや小中学校に出かけて行って理科の実験を行った。7月に行われた夏祭りでは大きなシャボン玉づくりに挑戦した。小学校と中学校の理科室では、液体窒素を用いた実験を行い、物質の変化に目を丸くする姿が印象的であった。



(3) 地域のサッカー教室（8月2日）〔於：千種高校グラウンド〕

地元の小学生が、夏休みの活動の一環としてサッカーに親しむ機会を設けている。指導は本校のサッカー部顧問とサッカー部員10名が当たり、サッカーを専門に行う機会の少ない子ども達に貴重な機会を提供した。当日は、一般児童に学童保育の児童も加わった約50名の子ども達が、サッカーボールを用いたゲームから入って実践的な試合までを行い、心地よい汗を流すことができた。



2 中高連携環境美化活動

総務部

(1) 目的：中高連携事業、PTCA 奉仕活動の一環として、中高生と地域が協力、協働しながら清掃、美化活動をすることによって、校区内の環境問題について考える体験活動を行う。

(2) 日時：平成 25 年 6 月 4 日（火）A 班：9:00～14:00 B 班：13:10～14:40

(3) 場所：A 班：志引峠 B 班：校区内道路および周辺施設

(4) 参加者： **A 班** 生徒：中 3 生 22 名、高 1 生 39 名、高 2 生 34 名 計 95 名

教員：中学 4 名 高校 8 名

一般：市民局、環境保全委員、高校 PTA、千種高校を支援する会、地域住民

B 班 生徒：中 1 生 30 名、高 3 生 29 名 計 59 名

教員：中学 3 名・高校 4 名

(5) 日程：**A 班** 8:50 高校集合→出発式→9:00 出発→9:20 奥西山集落センター→中 3 男女・高 1 女子はセンターから 1.6 km 地点で作業、高 1 男子・高 2 男女は頂上で作業。11:50 頂上にて全生徒合流[昼食]→12:40 閉校式→下山開始→13:30 奥西山集落センター→14:00 頃 各校到着

B 班 一部現地集合・現地解散（詳細は下記参照）

(6) B 班の編成・清掃区域：

班	清掃区域	中1男	中1女	高3男	高3女	計	付添職員
1	商店街・大広場・市民局・JA	2	2	2	2	8	中田
2	自動車道・ローソン・エーガイヤ	2	2	2	2	8	菊川
3	バス車庫内→R429→二宮神社内	2	2	2	2	8	角野
4	大森神社(石段・境内) [現地集合解散]	2	4	3	2	11	田中・八十川
5	杉の子保育園 [現地集合解散]	2	4	3	3	12	高下
6	ちくさの郷 [現地集合解散]	2	4	3	3	12	安積
		12	18	15	14	59	

<活動の様子>



<案内チラシ>

平成25年度 第5回中高連携環境美化活動

環境美化活動を行います!

今年度中高連携事業、PTCA活動の一環として実施されています。進捗に伴って清掃区域は増え、中・高生ともに活動の機会を創出いたします。

A 班
志引峠での不法投棄
廃棄物回収
(午前 中3、高1・2)

B 班
町内のごみ拾い等
(午後 中1・高3)

【日 時】平成25年6月4日(火) <予備日 6月5日(水)>

<A班 志引峠での不法投棄回収>
8:50- 千種高校東校集合・出発式
9:00- 出発(徒歩)
10:00- 峰中屋での廃棄物回収
10:30- 峰上での廃棄物回収
11:50- 峰上にて昼食・休憩
12:40- 解散・下山

<B班 千種中学校校区内の清掃>
13:20- 千種高校五国集合
(一層校舎集合)
13:30- 各組に分かれ作業
14:30- 終了

【内 容】A班:志引峠の中程、峰上まで約30分程度 徒歩・町内の美化活動
【参加費】千種高校・千種中・PTA・市民局・千種高校を支援する会・地域のみなさま
【注 意】汚れてもよい服装、運動靴でご参加ください。

町内の皆様、中高生と一緒に美化活動の願いをお願いします。(A班・B班どちらでも参加可)
A班に上ラックを貸して下さる方を募集しています。

問い合わせ先 千種県立千種高等学校 Ⅱ 78-2033 (電話:八十川)

3 中高連携「千種学」講演会

総務部

- (1) 目的：千種の歴史・自然・文化・産業について多角的な視点から学ぶ「千種学」講座を中高連携の形で行い、千種に対する理解を深める機会とする。
- (2) 日時：平成25年7月12日（金） 13：20～14：30
- (3) 会場：県立千種高等学校 体育館
- (4) 演題：「宍粟・千種を探検しよう！」
- (5) 講師：須磨岡 輯（すまおか あつむ）先生

1940年生まれ。兵庫91山の会代表。はりま風土記の里を歩く会、宍粟地名民俗研究会、宍粟50名山ガイドクラブ、日本山岳会 など会員。著書に『新はりまハイキング』『たじまハイキング』『播磨の峠ものがたり』。共著書に『播磨山の地名を歩く』『宍粟50名山』『新姫路の町名』『はりま風土記の里を歩く』ほか。

(6) 内容概略：

- ① 兵庫県内には三角点が3068カ所あって、一等は21、二等は107、三等は806、四等は2134カ所あり全国9位の多さである。
- ② 現在、登山仲間の人たちと共に兵庫県と岡山・鳥取県境の尾根を踏破していくプロジェクトが続けられており、この7月下旬には後山あたりを歩かれていることを知り、驚いた。
- ③ 千種町の四方を囲む4つの峠（鳥ヶ岨峠・塩地峠・志引峠・江浪峠）についての説明も配布資料に基づいてあり、峠の意義について考える機会となった。
- ④ 地元の山々で、毎日目にしていても中々登ったことのない、日名倉山・後山・笛石山・植松山・三室山について写真を提示しながら説明をしていただいた。

(7) 生徒の感想から：

- ・三角点などの話は少し難しかったけれど、写真をたくさん見せていただいたり、説明をしていただいたりして、とてもきれいなところがたくさんあったし、自分はこんなにもたくさんのきれいな山に囲まれて暮らせて幸せだと思いました。
- ・須磨岡先生は、かなりお年だということなのですが、今も岡山や鳥取県との境の尾根を歩いておられるということを知ってびっくりしました。また、写真で見せていただいた、県境を示す岩があるという説明には、あんなものは見たことがなかったので驚きました。
- ・今ではかなりいい道になっていますが、千種町を囲む4つの峠はもっと狭かったと思います。でも、千種からたくさんの鉄やお米などがその峠を通過して町外へ運ばれ、また、いろんな物が千種の中に運び込まれてきたことを思うと、何か不思議な気持ちになりました。



4 千種小中高連携講演会（宍粟市青年期人権・同和教育研修会）

総務部

平成25年度は、従来の中高連携講演会（7月）に加えて、小学校高学年の児童をも交えた「小中高連携講演会」を実施し得たという意味で画期的な年となった。小学生から高校生まで、そして勿論教職員や地域の一般住民も含めてすべての世代の人たちが感動し学ぶべき点の多い講演会となったのも、講師である「救世忍者乱丸」氏の人となりによって因るところが大きかった。

- (1) 趣 旨： 千種町で学ぶ小中高生が、共に人権を尊重する心を育み、いじめのない社会を実現するための取り組みとして研修会を実施し、より効果的な人権教育の機会を提供する。
- (2) 主 催： 宍粟市人権・同和教育研究協議会(宍粟市教育委員会)、千種高等学校
- (3) 日 時： 平成25年11月13日（水） 13：20～14：40
- (4) 会 場： 兵庫県立千種高等学校 体育館
- (5) 演 題： 「夢をカタチに」
- (6) 講 師： 救世忍者乱丸（きゅうせいにんじゃらんまる）さん [女子プロレスラー]
- (7) 対 象： 小学5・6年生（54名）、中学生（84名）、高校生（102名）、各校教員（約30名）、地域の方々（約20名）

(8) 内容概略：

乱丸さんは講演会が始まってから少しして覆面を取り、3歳の頃に左眼に癌が出来たために摘出手術を受け、今は義眼であるということを見せながら話を進めていかれた。そして空手に打ち込んで世界大会にまで行ったこと、大学時代にプロレスに出逢って魅了されたこと。プロレスの門を叩いたけれど、義眼であるが故に入門が許されなかったこと。念願かなってプロレスラーとなり、さあこれからという時に血尿が出始めて「急速進行性糸球体腎炎」という大変な病気にかかり復帰は絶望と医者に言われたこと。そんな時、恩師で大先輩のジャガー横田さんのご主人・木下医師にかけてもらった言葉、「あーそれだったら、時間はかかるけど治るよ。」が大きな励みとなり、復帰に向けて努力し、リングへと戻ってきて今があるということをお話してくださいました。

その言葉は、もちろん木下氏のとっさの言い回しで、復帰の可能性は0%だと思ったのだが、とにかくそのかけがえのない「言葉」によって乱丸さんは救われたのであった。「夢をカタチに」と題する今回の講演は、笑いあり涙あり、そして命や健康の大切さ、いじめの問題などについて考えさせられる、本当に素晴らしい講演会であった。

この講演会を開催していただいた宍粟市教育委員会様に厚くお礼申し上げます。



5 オープンハイスクール

総務部

(1) 日時：平成25年8月21日(水) 8:45~12:10

(2) 参加中学生：

中学校	千種中	山崎西	山崎東	山崎南	波賀中	新宮	佐用中	一宮北	林田	計
男	10		2	1	4	1	1	2	2	23
女	12									12
計	22		2	1	4	1	1	2	2	35
保護者							1		2	3

(3) 日程：

時刻	項目	実施内容				場所	備考
8:30~8:40	受付					生徒玄関	生徒会・職員
8:45~9:25	開会行事	1 挨拶(3分) 校長 2 学校全般紹介(8分) 教頭 3 教育課程について(10分) 教務部長 4 部活動・生徒会紹介(14分) 生徒会 5 質疑応答(5分)				視聴覚室	校長 教頭 松井 生徒会 八十川
9:25~10:00	見学	部活動見学等				グラウンド 体育館	生徒会誘導 3班編制
10:15~11:00 希望選択	授業体験①	【体育】 担当：福永,上山 (体育館) 9	【英語】 担当：松井 (2-1) 3	【理科】 担当：角野 (化学室) 22	【情報】 担当：戎原 (コンピュータ室) 1		
11:15~12:00 希望選択	授業体験②	【国語】 担当：西 (2-1) 8	【数学】 担当：坂根 (3-1) 6	【公民】 担当：八十川 (選択教室2) 5	【アクティブ】 担当：松井,上山 (体育館) 16		
12:00~12:10		教室ごとにアンケート記入後解散					

※引率教師と保護者の控え室：調理実習室

(4) 授業体験内容：

体育 「楽しく宙返りをしよう！」

苦手でも、必ず体育が好きになる魔法の技!!

理科 「実験！ブルーボトル反応」

世にも不思議な化学の世界！君も魔術師の仲間入り。

国語 「珍読・難読漢字クイズ！」

えっ！こんな漢字が？目から鱗の漢字講座。

公民 「ユニバーサルデザインの世界へ！」

すべての人が快適に。深い世界にご招待！

英語 「グアムから現地直送英会話!？」

グアムの話題満載。南国気分で英会話!!

情報 「4コマプレゼンにトライ！」

パワーポイントで自己アピールだ！

数学 「数字当てゲームに挑戦！」

数式で人の心を読む。君は超能力者だ！

アクティブ 「めざせ！プロゴルファー！」

県下有数のゴルフ実践校。千種高校で夢実現！



6 第5回保幼小中高合同「ふれあい文化祭」

総務部

千種町は「連携・一貫教育」の先進地であり、その象徴的行事が「保幼小中高合同ふれあい文化祭」である。小中合同や中高合同を聞くことはあれど、これだけの異年齢交流を擁する行事は他町他府県では類を見ない。正に全国でも唯一の学校行事であると言っても過言ではなかろう。このような活動を数年にわたって継続してきた経緯から、千種町は平成25年に、各校園PTA合同の「ちくさっ子を育てる会」の誕生を見た。少子高齢化は抗えぬ傾向ではあろう。しかし、この千種町には新たなる動きを創出し、子供たちに明るい未来を引き継いでゆこうとするエネルギーがある。これは、その記録の一端である。

「ふれあい文化祭」は、終日行われる行事ではあるが、この項では高校が参加した「午前の部」の内容のみ掲載することとする。

- (1) 目的：①保幼小中高による合同文化祭（合同行事）を実施することにより、連携のあり方についてさらに研究と工夫を深める。
②園児、児童、中学・高校生徒による合同文化祭をとおして、子どもたちの異年齢交流を深めるとともに連携意識を高める。
③合同文化祭の活動をとおして保幼小中高の連携の素晴らしさを保護者・地域住民に理解してもらい、情報発信・啓発の機会とする。

(2) 日時：平成25年11月3日（日）8時50分開演（午後は小中合同文化祭）

(3) 会場：千種小学校体育館

(4) プログラム（内容等）：

「第5回保幼小中高合同ふれあい文化祭」プログラム

【午前の部】

【8：50 開演】

1 開会〈10分〉

(1) 代表校長あいさつ（千種中学校長 喜多 英雄…幼小中高連携担当校長）

(2) 園児・児童・生徒代表あいさつ（千種中学校生徒会長 金本 秀則）

2 千種杉の子保育園 和太鼓「Good Boys & Girls」（4・5歳児）

〈20分〉 ダンス「すぎのこパラダイス」（〃）

3 千種幼稚園・千種高等学校連携〈20分〉

うた「へい！タンプリン」（全園児）

ダンス「南中ソーラン」（全園児&高校2年生）



4 千種中学校 英語スピーチ「Chikusagaku」（3年 春名意）

〈15分〉 英語スピーチ「Defending My Hometown」（3年 金本秀則）

5 千種高等学校 体験発表「アメリカ・ワシントンでの交流で学んだこと」

〈10分〉（1年 森脇大地）

6 千種小学校〈30分〉—音楽発表—

合奏「勇気100%」（3・4年生）合奏「銀河鉄道999」（5・6年生）

合唱「すてきな友達」「心の羽根」（全校生）



（休憩・舞台準備：約10分）

7 千種小学校〈60分〉—演劇—

「くじらぐも」（1年生）「かきこじぞう」（2年生）

「モチモチの木」（3年生）

8 千種中学校・千種高校吹奏楽部〈20分〉「テーマ オブ 半沢直樹」他

◇ 校長あいさつ（千種高等学校長 浅田 尚宏）

園児・児童・生徒代表あいさつ（千種高校生徒会長 秋久 侑太）

(5) 参加園児・児童・生徒数（教員数）：

杉の子保育園	21名（4名）	千種幼稚園	13名（3名）
千種小学校	132名（19名）	千種中学校	84名（13名）
千種高等学校	100名（15名）	合計	350名（64名）

7 オープンスクール（学校公開週間）

総務部

平成25年度においても、県民教育推進月間である11月に期間を設定し、授業・部活動・施設等について、広く地域住民に公開し、今の千種高校を直接見ていただく機会を設けた。特に、13日(水)には不屈の闘志の女子プロレスラー「救世忍者 乱丸」さんを招いて講演会を実施し、中高生は勿論小学校高学年児童及び地域住民参加による貴重な機会となった。

- (1) 目的：・授業内容、部活動、施設を広く公開することにより、地域に信頼される学校を目指す。
・公開した授業をもとに、指導方法や指導技術向上に向けた意見交換を行い、その成果の普及を図る。
- (2) テーマ：「学ぶ意欲を高める授業のあり方」
(確かな学力を身につけさせ、実力を高め、併せて成績不振者をなくす。)
- (3) 日程：平成25年11月11日(月)～15日(金)
※公開授業週間の後11/15放課後、「学ぶ意欲を高める授業のありかた」について反省会を実施する。(11/15 2限 西先生研究授業)
※11月13日(水) 13:10 人権・同和教育研修会 於：高校体育館
救世忍者乱丸さん(女子プロレスラー)「夢をカタチに」
放課後千種中学校3年生部活動体験
- (4) 対象：教職員、保護者、中学校生徒・職員、地域住民の皆様
- (5) 実施上の留意点：

〔オープンスクール〕

- ①期間中どの時間どの教科の授業も自由に参観できるようにする。
- ②なるべくたくさんさんの教科・科目を参観する。
- ③研究授業として実施する場合は、可能な範囲で略案や授業のプリント等を用意する。
- ④改善点等や気付いたことは、授業参観カード(別紙)に記入する。
- ⑤本校教職員以外には、アンケートへの協力を依頼する。

〔反省会〕

- ①期末考査に向けて、成績不振者への手立てを考える。
- ②優れた取り組みがあれば、教務に報告する。
教務は各教科・科目での優れた取り組みをまとめて職員会議等で発表し、その成果の普及を図る。

(6) 学校及び授業公開に関する基本的考え方：

千種高校では、今年度も11月に「公開授業週間」を設けたが、基本的にいつ如何なる時に来ていただいても良いのであり、事実今年度もお客様を何度か各教室にお連れして、授業の様子をご覧になっていただいたことがあった。そういった際も、本校の先生方や生徒たちは、お客様に「こんにちは！」と挨拶をして実に気持ちがいいのである。授業を非公開にするのではなく、いつでも公開するという土壌が出来上がってきていると言えよう。

従って、千種高校は…

「一年中いつでもオープンスクールです！」と申し上げておきたい。

千種高等学校オープンスクール

11月11日(月)～15日(金)

地域の皆様、
保護者の皆様、
中学生の皆さん、各校園の先生方
授業・部活動・施設、
そして
「元気で明るい千種高校生」
を見に来てください！

千種小中高連携講演会

(穴原市教委主催：穴原市青年期人権・同和研修会)

日時：11月13日(水) 13:20～14:40
会場：千種高校 体育館
演題：「夢をカタチに」
講師：救世忍者 乱丸さん (女子プロレスラー)
授業を振り回してリングに立ち続ける激闘しスラー「乱丸」さん。千種の小中高生に超イッソーを贈る！ 地域の皆様も是非下さい！

8 地域連携総合防災訓練（木造仮設住宅公開建築会）

総務部

平成25年度の防災訓練は、4月当初から取り組んできた「千種災害対策プロジェクト」の最終段階として、地域の数多くの方々のご協力を得て、本校体育館を会場に「25年3月避難所指定（宍粟市）」後初の「避難所運営訓練」という側面と、「木造仮設住宅公開建築」という一大プロジェクトを合体させて「地域連携総合防災訓練」と銘打って実施した。

今回の経験から、「防災避難訓練」は学校単独で行う時代は既に過ぎ去っており、地域と連携した運営と、中高生でもいざという時には地域の大きな力となることができるように自信をつけさせることが肝要であることを学んだ。

（写真等詳細は「千種災害対策プロジェクト」の項に譲る）

「地域連携総合防災訓練」実施要項

(1) 目的：

- ① 昭和38年7月11日千種川大水害を偲び、爾来50年を刻む機会とする。
- ② 本校体育館避難所指定（25年3月）を受け、地域との連携を確立する。
- ③ 「ひょうご安全の日推進会議選定事業—千種災害対策プロジェクト—」を推進する。

(2) 日時：平成25年11月23日（土・勤労感謝の日） 8:30～12:00

(3) 会場：兵庫県立千種高等学校 体育館等

(4) 方針：

- ① 全校登校日とし、「地域連携総合防災訓練」を実施する。
- ② 体育館内で木造仮設住宅実物大模型を建設し、そのノウハウを広く公開する。
- ③ 地元千草自治会と連携し、体育館避難所運営及び住民避難誘導訓練を実施する。
- ④ 地元消防署の指導を仰ぎ、救護・搬送及び救命救急訓練を実施する。
- ⑤ PTA及び千種高校を支援する会と連携し、炊き出し訓練を実施する。

(4) 内容：

- ① 8:30 SHR直後に地震発生・非常ベル → 体育館集合
- ② 8:35 点呼・確認後各班配備に付く（仮設住宅組立班[中学生10名、高校3年男子15名、住民避難誘導班[2年生27名]、救護班[1年生25名]、炊き出し班[3年生女子14名]）
- ③ 8:35 体育館木造仮設住宅建設準備開始（体育館入口付近コンパネ敷設・足場組、体操服・ヘルメット着用）、炊き出し班作業開始（調理室：PTA・支援する会）
- ④ 詳細別途作成：避難誘導計画、救護訓練計画等（救護役と怪我人役を分ける）
- ⑤ 9:20 千草自治会住民到着開始（入口は北側2カ所、下足用ビニール袋等配布）
- ⑥ 9:45 木造仮設住宅建設開会式（校長挨拶・来賓挨拶・協力団体紹介・棟梁紹介等）
- ⑦ 10:00 木造仮設住宅公開建前開始（代表生徒による実況中継アナウンス）
- ⑧ 11:30 上棟式
- ⑨ 11:50 閉会式（中学校長挨拶・連合自治会長挨拶・万歳三唱等）
- ⑩ 12:00 昼食（炊き出しカレー等）
- ⑪ 13:00 木造仮設住宅解体作業開始（中学生・高校3年男子）



9 兵庫県教育委員会学校訪問指導

教務部

今年度、本校は兵庫県教育委員会による学校訪問指導を2つお願いした。山間僻地にある千種高校にとって、生徒の現状や授業のレベル、そして施設の状況等を指導主事の先生方につぶさにご覧になっていただき、ご指導いただいて貴重な機会となり、非常にありがたいことであった。

(1) 体育保健課学校訪問指導日程【平成25年6月25日(火)】

① 学校概要説明

第2校時(9:35~10:25) 校長室

兵庫県教育委員会事務局体育保健課 松本敏尚 指導主事

② 研究授業

第3校時(10:35~11:25) 第1学年HR教室

保健(1年1組) 授業者 上山麻美 教諭

第4校時(11:35~12:25) 体育館

体育(2年1組) 授業者 福永順二郎 教諭(男子担当)

上山麻美 教諭(女子担当)

③ 研究協議《指導助言》

第5校時(13:10~14:00) 応接室

司会 教頭 原田尚昭

出席教員 福永順二郎 教諭

上山麻美 教諭

④ 諸表簿点検、学校施設・設備見学

第6校時(14:10~15:00) 校長室 他

⑤ 部活動見学等

放課後(15:15~16:00) グラウンド・体育館・剣道場等



(2) 高校教育課学校訪問指導(数学科)日程【平成25年11月8日(金)】

① 学校概要説明

第2校時(9:35~10:25) 校長室

兵庫県教育委員会事務局高校教育課 稲次一彦 主任指導主事

兵庫県立教育研修所情報教育研修課 藤原生也 主任指導主事

② 研究授業

第3校時(10:35~11:25)

・「数Ⅱ」2年チャレンジコース [選択教室Ⅰ]

授業者 照本和生 教諭

・「数Ⅰ」1年ベーシックコース [1-1HR教室]

授業者 坂根大樹 臨時講師

③ 研究協議《指導助言》

第4校時(11:35~12:25) 応接室

司会 教頭 原田尚昭

出席教員 照本和生 教諭 坂根大樹 臨時講師

④ 学校経営の重点及び現状報告《指導助言》

第5校時(13:10~14:00) 応接室

ア 各部・各学年の指導方針及び現状報告

出席教員 八十川洋一 (総務部長・第3学年主任)

松井利澄 (教務部長・第2学年主任)

福永順二郎 (生徒指導部長・第1学年主任)

角野陽介 (進路指導部長・第3学年担任)

上山麻美 (保健部長・第1学年担任)

イ 質疑応答・指導助言

⑤ 諸表簿点検・学校施設巡検《総括指導助言》

第6校時(14:10~15:00) 校長室



10 総合的な学習の時間

教務部

月	日	1年		2年		3年	
テーマ		体験を通して生き方を考える自己発見演習		自己理解と異文化		自己理解と進路実現	
4	15	4限	インプロ①	5限	インプロ①	6限	インプロ①
	22	振替休業日					
	29	昭和の日					
5	6	振替休日					
	13	4限	自己発見演習①	5限	グアム課題研究1	6限	進路実現に向けて①
	20	4限	インプロ②	5限	インプロ②	6限	インプロ②
	27	4限	インプロ③	5限	インプロ③	6限	インプロ③
6	3	4限	表現ノート①	5限	グアム課題研究2	6限	進路実現に向けて②
	10	4限	表現ノート②	5限	グアム課題研究3	6限	進路実現に向けて③
	17	振替休業日					
	24	4限	インプロ④	5限	インプロ④	6限	インプロ④
7	1	期末考査					
	8	4限	自己発見演習②	5限	グアム課題研究[班別]発表会	6限	進路実現に向けて④
	15	海の日					
9	9	4限	インプロ⑤	5限	インプロ⑤	6限	インプロ⑤
	16	敬老の日					
	23	秋分の日					
	30	4限	インプロ⑥	5限	インプロ⑥	6限	インプロ⑥
10	7	振替休業日					
	14	体育の日					
	21	中間考査					
	28	4限	インプロ⑦	5限	インプロ⑦	6限	インプロ⑦
11	4	振替休業日					
	11	情報モラル改善ルールについて(生徒会による発表及び啓発活動)					
	18	4限	表現ノート③	5限	修学旅行結団式	6限	個人発表準備1
	25	4限	表現ノート④	5限	振替休業日	6限	個人発表準備2
12	2	4限	自己発見演習③	5限	修学旅行[班別]体験発表準備	6限	個人発表準備3
	9	期末考査					
	16	4限	表現ノート⑤	5限	心のサポート実践研究発表会	6限	心のサポート実践研究発表会
	23	天皇誕生日					
1	13	成人の日					
	20	4限	表現ノート⑥	5限	修学旅行[班別]体験発表	6限	学年内個人発表会
	27	4限	個人発表準備1	5限	個人発表準備1	卒業考査	
2	3	4限	個人発表準備2	5限	個人発表準備2	「インプロ」とは、即興劇の手法を用いた表現力の育成法であり、本校では導入して5年になる。	
	10	4限	個人発表準備3	5限	個人発表準備3		
	17	4限	学年内個人発表会I	5限	学年内個人発表会I		
	24	4限	学年内個人発表会II	5限	学年内個人発表会II		

1 1 連携授業（中高・小高）の記録

教 務 部

平成 25 年度も、高校教員が小学校や中学校へ出かけて授業を行う「連携授業」（出前授業）を数多く実施した。高校生とはまた違った反応、新たなる発見、意外な難しさなど、高校教員にとって正に「教師としてかけがえのない経験」をさせていただいている。この千種町における「連携・一貫教育」は、他町では類を見ないものであり、これらの経験こそが教師としての視野を広げる上で人生の財産となっているのである。

(1) 連携授業実施記録

6月11日（火）	体育	3・4限	（於：中学校）
6月12日（水）	情報	5・6限	（於：中学校）
7月 2日（火）	体育	2・3限	（於：中学校）
〃	数学 I	（1年チャレンジコース）	6限（於：高校）
7月 9日（火）	体育	3・4限	（於：中学校）
8月26日（月）～28日（水）	中3生全員対象夏季補習（国数英）（於：高校）		
9月20日（金）	英語	5・6限	1・3年生（於：中学校）
10月16日（水）	ふれあい育児	1限	高2生（於：幼稚園）
10月23日（水）	ふれあい育児	1限	高2生（於：幼稚園）
10月23日（水）	体育	3限	小5（於：小学校）
10月25日（金）	理科	4限	小6（於：小学校）
10月25日（金）	英語	5・6限	2・3年生（於：中学校）
11月29日（金）	英語	5・6限	1・2年生（於：中学校）
12月11日（水）	体育	3・4限	（於：中学校）
12月12日（木）	体育	3・4限	（於：中学校）
12月13日（金）	社会	5・6限	（県庁ビジョン課出前授業：中2・高2、於：高校）
1月31日（金）	英語	5・6限	2・3年生（於：中学校）
3月 4日（火）	数学	中3生対象	（於：中学校）

【その他の連携授業】

10月15日（火）	英語	千種町英語教育研究会	1年生	（於：中学校）
12月 2日（月）	英語	〃	2年生	（於：高校）
2月 4日（火）	体育	小学校スキー教室	（1・2年生）	3年生6名が指導
2月 7日（金）	体育	〃	（3・4年生）	3年生7名が指導

(2) 連携授業点描



12-1 アクティブ授業（内）の記録

アクティブ担当 田中 孝英 ・ 金本 有加

○印 特別非常勤講師あり

月	2年（内）火曜 5・6時間目				3年（内）火曜 3・4時間目				1年（内）木曜 5・6時間目			
	日	講師	内容	備考	日	講師	内容	備考	日	講師	内容	備考
4	18	○ 写真① (公立前橋市に向けて)	学校付近（春の景色）		18		農業① 学校農園の手入れ					
	23	○ 木工① (公立前橋市に向けて)	ハンベルマンⅠ		23	○ 木工① (公立前橋市に向けて)	からくりおもちゃⅠ					
	30	○ 農業①	肥料やり・ジャガイモ植え付け		30	○ 写真① (公立前橋市に向けて)	下河野（ミツマタなどの撮影）					
5	7	○ 写真① (公立前橋市に向けて)	鏡ヶ森神社（春の景色）		7	○ 農業②	雑草（草花・トウモロコシ・きゅうりなど）		2	○ 太鼓①	文化祭発表に向けて	
	21	○ 農業②	ユリの球根植え、キャベツの苗植え		21	○ 写真① (公立前橋市に向けて)	ちくき高原（春の景色）		9	○ 太鼓②		
	28	○ 木工① (公立前橋市に向けて)	ハンベルマンⅡ		28	○ 木工① (公立前橋市に向けて)	からくりおもちゃⅡ		23	○ 太鼓③		
									30	○ 太鼓④		
6					4	○ 農業③			6	○ 太鼓⑤		
	11	○ 木工① (公立前橋市に向けて)	ハンベルマンⅢ		11	○ 木工① (公立前橋市に向けて)	からくりおもちゃⅢ		13	○ 太鼓⑥		
	15	文化祭	木工・陶芸・写真の展示				15	○ 太鼓⑦		14	○ 太鼓⑦	リハーサル
	18		木工作品の完成と写真選び・掲示				15	○ 太鼓⑧		15	○ 太鼓⑧	文化祭本番
	25	○ 農業④	きゅうりの苗植え、玉ねぎの収穫		25	○ 農業④	学校農園の手入れ					
9	10	○ 太鼓①	演奏会に向けて		10	○ 農業⑤	手入れ・ジャガイモの収穫					
	17	○ 太鼓②			17	○ 木工④	キーホルダー（カエル）					
	24	○ 太鼓③			24	○ 木工⑤	キーホルダー（カエル）					
					30		交通安全運動に参加（キーホルダー配布）					
10	1	○ 太鼓④			1	○ 農業⑥	調理実習（カレー）					
	15	○ 太鼓⑤			15	○ 農業⑥	人参・雑草（きゅうり・もろこしなど）					
	17	○ 太鼓⑥（本番）	波賀町・まどか園									
11	28	○ 木工④	動くおもちゃⅠ		28	○ 木工⑥	ハンガーⅠ					
	12	○ 木工⑤	動くおもちゃⅡ		12	○ 木工⑦	ハンガーⅡ					
					19	○ 写真②	瑠璃寺（秋の景色）					
	20		ちくきふれあいフェスタに木工作品と陶芸作品を出品（～21日）									
	28	○ 木工⑧	動くおもちゃⅢ		28	○ 木工⑧	ハンガーⅢ					
12	3	○ 写真③	ちくき高原（冬の景色）		3	○ 陶芸①（卒業作品）	陶器					
	21	○ 写真④	三室高原（雪景色）		21	○ 陶芸②（卒業作品）	陶器					
	28	○ 陶芸③ (公立前橋市に向けて)	陶器									
1	4	○ 陶芸④ (公立前橋市に向けて)	陶器		※陶器の焼き上がりは4月以降になります。							
	25	○ 陶芸⑤ (公立前橋市に向けて)	陶器									



※学校設定教科「アクティブ」は、生徒が様々な体験活動を通して各自の原点に立ち返り、「生きる力」を身につけることを目指している。

※学校設定教科「アクティブ」を通して、生徒たちは体を動かし、指先で感じ、肌で学び取ることの大切さを体得している。今や、本校の教育活動の重要な柱の一つとなっているのである。

12-2 アクティブ授業（外）の記録

アクティブ担当 福永 順二郎

(1) ゴルフコース実習

本校ではマナーと自分を律する気持ちを育てるため、また集中力を高めるために、公立学校では珍しいがゴルフを授業に取り入れている。「千草カントリークラブ」のご協力と、講師として村上登茂七先生のご指導のもと週2時間の基本練習をこなし、11月28日（木）にハーフ（9ホール）のコース実習を行った。2・3年生の13名を4班に分けそれぞれリーダーのもとコースを回った。半年間の総括と練習の成果を実践し、スコアカードをつけながらラウンドした。

実習も慣れてきたためラウンドの進行が早く、最後の班が終わるまでに2時間半で回ることが出来た。ティーグラウンドやグリーン上でのマナーを守り、スコアも60（9ホールで）を切る生徒もでており、コンペも盛り上がった。

今年度はゴルフ技術の向上も早く、2年生はグアムでの修学旅行でハーフ実習を行い、海外でのゴルフということで素晴らしい思い出が出来た。

(2) スキー実習

体で物事を覚えることの大切さを理解させるために地元の特性を生かし、数年前からスキー実習を取り入れている。最初はボーゲンもままならぬ生徒達が時間を追う毎に上達していく。1月に入って今年は雪も多くベストのコンディションで実習ができた。講師としてインストラクターの奥田慎一さんの指導のもと、生徒は技術の向上とスキー検定を目指して一生懸命に滑り込んだ。2月20日（木）のスキー検定では1級はゼロ、2級は3人、3・4級は全員が合格、1・2級は採点基準が変わり合格者が少なかったのが実情である。

本校において、これらの実習が年間を通じて可能となっているのは、千種町時代から始まる地元企業体（千草カントリークラブ、ちくさ高原スキー場）の全面的協力、及び千種町時代以来続いている宍粟市教育振興会による助成、そして地域の皆様方のご理解とご支援によるものである。我々教員は、この千種町にあって、豊かな自然・厳しい自然に立ち向かうことのできる「アクティブ」という授業を本校の誇りとしたい。

平成25年度アクティブ（外）年間授業

月	日	曜	講師	1年生	2・3年生	内容
				5・6時間目	3・4時間目	
	4	木				春休み
4	11	木	○	ゴルフ①	ゴルフ①	
	18	木	○	ゴルフ②	ゴルフ②	
	25	木	○	ゴルフ③	ゴルフ③	耳鼻科検診
5	2	木	○	太鼓①	ゴルフ④	
	9	木	○	太鼓②	ゴルフ⑤	
5	16	木	×			中間考査(14~17)
	23	木	○	太鼓③	ゴルフ⑥	
	30	木	○	太鼓④	ゴルフ⑦	
6	6	木	○	太鼓⑤	ゴルフ⑧	
	13	木	○	太鼓⑥	ゴルフ⑨	文化祭15(土)
	20	木	○	ゴルフ④	ゴルフ⑩	
	27	木	○	ゴルフ⑤	ゴルフ⑪	
7	4	木	×			期末考査(1~4)
	11	木				特編
	18	木				特編(1年野外活動)
9	5	木	○	ゴルフ⑥	ゴルフ⑫	
	12	木	○	ゴルフ⑦	ゴルフ⑬	
	19	木	○	ゴルフ⑧	ゴルフ⑭	
	26	木	○	ゴルフ⑨	ゴルフ⑮	
10	3	木	○	ゴルフ⑩	ゴルフ⑯	
	10	木	○	ゴルフ⑪	ゴルフ⑰	
	17	木	×			中間考査(17~22)
11	24	木	○	ゴルフ⑫	ゴルフ⑱	
	31	木	○	ゴルフ⑬	ゴルフ⑲	
	7	木	○	ゴルフ⑭	ゴルフ⑳	
	14	木	○	ゴルフ⑮	ゴルフ㉑	
12	21	木	△1・3年	ゴルフ⑯	ゴルフ㉒	修学旅行(19~25)
	28	木	○	×ゴルフ	ゴルフ㉓・㉔	ゴルフ実習
	5	木	○	ゴルフ⑰	ゴルフ㉕	
1	12	木				特編
	19	木				特編
	26	木				冬休み
1	2	木				冬休み
	9	木	△(3限~)		スキー①	課題考査(1・2年)
	16	木	○	スキー①	スキー②	
	23	木	○	スキー②	スキー③	
2	30	木	△1・2年	スキー③	スキー④	卒業考査(27~30)
	6	木	△1・2年	スキー④⑤⑥	×スキー	
2	13	木				連携型入試前日
	20	木	△1・2年	スキー	スキー⑤⑥⑦	スキー検定
	27	木	△4・5授業			表彰伝達式・予行



1 3 ロングホームルーム活動(LHR)

生徒指導部

生徒の自主性や協調性、そして生き生きとした学級集団を形成する上でロングホームルーム(LHR)の果たす役割は非常に大きい。年間の主な学校行事を成功させるために、生徒たちはLHRの時間を用いてアイデアを出し合い、意見を形成し、そしてクラスとしての具体的な動き方を決定する。千種高校でも、学年ごとに創意工夫を凝らしながら「こころ豊かな人づくり」を目指して、学級活動を展開しているのである。

月	日	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
4	8	入学式	始業式・入学式	始業式・入学式
	9	対面式	対面式	対面式
	10	担任講話・クラス委員選出	クラス委員選出	クラス委員選出
	17	進路調査	生徒総会	生徒総会
	24	中間考査に向けて	文化祭に向けて	文化祭に向けて(台本)
5	1	全校集会	全校集会	全校集会
	8	つっこコミュニケーション	中間考査に向けて	中間考査に向けて学習計画
	22	学年球技大会	文化祭に向けて	文化祭に向けて(配役)
	29	人権学習①	文化祭に向けて	文化祭に向けて(道具作り)
6	5	文化祭準備(役割分担活動)	文化祭準備(役割分担活動)	文化祭準備(役割分担活動)
	12	文化祭準備(ステージ・リハーサル)	文化祭準備(ステージ・リハーサル)	文化祭準備(ステージ・リハーサル)
	19	文化祭準備	人権学習①	推薦入試願書・履歴書作り方
	26	期末考査に向けて	期末考査に向けて	期末考査に向けて学習計画
7	10	水泳実習と大山登山について	学年レクリエーション	球技大会
	18	大山登山	夏休みに向けて 修学旅行事前学習①	自己PR練習・面接マナー指導
9	4	人権学習②	修学旅行事前学習②	職場見学・就職面接について
	11	教師による心にしみる良い話	修学旅行事前学習③	指定校推薦・面接練習
	18	体育大会の準備・役員改選	体育大会の準備・役員改選	体育祭準備・役員改選
	25	体育大会の練習	体育大会の練習	体育大会の練習
10	2	学年集会(講話)	体育大会の練習	体育大会の練習
	9	学年レクリエーション	ふれあい文化祭に向けて①	推薦入試・面接練習
	16	中間考査に向けて	ふれあい文化祭に向けて②	2学期中間考査の学習計画
	30	読書指導	ふれあい文化祭に向けて③	小論文指導
11	6	人権学習③	ふれあい文化祭を終えて	一般入試書類作成について
	13	進路ガイダンス	修学旅行に向けて	受験報告書について
	20	進路別バス見学会	修学旅行中	人権学習
	27	進路意識調査	人権学習②	センター試験・一般入試
12	4	期末試験に向けて	期末考査に向けて	期末試験に向けて学習計画
	18	1年間を振り返って	修学旅行写真注文	卒業文集作成
1	8	課題考査	今年の抱負	卒業文集作成
	15	いじめについて	進路希望(再)調査	学年レクリエーション
	22	スキー実習について①	人権学習③	卒業考査に向けて学習計画
	29	アクティブデイズ	職業適性検査	
2	5	アクティブデイズの反省	面接ビデオ	
	19	進路を考える	面接練習	
	26	学年末考査に向けて	学年末考査に向けて	
3	5	学年末考査	学年末考査	
	12	学力検査	学力検査	
	19	教科書購入・個人写真撮影		

1 4 平成25年度生徒指導の概要

生徒指導部長 福永 順二郎

(1) 25年度 問題件数

○問題行動：3件 喫煙行為 継続指導

※25年度は西播一問題件数が少なく西播一落ち着いた学校になっている。

○イエローカードの発行件数 15件 頭髪 ピアス

○いじめ件数 0件

(2) 25年度総括

2ヶ月おきの生徒指導目標（身だしなみ・挨拶）の徹底と、先生方のきめ細やかな指導のお陰で西播一落ち着いた学校になっている。しかし、その反面大きな問題行動はないものの全体的にもう少し元気が欲しいのも事実である。気になるのは運動部への加入率の低下であるが、これは遠方からバス等で通う生徒が増えてきており、時間的な制約もあるが故に個人種目に重点を置く運動部や比較的活動の負担の少ない文化部に加入する生徒が増えてきていることにも関連している。引き続き運動部への加入を勧めていく。

(3) 26年度生徒指導重要課題

本校の生徒は、中学時のトップ層を除いて学力の幅が広く、学年によっては中学時に不登校気味であった生徒や支援を必要とする生徒、或いは、まだ幼く自立が出来ていないと思える生徒もいることも事実である。この様な生徒に対して担任、学年団を中心に全員の教師が当たり、粘り強く育てていくことが更なる学校の安定につながると思う。

生徒一人一人にしっかりとした自覚を持たせ、前向きな学校生活を送らせ、自信を持たせることが必要である。中高一貫教育の定着を図り、地域に支えられ愛される学校作りのために、さらに安定した学校を目指し、良い伝統を築いていく。

(4) 目 標

- ・県下NO.1の学校作り（挨拶・ボランティア活動・清掃）
- ・問題行動ゼロ メリハリのある生活をさせる。
- ・いじめゼロ（弱い者が安心して登校できる学校）

< 具体的取り組み >

○躰教育の徹底 挨拶・服装・遅刻

○リーダーを育てる。（クラスや学校の核を育てる）

○クラブ活動の入部率を上げる（全入制）運動部で学校を活気づける。

○積極的なボランティア活動：人を思いやる心や奉仕精神を育てる。

※具体的な計画・・・志引峠のゴミ回収・千種高原の植樹・特別支援学校のスキー交流

○くじけない心、強い心の生徒を育てる・生徒に自信を付けさせ、積極性を養う。

各行事で達成感を養う。

○クラスがまとまる（3年間クラス替えがない、仲良くまとまる）、「和」の大切さ。

○いじめ0：生徒の観察や内面理解に努める。

昨今の時代の流れはあまりにも速く、ややもすれば価値観が多様化しているが故に何が正しくて何が間違っているのかという判断が難しい状況もあるが、「不易と流行」の教えにもあるように、「正しいものは正しい」として教師が毅然とした態度で教育に当たることが肝要である。

15 高校生心のサポートシステム実践研究 ―ネット利用問題改善運動―

高校生心のサポートシステム推進委員会

「学校規模や地域性などを学校の特性を生かした生徒指導プログラムの開発及び実践」
― 生徒主体のネット利用改善運動に取り組んで ―

(1) はじめに

本校は、今年度上記テーマに基づいて昨今緊急性が増しつつある「ネット利用」に関する問題の解決と生徒への支援に取り組んできた。特に、その方法論として、教師主導ではなく生徒会活動を主体として、各種の実態調査・分析・結果の報告・ネット利用方法の改善への呼びかけを行うことによって生徒自身の意識改革を進めてきた。その具体的な取り組みについて、以下の通り報告する。

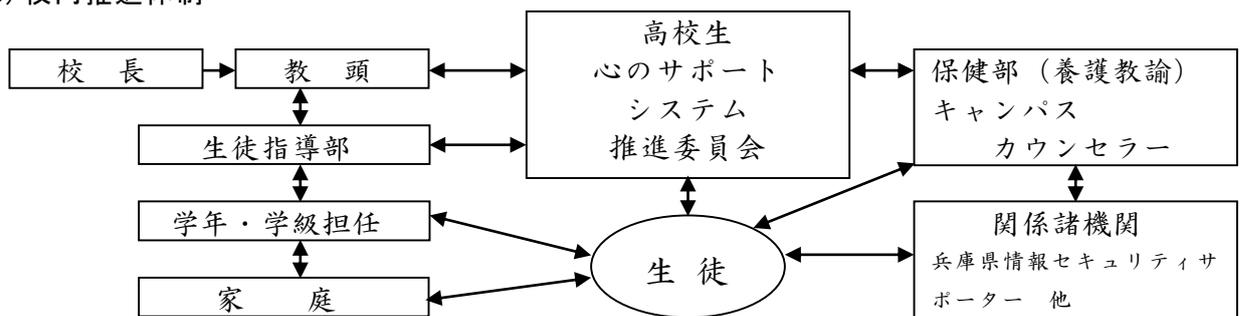
(2) 具体的実践方策

平成22年度から「連携型中高一貫教育校」として新たな歩みを始めた本校は、地域と一体になって教育活動を進めることが増え、高校生のみならず小学生や中学生の生活実態についても比較的よくわかるようになってきた。そこで見えてきたことは、千種町という山間僻地であっても、「ネット利用」に関しては既に都会との差は余り感じられず、我々の想像を遙かに超える形で携帯電話やスマートフォン、或いはLINEといったような新しい媒体、ゲーム機からでもつながるといった実態が浮かび上がってきている。

そこで、本校では以下の5点を柱として今回の研究課題に取り組んだ。

- ① インターネットや携帯電話等の利用実態を中心とした生活実態調査
- ② 生徒会役員と教員の協働による実態調査づくり
- ③ 生徒主体の実態調査分析・ネット利用ルールづくり・生活改善への呼びかけ
- ④ 全校生徒の家庭訪問（担任による生活実態把握・簡単なネット利用状況調査）
- ⑤ 1年生全生徒の体験カウンセリング実施（カウンセラー拡充策を有効活用）

(3) 校内推進体制



(4) 本年度の取組状況（4～3月）

- 4月 新入生中学校訪問（当該学年により、春季休業中に実施）
キャンパスカウンセリング年間計画作成（体験カウンセリング）
独居老人宅配食サービス 1年生体験カウンセリング実施（～7月）
- 5月 全生徒家庭訪問（情報機器利用状況調査） 独居老人宅配食サービス
「ちくさの郷」「ちくさ高原」花植えボランティア活動
- 6月 中高連携清掃ボランティア活動（志引峠、町内商店街）
独居老人宅配食サービス 第1回保幼小中高連携「生活しらべ」実施
心のサポート講演会「ネット利用の危険性と対処法」（1年生）[6/25]
〃 職員研修会「ネットの危険から生徒を守る」[6/28]

- 7月 学び直し・基礎学力充実補習実施 独居老人宅配食サービス
ネット利用状況実態調査作成作業（教員＋生徒会）
- 8月 保幼小中高連携教職員研修会（カウンセリング）[8/8]
学び直し・基礎学力充実補習実施 高校教師による中学生補習
- 9月 第1回ネット利用状況調査「情報スマートさんチェック」実施
独居老人宅配食サービス
- 10月 第2回保幼小中高連携「生活しらべ」実施 独居老人宅配食サービス
情報LHR「ネット利用を考える」＋第2回ネット利用状況調査[10/9]
生徒会執行部座談会「ネット利用ルール作り」（下旬）
- 11月 全校集会「千種高校情報モラル改善ルール」発表 [11/1]
保幼小中高合同「ふれあい文化祭」[11/3] 独居老人宅配食サービス
- 12月 第3回ネット利用状況調査
「心のサポートシステム」実践・研究発表会[12/16]
学び直し・基礎学力充実補習実施
- 1月 独居老人宅配食サービス
- 2月 第3回保幼小中高連携「生活しらべ」実施



(5) 成果と課題

① 成果

ア 生徒主体・手作りの実態調査及び生活改善活動

本校は、兵庫県情報セキュリティサポーター・篠原嘉一先生のご指導を常に仰ぎつつ研究に取り組んできた。その中に、「この問題に取り組むに当たっては、教師側からのルールの押しつけではなく、生徒に主体的に考えさせることが肝要である。」ということがあった。その点を押さえて、生徒会の生徒を中心に「生徒による手作りの実態調査」を夏休み期間中に時間をかけて作り、篠原先生による加筆修正の後9月初旬・10月・12月初旬の調査実施となった。この調査結果を基に、生徒主体によるルール作りを行ってネット利用方法の改善を図ることができた。

イ 生徒全体への波及効果・教師主導との違い

生徒主導の取り組みで以下のような生活改善の結果が見られた。

【学校では携帯の電源を切っている】 86%

【ネットでの発言に気をつけた】 98%

【意識や生活の変化】 家族や友人との会話が増えた。夜更かしをしなくなった。使用を控えるようになった。

【自分で決めたルールの例】

食事中は触らない。勉強中は触らない。歩きながら触らない。

【生まれた生活の変化】 睡眠時間が増えた。自由に使える時間が増えた。

② 課題

ア ネット利用の実態は千変万化であり、日々進化と言うべきか悪化と言うべきか、非常に大きな変化を遂げつつあるというのが実情である。今年度の研究で、ある一定の成果が得られたとしても、それはすぐに過去のものとなってしまっている。専門機関等との情報交換を常に行い、変化を即捉える眼を養っておかねばならない。

イ 千種町は、保幼小中高の結びつきが非常に強い。今年度も「ネット利用」の問題に関してよく情報交換を行い、互いの講習会・発表会に参加してきた。今後は、この動きを更に発展させて、小中高一貫のネット利用実態調査を実施し、各学校の保護者共に問題意識を共有しておくことが肝要である。

(6) 来年度への展望（今年度実施の各取組みに加えて実施したいこと）

- ① 小中高、地域一体となったネット利用実態調査の実施。
- ② ネット生活の改善方法を学んだ生徒たちによる、高齢者のネット問題見守り活動。
- ③ 高校生による、小中学生へのネット利用生活改善運動展開。

16 山と海の学校間交流（家島高校との交流記録）

生徒会担当 照本 和生・上山 麻美・戎原 進一・西 佑一郎

山の学校「千種高校」と、海の学校「家島高校」の交流が今年も行われました。夏は千種高校の生徒会12名が真っ青な家島の海へ。冬は家島高校の1年生と生徒会が白銀のちくき高原スキー場にやってきました。

(1) 海の交流【平成25年8月7日（水）】

B&G家島海洋センターにて交流会が行われました。朝早くに千種高校をバスで出発し、まずは姫路港に行き、そこからは高速船で家島へ。家島港に着くと、家島高校生徒会が私たちを歓迎してくれました。初めての地に千種の生徒は緊張と好奇心で初々しい表情をしていました。

交流では、自校の学校紹介から始まり、互いの学校の良い点や見習いたい点などを言い合い、充実したものとなりました。午後からは、カヌー体験をしました。一人乗りのカヌーはなかなかバランスを取ることも難しく、中には転覆した生徒もいました。家島の素晴らしい環境の中での貴重な経験を通じて、一回り成長したことと思います。



(2) 山の交流【平成26年1月27日（月）】

ちくき高原スキー場にてスキーを通じて交流を行いました。午前は開会式後、各グループで自己紹介をして、千種高校と家島高校の教員が各レベルの技術指導を行いました。今年はインストラクターとして奥田さんにもお世話になり、主に初心者の班を指導していただきました。

千種高校の生徒会は主に補助に付き、時折技術指導も行いました。教えていく中で、お互い徐々に仲良くなり、積極的に会話をできるようになりました。家島高校の生徒の中には初めてスキーをする生徒がいて、教えることの難しさを感じました。午後からは自由にスキーを楽しんでもらいました。家島高校生は時間いっぱいまで滑る生徒たちばかりでした。全員が怪我なく楽しく実習を終えることができ、忘れられない思い出になりました。



17 第39回千種高校文化祭

生徒会担当 照本 和生・上山 麻美・戎原 進一・西 佑一郎

今年度スローガン：「good!! ～魅せる仲間の和～」

(1) 日 程 6月15日(土)

9:20～ 9:30 集合・点呼	13:20～13:50 中高連携ステージ
9:30～ 9:40 開会式・セレモニー	14:00～14:20 2-1クラスステージ
9:50～ 9:55 1年アクティブ太鼓	14:30～14:50 3-1クラスステージ
10:00～10:20 選択音楽発表	14:50～15:10 中高連携ステージ
10:20～10:30 有志発表	15:10～15:15 クロージング
10:40～11:10 軽音楽ステージ	15:15～15:25 閉会式・表彰
11:20～11:40 1-1クラスステージ	15:30～ 片付け
11:40～13:00 昼休み(模擬店・展示)	
13:10～13:20 午後オープニング	



(2) 内 容

- ・ステージ 生徒会「オープニングダンス」 1年アクティブ「太鼓演奏」
選択音楽「小さな恋のうた(合唱・1年生)・Follow Me(ダンス・2年生)」
有志「歌唱(3年生)・ダンス(3年生)(2年生)」
軽音楽「バンド演奏」 中高「吹奏楽演奏」「校歌交換」
1-1クラスステージ「ドラえもん～のび太の宿題～」
2-1クラスステージ「インベーター」
3-1クラスステージ「ドラゴン桜」
- ・模擬店 PTA(カレー・バザー) 商工会連合会(焼き鳥・アイス)
野球部保護者会(炊き込みご飯・ねり天・ドーナツ・飲み物)
シルバー(フランクフルト) 英語科地域連携(クッキー)
生徒会(カップケーキ) パソコン部(手作りうちわ)
茶華道部(茶席)
- ・展 示 アクティブ(写真・陶芸・木工)・選択美術(デッサン・絵巻物)
茶華道部(生け花)

例年、午後から参加する千種中学校の生徒と合同で何かできないか、という思いから、今年度の新しい取り組みとして中高連携のステージでの吹奏楽演奏、それぞれの全校生徒による校歌交換を行いました。また、全学年が趣向を凝らしたクラスステージを作り上げ、全体を盛り上げることとなりました。また、PTA・千種高校を支援する会・千種町商工会などたくさんの方々に支援をしていただき、様々な模擬店を出していただきました。おかげさまで、千種町全体がひとつになって素晴らしい文化祭を開催することができました。



18 第39回千種高校体育大会

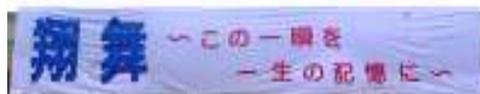
生徒会担当 照本 和生・上山 麻美・戎原 進一・西 佑一郎

今年度スローガン：「翔舞～この一瞬を一生の記憶に～」

(1) 期 日：平成 25 年 10 月 5 日（土）

(2) 内 容（プログラム）：

午前の部	午後の部（中高合同）
1 入場行進	P T A 会長挨拶
2 開会式	16 クラブ行進
3 ラジオ体操	17 中学校団体演技男子（組体操）
4 男女100m予選	18 中学校団体演技女子（ダンス）
5 男女200m予選	19 高校団体演技女子（ソーラン）
6 100人百足競争	20 高校団体演技男子（空手演舞）
7 障害物競走	21 中高選抜女子4×100mリレー
8 男女100m決勝	22 中高選抜男子4×200mリレー
9 男女200m決勝	23 フォークダンス
10 PTA競技	24 閉会式
11 綱引き	
12 大縄跳び	
13 高校女子4×100mリレー	
14 高校男子4×200mリレー	
15 仮装大賞	



少人数ながら一人一人が一生懸命に取り組み、とても力のある立派な体育大会となりました。天候不順にも拘らず地域の方々にも多数ご観覧いただき、大変にぎわいました。

また、準備の段階からクラス単位で放課後遅くまで残り、百足競争や大縄跳びの特訓、クラス旗や担任の先生への仮装などを通してクラスの団結が一層深まったように感じます。



午後は第5回の中高連携体育大会となり、中学生と高校生が交流を深めました。お互いの演技を披露したり、中学VS高校でリレーをしました。最後は恒例のフォークダンスでまとまりのある姿を見せてくれました。来年度も更に進化したものになればと願っています。天候不順の中、臨機応変に対応して頂いた中学校の先生方、本当にありがとうございました。

19 第5回千種中高連携マラソン大会

体育科主任 上山 麻美

(1) 目的：持久走の持つ特性を理解し、健康的な体力作りを目指して、仲間と支えあい完走する体験を持つとともに、たくましい精神力を養い達成感を味わう。

(2) 目標：全員完走を目指す！

(3) 期 日：平成26年2月7日（金）

(4) 大会日程：

10：10 開会式（千種高校体育館）
10：20 ウォーミングアップ（ 〃 ）
10：45 スタート地点に集合
10：50 スタート（中高生・男女同時スタート）
11：50 ゴール（千種高校玄関前）
12：00 閉会式（千種高校体育館）

(5) 走行距離：中学生 男子5キロ・女子3キロ 高校生 男子8キロ・女子5キロ

(6) 参加者：中学1・2年 男子32名（1年12名・2年22名）
女子28名（1年18名・2年10名）
高校1・2年 男子42名（1年21名・2年20名）
女子27名（1年16名・2年12名）

男子73名 女子56名 合計129人

(7) 大会記録：高校生男子8キロ 1位 荒尾 信輔（2年） 30分27秒
2位 井口 拓実（2年） 31分30秒
3位 秋久 侑太（2年） 31分34秒
高校生女子5キロ 1位 春名 志保（1年） 22分52秒
2位 高下 実由貴（2年） 23分23秒
3位 秋久 明（2年） 23分47秒



3学期はマラソン大会に向けて中学生も高校生も持久走に取り組みます。自己記録更新や完走を目標に懸命に走りました。5回目ともなると地域の皆様も楽しみにしてくださっている様子で、今年も小学生や地域の方々が沿道から熱い声援を送ってくださいました。「応援のおかげで、苦しくても頑張れます」と練習の時から大きな励みとなっていました。今回のマラソン大会もゴールテープを切るまで力を振り絞って力走する姿が見られ、生徒達は達成感を十分に味わうことが出来ました。

20 生徒会主催「百人一首大会」

生徒会担当 照本 和生・上山 麻美・戎原 進一・西 佑一郎

3月7日(金)3・4限に毎年恒例となっている生徒会主催校内百人一首大会が本校柔道場で盛大に行われました。今年は4人1組で行い、向かいの人と1対1で対戦する方式を採用しました。読み手は本校の国語科の先生方と原田教頭先生をお願いいたしました。上の句が始まるたびに会場は静まり返り、下の句が詠まれると歓びの声や悔しがめる声が一斉に沸き起こり、白熱した戦いとなりました。

1回戦で勝った者同士で2回戦、1回戦で負けた者同士で2回戦を行い、約2時間の戦いは幕を閉じました。結果は2年生が上位を占めましたが、1年生も2年生に負けまいと健闘しました。

異なる学年が一緒になって日本古来の伝統文化に触れるこの機会を今後とも大事にし、来年はさらに白熱した戦いが行われることを期待しています。

成績

勝者グループ1位 井口 拓実
2位 荒尾 信輔
3位 井口 裕香
4位 平瀬 加菜絵
5位 杉本 あずさ
6位 住江 幸紀

敗者グループ1位 荒尾 圭祐
2位 岸本 将宗



2 1 千種中高連携生徒会執行部ミーティング

生徒会担当 照本 和生

千種中学校と千種高校の生徒会は、平成22年度の「連携型中高一貫教育校」への改編以降、互いに集まって合同の「生徒会執行部ミーティング」を開催している。多くの連係行事を共に行い、中高の生徒同士が交流する機会も多い中で、生徒の視点から互いに更なる改善点を見出し、また新たなる方向性への着想が生まれる機会となっており、他の地域では余り見られない千種ならではの行事となっている。

(1) 日 時：平成26年3月20日（木）13:15～14:30

(2) 場 所：千種中学校会議室

(3) 司 会：高校副会長 記 録：高校書記

(4) 内 容：

① 高校生徒会長挨拶

② 自己紹介

③ 意見交換 『今年度の取り組みと来年度への課題』

ア 高校での取り組みについて

文化祭・球技大会（男子サッカー、女子バスケ）

妙見夏祭り準備

家島交流（夏は家島へ、冬は千種で）

宍粟市人権講演会司会

防災訓練司会

西播磨夢会議

百人一首大会（1，2年）

生徒会新聞の発行

イ 中学校での取り組みについて

ベルマーク、古切手、エコキャップ集め

早寝早起き朝ごはん運動

うがい手洗い体操

おすすめ本の紹介

ウ 中高合同の取り組みについて

美化活動 班編制を中高合同ではどうか。

文化祭 中高合同で1つのものを発表できたらよい。

体育大会 中高選抜リレーは中高混合チームがよい。

ふれあい文化祭 かかわりが少ない。

仮設住宅建前 全員が参加できるように工夫したい。

社会科授業 中高混合班で取り組むと違う意見も出たのではないか。

部活動 基本的に体験できる部が一つしかない。

※昨年度に続き「中高の生徒同士の関わりが少なかった」という意見が出た。

エ 来年度への提案事項

来年は何か中高全員もしくは生徒会合同で出来るものはないか。

・中高合同での劇

・球技大会（中高混合チームで）

キックベースボール・グランドゴルフなど。運動の苦手な生徒も行えるスポーツ。

・千種巡り（登山など）、スタンプラリー（地域の方々も一緒に）

・中高各学校に展示スペースを設ける（各校の活動を把握）

※行事の精選（増やすばかりでは各校の負担になるので今行っている行事をもっと充実させることが重要）

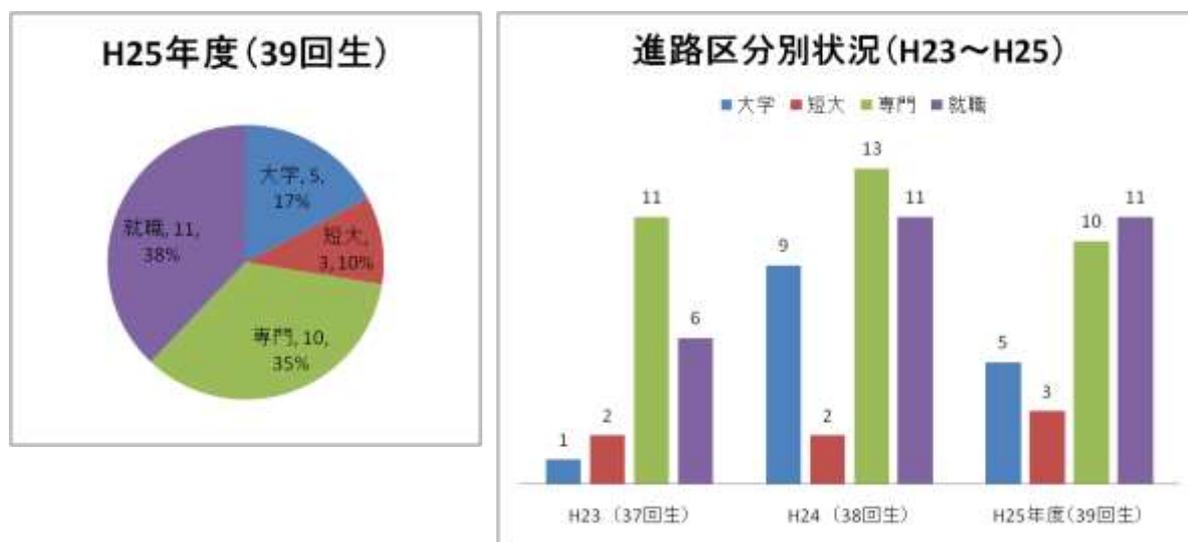


2 2 3 9 回生進路状況報告

進路指導部長 角野 陽介

(1) 本年度の取り組み

29名の卒業生の内、大学進学者は5名(17%)、短大進学者は3名(10%)、専門学校進学者は10名(35%)、就職者は11名(38%)であった。昨年と比べると、大学への進学者数が減少したが、専門学校進学者や就職者は昨年と同様であった。特に看護系や食物栄養系への進学者が増加した。進学生徒は推薦入試や一般入試に向け、教科の補習を一生懸命取り組み、合格することができた。小論文や面接練習では個別指導によって力をつけ、結果を残すことができた。就職については、夏休みに進学補習と同様に前期、中期、後期と補習を行った。履歴書作りや面接練習をする中で、徐々に就職に対する意識が高まり、多種多様な職種において就職を決定させることができた。



(2) 就職および進学動向について(兵庫県進路指導研究会より)

- ① 就職状況は改善の方向に進んでいる。サービス関連企業、医療福祉関連の企業を中心に昨年度まで求人を控えていた企業が求人を増やしている。依然として製造業は求人を手控えている。男子は求人数微増、女子は減少している。絶対数の減少と希望職種の求人がないことから進学へ流れている。兵庫県高等学校の就職内定率は89.3%(1月末)と微増である。西播磨地区(たつのハローワーク管轄内)は昨年と比べほぼ横ばいである。
- ② 専門学校のAO入試早期化が問題になっている。夏休みまでに内定を出し、9月以降に調査書だけを提出させる学校が増えている。

(3) センター試験後進路検討会について

昨年度に続いて、今年度もセンター試験後の進路検討会を1月22日(水)の放課後に実施した。受験者の自己採点に基づくデータを受験大手の業者に送り、その結果返ってきた全国データを活用して、各生徒の受験先を検討し、更に合格可能性の高い所はないかと、参加教員全員でコンピュータ画面上の検索結果をにらみながら議論を進めた。受験生の志願先を検討することもさることながら、本校においては若手の新任教員が多い中でデータ活用の方法や進路指導の在り方について研修のできる貴重な機会となっている。

進路検討に用いた資料及びコンピュータシステムの詳細については、別項で記録しているのでそちらに譲るが、今後はさらに深く進路指導の在り方について研究し、教員間で情報を共有するとともに、国公立大学の推薦入試突破の方法など、本校にとって未開拓の分野についても研修を重ね、意欲的に挑戦していくことが強く求められている。

(4) 進路状況

(1) 大学		(○は合格のみ)	
学校名	学部・学科	勤務地／入試区分	合格件数
神戸学院大学	法学部法律学科	一般推薦 (併願)	1
近大姫路大学	看護学部	一般推薦 (併願)	1
神戸夙川学院大学	○観光文化学部観光文化学科	一般推薦 (併願)	合格のみ
京都外国語大学	イタリア語学科	一般推薦 (併願)	1
福山平成大学	看護学部	一般推薦 (併願)	1
園田学園女子大学	人間健康学部食物栄養学科	一般推薦 (併願)	1
大学進学者数			5

(2) 短期大学		(○は合格のみ)	
学校名	学部・学科	勤務地／入試区分	合格件数
三重短期大学 (公立)	生活科学科食物栄養専攻	一般入試	1
神戸女子短期大学	○食物栄養学科	一般入試	合格のみ
東大阪大学短期大学部健康栄養学科	健康栄養学科	一般推薦 (併願)	1
湊川短期大学	幼児教育学科	指定校	1
短期大学進学者数			3

(3) 専門学校		(○は合格のみ)	
学校名	学部・学科	入試区分	合格件数
日本調理製菓専門学校 (みかしほ学園)	調理+製菓Wライセンスコース	A○	1
但馬技術大学校	○建築工学科	一般入試	合格のみ
神戸スポーツアート cocoro 専門学校	まんが学科	A○	1
姫路情報システム専門学校	情報システム科ITスペシャルコース	指定校	1
トヨタ神戸自動車大学校	自動車整備科	一般推薦 (併願)	1
大阪ウェディング&ブライダル専門学校	ウェディングプランナー科	A○	1
旭川荘厚生専門学院	第1看護科	一般入試 (前期)	1
姫路医師会看護専門学校	看護学科	一般推薦 (専願)	1
津山中央看護専門学校	看護学科	一般推薦 (専願)	1
大阪外語専門学校	国際観光・ホテル・ブライダル学科	A○	1
パンタンデザイン研究所	ヘアメイクアーティスト学科	A○	1
専門学校進学者数			10

(4) 就職			
企業名	仕事内容	勤務地	合格件数
自衛隊	自衛官候補生		1
株式会社日本エアテック	機械工	明石市	1
特別養護老人サンホームみかづき	介護職	佐用郡佐用町	1
株式会社 横山基礎工事	土木施工、建設機械の操作修理点検等	佐用郡佐用町	3
協同組合 兵庫木材センター	機械による木工加工作業	宍粟市一宮町	1
株式会社 みはら美容室	ヘアメイク・アシスタント	神戸市	1
株式会社 ニチフレ千草	組立工	宍粟市千種町	1
社会福祉法人まどか園	介護職	宍粟市一宮町	1
就職者数			10

上記の結果は、大規模な他の伝統校等と比べれば決して華々しいものではないかもしれない。しかし、この進路結果を浅田校長が中高合同職員会議で報告された時、拍手がわき起こり、涙を流して喜んでいただいた千種中学校の先生方の「思い」や「まなざし」があつてこそ、生徒たちは有意義な高校生活3年間を送ることができたのだということを、決して忘れてはならない。

23-1 進路ガイダンス

進路指導部長 角野 陽介

(1) 3学年進路ガイダンス

- ① 日時：6月3日（月）5、6限目
- ② 対象生徒：3年生
- ③ 企画運営会社：株式会社ライセンスアカデミー
- ④ 参加校：大学4校、短大1校、専門学校14校
- ⑤ 内容：学校別説明会（進学希望者）面接指導（就職、推薦希望者）



(2) 全学年進路ガイダンス

- ① 日時：7月9日（火）3、4限目
- ② 対象生徒：全学年生徒
- ③ 企画運営会社：株式会社さんぼう
- ④ 参加校：短大1校、専門学校10校、さんぼう講師3人
- ⑤ 内容：職業理解（1、2年生徒）
進学 AO 推薦入試対策（3年進学希望者） 就職模擬面接指導（3年就職希望者）



(3) 1・2学年進路ガイダンス

- ① 日時：2月21日（月）5、6限目
- ② 対象生徒：1・2学年生徒
- ③ 企画運営会社：株式会社ライセンスアカデミー
- ④ 参加校：大学2校、短大2校、専門学校9校
- 2 内容：大学短大希望者……出前授業
就職・専門学校希望者……職業別体験授業



生徒が希望する進路が様々であるため、大学や短大、専門学校、就職とバランスよく講師の先生方に来ていただいた。本校では、このような機会を多く設けて生徒の進路に対する意識を高めるとともに、学年ごとに阪神間の大学や専門学校及び企業等への訪問を企画・実施している。

23-2 模擬試験・進路検討会

進路指導部長 角野 陽介

(1) 模擬試験について

1 年

	実施日	名称(実施団体)	受験生徒数
①	6月29日(土)	総合学力テスト・7月(ベネッセ)	10人
②	11月2日(土)	総合学力テスト・11月(ベネッセ)	10人
③	1月25日(土)	総合学力テスト・1月(ベネッセ)	10人

2 年

	実施日	名称(実施団体)	受験生徒数
④	6月29日(土)	総合学力テスト・7月(ベネッセ)	9人
⑤	7月8日(土)	医療系模擬試験(さんぼう)	5人
⑥	11月2日(土)	総合学力テスト・9月(ベネッセ)	9人
⑦	1月25日(土)	総合学力記述模試・1月(ベネッセ)	9人
⑧	2月2日(日)	看護医療模試(東京アカデミー)	5人
⑨	2月2日(日)	公務員模試(東京アカデミー)	5人
⑩	2月8日(土)	センター試験早期対策模試・2月(ベネッセ)	9人
⑪	3月15日(土)	看護医療受験対策模擬試験(東山学館)	5人

3 年

	実施日	名称(実施団体)	受験生徒数
⑫	5月6日(土)	総合学力記述模試・5月(ベネッセ)	10人
⑬	6月8日(土)	総合学力マーク模試・6月(ベネッセ)	9人
⑭	6月18日(火)	医療系模擬試験(さんぼう)	6人
⑮	6月29日(土)	総合学力記述模試・7月(ベネッセ)	9人
⑯	9月21日(土)	第1回ベネッセ・駿台マーク模試(ベネッセ)	9人
⑰	10月12日(土)	第2回ベネッセ・駿台マーク模試(ベネッセ)	9人
⑱	11月5日(火)	第3回ベネッセ・駿台マーク模試(ベネッセ)	9人

(2) 進路検討会(センター試験後)実施概要

- ① 日時：平成26年1月22日(水) 15:40~17:00
- ② 場所：応接室
- ③ 参加者：教頭、進路部長、3学年団、1・2学年担任、補習担当者(国数社理英)、
- ④ 内容：ア センター試験自己採点集計結果と志望校について(進路より)
 イ FINE SYSTEM(Compass)の利用方法について(進路より)
 ウ 参考資料(過去4年間のセンター試験受験者)について(進路より)
 エ FINE SYSTEM(Compass)を使って志望校について意見交換
- ⑤ 準備物：パソコン(Compassダウンロード済み4台)



2 4 平成 2 5 年度実施の健康教育

保健部(養護担当) 小林 愛

(1) 救命救急講習会

- ・日 時：平成 25 年 7 月 16 日 (火) 8:35～11:25 [於：本校格技場 2 階柔道場]
- ・対 象：全校生徒
- ・講 師：西はりま消防組合宍粟消防署千種出張所 消防隊員
- ・内 容：各学年 1 時間ずつ、AED の使用を含めた心肺蘇生法の実技講習を行った。
また、千種町の救急の現状や心肺蘇生の意義等についての講義も受けた。



1 年生の感想

心肺蘇生は、今までにも何度か講習でやったことがあったけれど、1 年経ったら正確には覚えていませんでした。毎年繰り返して学ぶことがとても大切だと感じました。また、心肺蘇生の重要さも再確認することができました。これから、もしそういう場面に遭遇したときは、人任せにせず迷うことなく自分から倒れている人の元へ駆けつけたいです。

2 年生の感想

毎年この講習会を受けているけれど、人命救助って本当に大変で大事なことなんだと改めて思いました。それと、AED が完全に命を助けてくれるのではなく、あくまで補助だということも教わって、人工呼吸や心臓マッサージがどれほど大切なのかということも学ぶことができました。これから先、自分の周りでこういった状況が起こるかもしれないと思うと、大きな不安もありますが、1 分でも 1 秒でも早く命を助けることができるように、ためらわずに人命救助をしたいと思いました。

3 年生の感想

高校生になってから 3 回目の救命救急講習会で、1、2 年生のときと比べてスムーズにできるようになっていたけれど、実際に倒れている人を目の前にしたら動揺してしまって対応できないかもしれないと思いました。でも、今日学んだことを活かせるようにしたいです。知らなかったことも学べて、とてもいい勉強になりました。

(2) 職員研修会

① 小中高教員救命救急講習会

- ・日 時：平成 25 年 6 月 19 日 (木) 16:00～17:30 [於：千種中学校玄関ホール]
- ・講 師：西はりま消防組合宍粟消防署千種出張所 消防隊員
- ・内 容：小中高合同の講習会を実施し、AED を用いた心肺蘇生法の講義や実技講習を受けた。ダミーを使って心肺蘇生法の流れを理解、確認した。

② 幼小中高合同教育相談研修「カウンセリングマインド うつを考える」

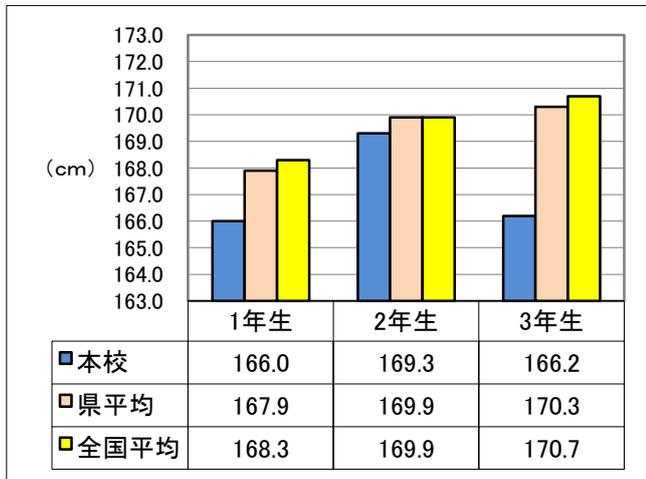
- ・日 時：平成 25 年 8 月 8 日 (木) 13:30～16:30 [於：センターちくさ 4 階大会議室]
- ・講 師：中高キャンパスカウンセラー 田邊 裕樹 先生
- ・内 容：幼小中高合同で教育相談の研修会を実施し、うつ病の診断基準やうつを生み出す背景について講義を受けた。

2 5 身体測定の結果

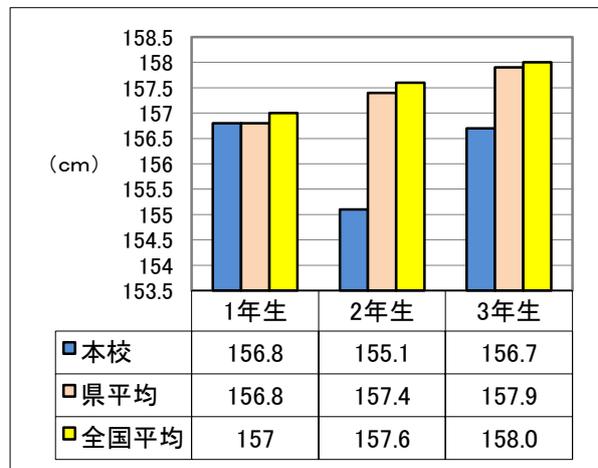
実施期日：平成 25 年 4 月 9 日（火）

保 健 部

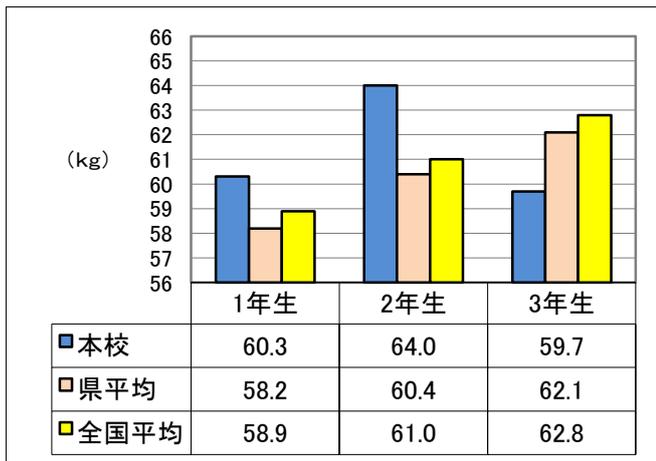
1 身長 【男子】



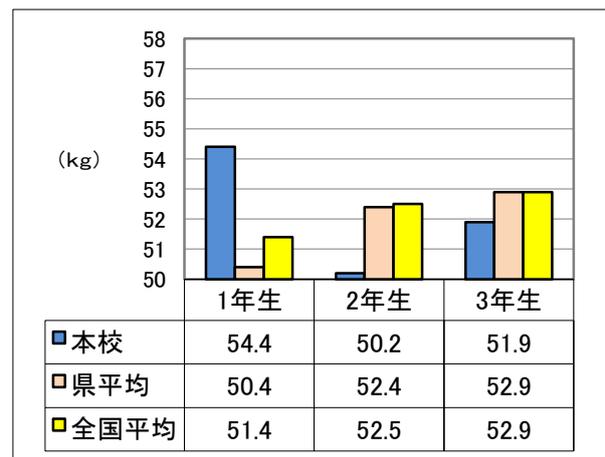
【女子】



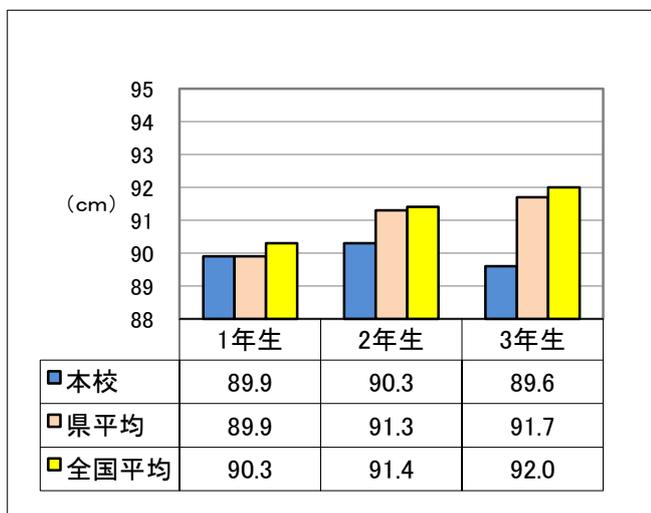
2 体重 【男子】



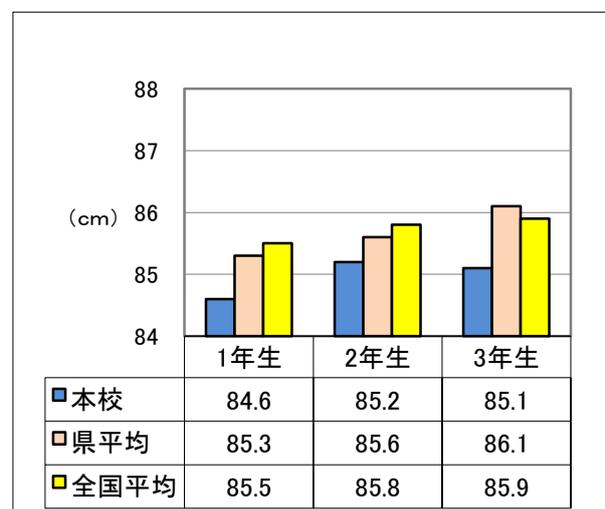
【女子】



3 座高 【男子】



【女子】



26 教育相談活動（キャンパスカウンセリング）

保健部・生徒指導部教育相談係

(1) 構成委員

キャンパスカウンセラー 田邊 裕樹 先生〔臨床心理士〕

(2) 相談者の決定

- ・ 全校生徒に「キャンパスカウンセリングのお知らせ」を配布し、本人または、保護者より希望があった者（4～7月は「1年生体験カウンセリング」を含む）
- ・ 日々の教育相談活動の中で必要と思われる者
- ・ 担任より要請のあった者

(3) 平成25年度実施状況

第1回	4月16日（火）	生徒 3名
第2回	5月13日（月）	生徒 6名
第3回	5月20日（月）	生徒 6名
第4回	5月27日（月）	生徒 7名
第5回	6月 3日（月）	生徒 5名
第6回	6月10日（月）	生徒 6名
第7回	6月20日（木）	生徒 6名
第8回	6月24日（月）	生徒 6名
第9回	7月 1日（月）	生徒 5名
第10回	7月 8日（月）	生徒 1名
第11回	9月 5日（木）	生徒 4名
第12回	9月 9日（月）	生徒 2名
第13回	9月17日（火）	生徒 2名
第14回	9月30日（月）	生徒 3名
第15回	10月21日（月）	生徒 1名 保護者1名
第16回	10月28日（月）	生徒 3名
第17回	11月 6日（月）	生徒 2名
第18回	11月11日（月）	生徒 3名
第19回	12月 3日（火）	生徒 1名
第20回	12月 9日（月）	生徒 2名
第21回	12月16日（月）	生徒 2名
第22回	1月20日（月）	生徒 4名
第23回	1月27日（月）	生徒 3名
第24回	2月 3日（月）	生徒 1名
第25回	2月10日（月）	生徒 2名
第26回	2月24日（月）	生徒 1名
第27回	3月 3日（月）	0名 養護担当と意見交換
第28回	3月 6日（木）	生徒 2名 教員1名 職員研修会
第29回	3月10日（月）	生徒 2名
第30回	3月17日（月）	生徒 2名
計		生徒93名 教員1名 保護者1名

(4) 相談内容

友人関係、進路・学習、性格、異性・性、その他

(5) 教育相談の方向性

平成25年度は、全国的にいじめや自殺の問題、学校教員の体罰の問題が大きくとりあげられ、各学校に於ける日常的な生徒観察や教育相談の重要性が叫ばれた年であった。来年度は教育相談委員会の更なる充実を図り、より機能的に対応できる教育相談としたい。

27 人権教育の概要

人権教育担当 西 佑一郎

1 推進委員会の活動内容等

(1) 活動内容

月	回数	内容
4	1	人権教育推進計画の立案
10・11	3	人権作文の選定

(2) 教職員研修会（校内）

月	種別	課題	内容	講師名（所属等）	資料名等
6	イ	シ	情報モラル研修会	篠原嘉一（兵庫県情報セキュリティサポーター）	
12	イ	シ	ネット利用問題実践・研究発表会	篠原嘉一	
成果	ネットを利用する際にどのようなリスクが生じるのか、またトラブルに巻き込まれないようにするためにはどのような指導が必要なのかについて、職員全員で共通理解を深めた。				

(3) 教職員研修会（校外）

月	名称	場所	参加者数
6	県立学校人権教育担当教員等研修会	加東市	1人
11	人権教育講演研修会	姫路市	
成果	同和問題をはじめ、さまざまな人権問題を解決しようとする子供たちの意欲、態度、実践力を高めるために必要な指導のあり方について理解を深めることができた。		

2 各領域等における取組

(1) 各教科・科目

学年	教科	科目	課題	内容
1年	家庭 現代社会		イ ク	男女共同参画社会の具体化に向けた人権意識の高揚。 異文化理解と他民族共生に向けて。
2年	情報 日本史		シ カ	ブログやメールを通じたコミュニケーションにおける人権感覚の涵養。 身分制度・人権思想についての理解。
3年	生物 国語		ア ア	環境問題と生命倫理。 戦争文学教材の読解による国際平和の尊重。
4年				

(2) 特別活動

ア ホームルーム活動

学年	月	時数	課題	内容	講師名（所属等）	資料名等
1年	7 10	3	ア	命の大切さ、命のつながりに向き合おう 「孤立」から「つながり」、そして「支え合い」へ 人権文化の創造に向けて		HUMAN RIGHTS 1～6
2年	7 1	3	ア	多文化共生社会への虹の架け橋 インターネットの向こう側 多様な働き方と生き方が選択できる社会に向けて		HUMAN RIGHTS 7～12
3年	7 12	2	ア	公正な採用選考に向けて 震災の教訓を次世代の子どもたちへ		HUMAN RIGHTS 13～18
4年						

イ 生徒会活動

月	課題	内容	講師名（所属等）	資料名等
8・1	ア	家島高校との学校間交流		
12	シ	ネット利用問題実践・研究発表会	篠原嘉一 (兵庫県情報セキュリティサポーター)	
8	セ	消費生活実践学習		

ウ 学校行事

月	課題	内容	講師名（所属等）	資料名等
6	ア	中高連携美化活動		
11	ア	小中高連携講演会「夢をカタチに」	救世忍者乱丸 (プロレスラー)	
6・10	ア	中高連携文化祭・体育大会		

(3) 総合的な学習の時間

月	課題	内容	講師名（所属等）	資料名等
10	ア	ふれあい育児体験		
4～11	ア	インプロ学習	長谷中りえ・國分宏美 (プレス and プレス)	
1	ア	一年生就業体験		

(4) その他（課外活動の状況等）

ボランティア部の町内独居老人への配食・地域ボランティアへの参加（①町内にある老人ホームでの太鼓演奏や音楽選択者による楽器演奏、ダンス披露など②町内にある寺主催の野外活動の参加）・地域行事への積極的参加
--

3 教育上特に配慮を要する生徒に対する取組

個別の指導計画を作成し、必要に応じて教員と生徒、一対一のきめ細かい教科指導を行った。
--

4 本年度の成果と課題

今年度の主だった成果としては、保幼小中の児童・生徒、地域の方々との交流を通じて、社会性が養われたこと、及び情報モラル教育での、生徒が主体となったルール作りができたことの2点が挙げられる。今後も、これまでの内容をさらに充実させ、生徒の自主性と規範意識を高めていくことが課題である。

人権学習指導案 指導者 松井 利澄 教諭

- I 学年基本目標
様々な差別について考える。
- II 指導案 第二学年 実施日 平成25年7月18日（木）
- 1 主題 「互いに共生する心をはぐくもう」
- 2 目標
(1) 自他の違いに気付き、お互いの文化を尊重すべきものとして認め、受け入れようとする。
(2) 外国籍の人たちを取り巻く現状や課題を正しく理解し、自分も外国籍の人たちも共に社会の一員であることを認識する。
(3) 異なる文化や生活習慣に対し、偏見を持たず公平・公正な判断力をもつことができる。
(4) 異なる文化や生活習慣、宗教、言語など多様な価値観を尊重しあえるような態度を身につける。
- 3 指導計画 1時間（本時は2時間目）
- 4 資料 (1)配布プリント2枚
- 5 展開

	生徒の活動内容	指導上の留意点
導入	・「虹のように」を読んで、異文化間の違いにより生じる問題に目を向ける。	・国際化が進んでおり、海外に行かなくても仕事や旅行などで国内でも外国人と関わる機会が増えていることも押さえる。 ・外国人であることによる苦悩を読み取らせ、『あってもよいらちがい、あってもいいいらちがい』に繋げる。
展開	◎ケーススタディ 「あいのちがい」 ◎活動 1～9の項目について「あってもよいちがい」「あってもいいいらちがい」に分類し、それぞれ「番号」の欄に記入する。判断が難しい項目は「どちらともいいえない」とする。	・「あってもよいらちがい」に文化や個性の多様性を尊重できるように留意する。 ・「あってもいいいらちがい」に気付くとき、人権尊重の視点と差別に気付く判断力をもたせる。

る特徴」に記入する。	
◎話し合い 各グループで話し合い、グループの意見をまとめ、①に記入する。 各グループごとに意見を発表する。	・自分の意見を述べるだけでなく、他の人の意見にもよく耳を傾けるよう注意を促す。 ・正解を求めることにとらわれず、自分とは異なる視点や発想に気付かせるよう促す。
ま	真の「国際人」とはどのような人なのかを考える。
と	一人3つの付箋に書き出し、キーマードをまとめてグループでまとめて発表する。
め	・自分と同様に他者を尊重し、理解し認め合うことが必要であることを確認させる。 ・様々な価値観をもつ相手と、より望ましい人間関係を築こうとする日常生活の中での努力や行動が、「国際人」としての資質を高めることにつながることに気付かせる。

6 実践のまとめ

- (1)生徒の感想より
- ・能力が同じであるのに、外国籍であることを理由に就職などの機会が不利になる現実を変えていかなければならないと思った。
 - ・外国人と話をするとき、日本人として自分の国の文化を説明できるようにしたい。相手の国の良い面も勉強し、互いに尊重しあえるような関係をつくりたい。
 - ・外国人に参政権を認めるかどうかというのはいかに難しい問題だと感じた。
 - ・先進国のなかで死刑制度があるのは日本とアメリカくらいだというのを聞いて驚いた。むしろヨーロッパの国々に死刑制度が多いイメージがあった。イメージで判断せず、異なる文化に対してもっと深く知ろうとすることが大切だと感じた。
- (2)総括
- 異文化とつきあひ、理解することは、日常生活において他者とつきあひ、理解することと連じる行為である。生徒の感想にもあるが、異文化を理解するためにはまず自分の属している文化を理解し、説明できるようになる必要があるということに気づかせることができた。理解しがたいものに出会った時、拒絶するのではなく、理解しようとする姿勢が大切なのだとということを伝えることができたのではないかとと思う。

28 第1学年「皆生・大山野外活動」

第1学年担任 上山 麻美

- (1) 目的：大自然の中で集団行動を通じて、達成感、成就感を味あわせる。
- (2) 日時：平成25年7月17日（水）～18日（木）
- (3) 行先：皆生温泉海水浴場／国立公園大山
- (4) 詳細：

①7月17日（水） 晴れ

- 8:40 学校出発
- 12:40 皆生ライフセービングクラブの指導による水泳実習他
- 16:00 皆生海岸出発
- 18:30 宿舎「山香荘」着
夕食・レクリエーション・入浴
- 22:00 就寝

②7月18日（木） 雨

- 6:00 起床
- 8:00 悪天候のため登山は中止
- 10:00 境港市にて「水木しげるロード」等を散策
- 16:00 学校帰着



1日目は、「皆生ライフセービングクラブ」の方々のご指導のもと、海での泳ぎ方や人命救助の方法などを学びました。また、ライフセーバーの方が実際に行っているトレーニングを体験しました。ランニングとスイミングを30分間ひたすら繰り返すという過酷なトレーニングでした。それぞれがペースを守りながら一所懸命に取り組みました。普段は体験することのない海での活動でしたが、熱い日射しにも負けず、生徒たちは意欲的に生き生きとした表情をみせ、充実した一日となりました。

2日目は、希望を抱きつつ大山の麓まで向かったものの、降雨と深い霧のため現地ガイドの方の助言も得て登山を中止。境港市にて「水木しげるロード」を散策し、帰途に就きました。後半は残念でしたが、一泊二日の集団生活を通じて、教師や仲間との交流を図ることが出来ました。

29 第1学年「就業体験」(アクティブデイズ)

第1学年担任 上山 麻美

(1) 目的:

- ① 就業体験を通じて地元の産業を身近に感じさせるとともに、働くことの厳しさを知り、社会人としてのマナーを身につけさせる。
- ② スキー技能の習得及び更なる向上を通じて、新たな事を学ぶ楽しさと目標に向かって努力する姿勢を養う。

(2) 日程:平成26年1月30(木)・31(金) 9:00~15:30



2日間、ちくさ高原スキー場において就業体験とスキー実習が行われました。就業体験で、リフト乗り場、レンタルショップ(個人・団体)、レストラン、宿泊施設で仕事をさせていただきました。慣れない仕事で緊張した表情だった生徒も、終わるころには自然な笑顔で元気よくお客様に挨拶や応対をしていた光景は見ていても気持ちがよかったです。特にレストランで働く生徒の中には、昼食時のピークを過ぎてからは、自ら進んで仕事を探して行っていたのが印象的でした。

就業体験を終え、生徒たちの疲れと同時に浮かぶ明るい表情に、充実感・達成感が溢れていました。お客様に「ありがとう」と言っていただけであった時の喜び、苦手なスキーに挑戦して滑られた時の喜びなど、この2日間を通して生徒全員が実りある時間を過ごすことができたことと思います。短期間ではありましたが、生徒への指導や温かい励ましのお言葉などをかけていただいた「ちくさ高原スキー場」の従業員の皆様、本当にありがとうございました。



30 第40回生修学旅行

第2学年主任 松井 利澄

- (1) 日 時：平成25年11月18日（月）～11月22日（金） 4泊5日
- (2) 参加生徒：第2学年 男子20名、女子11名 計31名
- (3) 引率職員：浅田校長（団長）、松井（学年主任）、照本（学級担任）、小林（養護）
- (4) 行 程：

1日目<<11月18日（月）>>

16：00 学校発 20：00 関西国際空港着 22：00 関西国際空港発（KE733）
透き通った海とサンゴ礁に囲まれた「トロピカルアイランド」グアムへ。

2日目<<11月19日（火）>>

ホテル到着後、仮眠休憩（4:00～10:30 まで）

昼食後、観光へ出発

ホテル・・・島内観光・・・ホテル・・・ホテル到着後、ウォーターパークにて自由行動

12：30 16：00 ※18：30 より夕食

恋人岬、アサンオーバーロック、ラッセストーン公園など

3日目<<11月20日（水）>>

ホテル・・・学校交流・・・ココパームガーデンビーチ（昼食込）・・・ホテル
8:30 9:00 12:30 13:30 17:00 18:00
(遊泳・ビーチ運動会・夕食)

4日目<<11月21日（木）>>

ホテル・・・各種オプションツアー・・・ホテル通り班別研修……………ホテル

8:00 頃 *DFS等でショッピング 17:30

*赤いシャトルバスで班毎にホテルへ

*18:30～BBQ

5日目<<11月22日（金）>>

2:10 ホテルより空港へ 4:10 グアムより空路帰国の途へ 6:50 関西国際空港へ到着

(5) グアム島修学旅行学校間文化交流について

38回生がグアム島へ行ってから2年ぶりとなった今回の修学旅行でも、島内観光等様々な体験を通じて南国の暮らしを満喫することができましたが、今回は特に現地ジョージ・ワシントン高校との学校間文化交流（11月20日午前実施）に絞って記録し、今後の修学旅行の企画をされる上で参考としていただければと思います。



GWHS(George Washington High School)は、米国初代大統領の名を冠して1936年に設立された公立学校です。英語名でHigh Schoolとありますが、当初から日本で言うjunior high school(中学校)とsenior high school(高等学校)両方の年齢層を含む学校として発展してきました。写真でもわかるように広大な敷地を持つ同校は、数多くの島民の移住(流入)等によって校舎を広げたり何度かの移転も行いながら現在に至っているのですが、驚くべきことに1960年代には台風によって校舎が倒壊した小学校の児童たちも受け入れる形で発展し、現在では小中高の年齢層2703名の児童・生徒を擁する大規模校となっています。



その大規模な学校の中で、日本語を勉強している生徒の皆さんが今回千種高校の2年生を大歓迎してくださいました。校長先生同士の挨拶に始まるセレモニーに続いて、まずは千種高校生が「ソーラン節」と「空手演武」を披露し、空手についてはグアムの生徒たちも「構え」や「突き」・「蹴り」などを一緒に練習する場面もありました。また、グアムの生徒たちからは、現地の伝統的な踊りである「チャモロ・ダンス」の披露があり、戦闘前に気分を高揚させ勝利を神に祈るための男性の踊りや女性によるコーラスと柔らかな動きを堪能しました。



最後に、Japanese Culture Time として2グループに分かれ、茶道交流と書道交流を行い、千高生も少しおぼつかない手つきながらも茶道や書道の面白さや奥深さが伝われば、と懸命に取り組んでいました。日本人ならば何でもない当たり前のことが、外国の方からするととても不思議で珍しい。そんなことが海外に出かけるとわかってきます。最近ではかなり少なくなってきた海外での修学旅行ですが、外の世界は勿論のこと、日本の良さを再発見できる貴重な機会として、千種高校ではグアム島への修学旅行を続けていきたいと考えています。

40回生の生徒たちは、帰国してすぐに感謝のメッセージや絵などを描いて同校宛てに送りました。住所に「P.O.Box」(私書箱)という文字を書いていなかっただけで12月に千種に舞い戻ってくるといいうハプニングもありましたが、再び送り返されて1月には届き、それを知らせるメールが同校の日本語担当教師・今村先生から本校に届きました。ありがとうございました。

3 1 県庁 2 1 世紀兵庫長期ビジョン出前講座（中高連携社会科授業）

地歴公民科主任 八十川 洋一 第2学年主任 松井 利澄

将来地域を支える若者たちが、地域の将来について考え、ビジョンを描く。その将来像を描くための指針やヒントを、県庁ビジョン課の若手職員の方に熱く語っていただく。そんな授業が、ビジョン課の方々にとっても初めてとなる中高連携の形で行われた。これは、その記録である。

(1) 目的：

平成 23 年 12 月に改訂した「21 世紀兵庫長期ビジョン」は、30 年後の 2040 年頃を展望し、県民主役・地域主導で描く兵庫づくりの羅針盤である。この度、2040 年頃に社会の担い手となる若者（高校生）を対象に、ビジョンに描く時代潮流や地域課題への理解を深め、兵庫の未来をともに考えてもらう機会とするため、21 世紀兵庫長期ビジョン出前講座を実施する。

(2) 日 時：平成 25 年 12 月 13 日（金）13：20～14：40（80 分）

(3) 講 師：兵庫県企画県民部ビジョン課職員（3 名）

(4) 対 象：千種中学校 2 年生（32 名）、千種高等学校 2 年生（32 名）

(5) 内 容：

① 兵庫県、千種（宍粟市）の現状と今後の展望に係る講義（30 分）

- ・ 時代潮流（人口減少、少子高齢化）について
- ・ 過疎地域での今後の地域構造について

（持続人口の維持・向上、地域興しについて先行事例を踏まえながら）

② 「将来の千種」をテーマとしたグループワーク（25 分）・発表（10 分）

- ・ 人口減少等から生じる課題をグループごとに議論
- ・ 考えるべき課題は、
 - ア 人口減少や高齢化によって、千種でどのような問題が起こると予想されるか。
 - イ アであげられた問題はどうすれば解決できるか。
- ・ ア、イについてグループで話し合った結果を、各グループの代表者が発表。

③ まとめ（10 分）

④ 21 世紀兵庫長期ビジョン出前講座を聞いて（5 分）[アンケート用紙への記入]

⑤ 詳細：

テーマは、「みんなで創る兵庫の未来～千種の未来を考えよう」。まず初めに、県庁職員・ビジョン課の長岡様から兵庫県の人口推計を基にして 30 年後の兵庫県や千種、つまり中 2 生が 41 歳、高 2 生が 44 歳になった時にはどうなっているかという話と、人口減少社会（少子高齢化社会）においてもアイデア次第で地域を盛り上げることが可能だという話を、県下他地域の実例を引き合いに出しながらしていただいた。

その話を踏まえて、次の 3 つの課題（①人口減少や高齢化によってどんな困った問題が起こるか？②他地域に誇れる「千種の魅力・強み」とは？③予測される問題はどうすれば解決でき、地域をよくすることができるか？）についてグループに分かれて話し合い、その内容を班ごとに模造紙に書き出していった。最後に中学校から 2 班、高校から 2 班が代表して発表し、共に将来の千種を担ってゆく若者として「千種は私たちに任せて！」との想いを新たにしていった。



3 2 「千種災害対策プロジェクト」実施の記録

千種災害対策プロジェクト委員会

平成 25 年度、千種中学校と千種高等学校は、千種町は勿論宍粟市全域の林業関係の主な事業所の絶大なるご支援を得て、前代未聞の一大プロジェクトに取り組んだ。中高連携を軸にして、「森林教育」・「防災教育」・「ものづくり教育」という 3 つのキーワードが融合する形で、地元の木材を生かした「木造仮設住宅」の建設と「千種町立体ハザードマップ」の作製に取り組み、その成果を 11 月 23 日(土)の「地域連携総合防災訓練」で発表した。これはその概略の報告であるが、詳細は同プロジェクトの「実施報告書」及び「千種学講座の記録」等に譲りたい。

(1) 概 要：

阪神・淡路大震災や東日本大震災の被災経験から、防災・減災対策の見直しが進んでいる。また被災後の生活復旧にも注目が集まり、住環境整備の問題は生活の基本的課題となった。

こうした折、防災意識を促すための模型による立体的認識手法に期待が高まってきており、ハザード模型や木造住宅模型を貴重なメッセージ媒体として、身近なところから我々の力で出来る防災・減災対策を考えようと試みた次第である。

(2) 目 的：

千種町における洪水・浸水被害を想定して学校や地域住民が共に現状を認識し、ハザード模型による防災・減災対策を構築した。また木造住宅模型を作る過程において災害に対する意識の啓発を試み、災害対策は普段から心して行うものという意識付けを実践し、「減災→災害対応→生活復旧」の行動モデルを開発した。

(3) 時 期：

平成 25 年 4 月 1 日 ～ 平成 25 年 12 月 31 日

(4) 実施者：

◎兵庫県立千種高等学校
宍粟市立千種中等学校
しそ森林組合
日本工科大学校

4 者で千種災害対策プロジェクト委員会を設立（代表：千種高等学校）

(5) 活動内容概略：

- 4 月：千種町における自然災害の被害を危惧していた千種高校と、東日本大震災の復興ボランティア活動を行っていた日本工科大学校が協議し、千種地区の災害対策を構築することを決定した。千種高校を主幹事として、千種中学校・しそ森林組合、日本工科大学校が集まり、千種災害対策協議会を発足させた。(4/19)
- 5 月：調査準備を開始し、資料収集を始め、活動計画を作成した。また活動内容の一層の充実を考え「ひょうご安全の日推進事業」に助成金の申請を行った。(5/20)
- 6 月：「ひょうご安全の日推進事業」の助成金が認可され、ハザード模型の製作準備に取り掛かった。また木造仮設住宅模型事業への協力を得るため、宍粟市内の事業所や会社を訪問して内容を説明し、協力を要請した。
- 7 月：合同会議(7/3)にて、進捗状況を報告、今後の方針を協議した。ハザード模型製作の調査のため、現地測量を実施した。また木造仮設住宅模型事業の協力を得るため、兵庫県農林水産技術総合センターや宍粟市内の事業所・会社を訪問し、内容を説明して協力を要請した。千種高校周辺地形調査のため、現地測量講習会を実施した。この測量には日本工科大学校を中心として、千種高校・千種中学の生徒も加わり実施された。(7/24)
- 8 月：事業の協力を得るため、宍粟市千種市民局阿曾茂夫局長を訪問して内容を説明し、協力を要請。(8/8) また、本委員会より依頼された日本工科大学校校長内藤先生が、木造仮設住宅の設計に取り掛かった。
- 9 月：木造仮設住宅設計図が完成し、部材製作に取り掛かる。部材は千種産の木材を使い、加工は宍粟市内の事業所及び日本工科大学校で行った。また住宅模型強度向上を目指し製作に用いる特殊仕口の講習会を、兵庫県立森林林業技術センターの協力で実施した。

- 10月：ハザード模型の合同製作を実施する。木造仮設住宅においては、部材（パネル）製作をしそう森林組合と千種中学生・千種高校生とともにいった。(10/23) また、日本工科大学校内藤康男校長により、千種高校にて防災意識向上のため講演会を実施した。(10/1)
- 11月：千種高校体育館で、11月6日木造仮設住宅模型組み上げの予行演習（リハーサル）を実施した。この時には仮設足場も組立て、安全性や組立て手順の確認を行う。11月23日地域連携総合防災訓練を実施した。当日は地域住民、千種中学・千種高校・しろう森林組合・日本工科大学校をはじめ、宍粟消防署、兵庫県教育委員会、兵庫県建設業協会、建築士会など多数の参加を得て盛大に行われた。
- 12月：千種高校にて「千種災害対策プロジェクト」報告会を実施。(12/11) この報告会には、プロジェクト委員会のメンバー・構成員を始め、ご支援いただいた事業所の方々も参加して下さった。これまでの活動を総括して報告し、今後のあるべき方針などが話し合われた。

「千種災害対策プロジェクト」記録写真集

		
プロジェクト委員会(7/3)	千種町中心部測量作業(7/24)	内藤先生防災講演会(10/1)
		
壁パネル作製作業(10/23)	住宅建前リハーサル(11/6)	ハザードマップ完成(11/22)
		
総合防災訓練(11/23)	仮設住宅公開建築(11/23)	プロジェクト発表会(12/11)

- (6) 活動状況の報道について
本事業は、「測量作業」、「ハザードマップ作製」、「壁パネル作製」、そして「木造仮設住宅公開建築」等、折りにふれて新聞等で報道された。
右の記事は、宍粟市の「広報しろう」(12月号)に掲載されたものである。



仮設住宅に木の温もり 11/23 千種高校

防災学習の一環として、東日本大震災で岩手県陸前高田市が導入を進めた木造の仮設住宅建設に千種高校と千種中学校の生徒が挑みました。

取り組みに賛同した林業や建築関係者の協力のもと、壁パネルには炭素材を活用し、組み方や断熱など工法にもこだわった仮設住宅です。防災学習だけでなく山林活用という面からも、宍粟市ならではの新しいチャレンジとなりました。

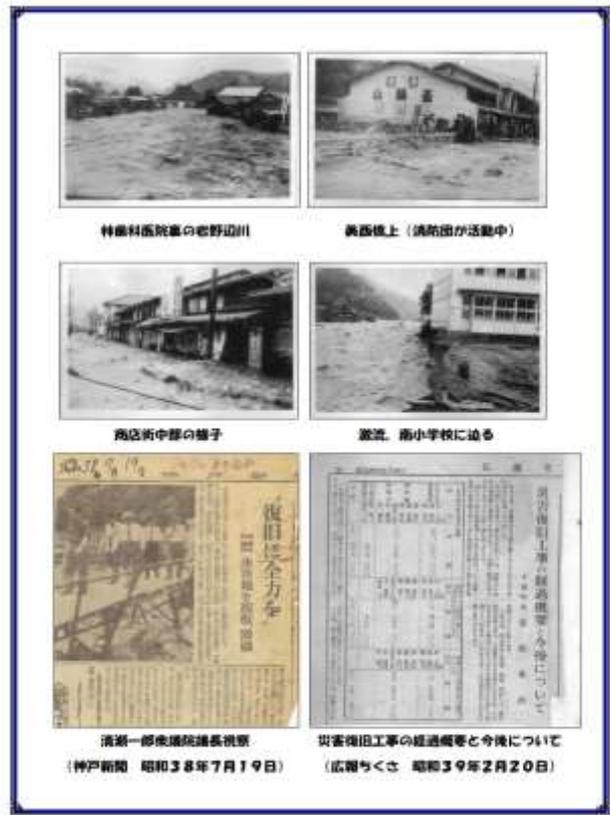
11:50上棟式

事前に作っておいたパネルを組み合わせ、約2時間で自分の住居ができました。

10:10開工

(7) 千種川大水害の記録（昭和 38 年 7 月 11 日）

「千種災害対策プロジェクト」は、千種町立体模型や木造仮設住宅といった「モノ」を作っただけではない。取り組みや研究の過程で、地域住民の「防災意識」を呼び起こし、ほとんど忘れ去られてしまっていた 50 年前の「千種川大水害」を記憶の彼方から「発掘」し得たことにも大きな意義がある。これらの記録写真は、地域の方々が秘蔵されていたものである。



3 3 沖縄県立本部高校・本部町議会議員団ご来校の記録 総務部

平成 25 年度は、沖縄県本部町（もとぶちょう：美ら海水族館のある町）から、6 月と 10 月の 2 度にわたって本校への訪問があり、遠方よりの朋を迎えた非常に嬉しい年であった。6 月は本部高校の先生 1 名と生徒 2 名のご訪問。ほぼ 1 日にわたって幾つかの授業に参加してもらい、千種中学校へも訪問してもらった。高校 1 年生 2 人であったが、帰校後全校生や地域住民を前に「連携型中高一貫教育校」としての本校の取り組みについて報告をしたようである。

その報告が、大変な反響を呼んだらしい。8 月の夏休み中に連絡が入り、本部町の教育長様と町議会議員団様ご一行の訪問を申し入れてこられたのである。浅田校長としても、断る理由などあるはずもなく、10 月初旬に喜んで受け入れをさせていただいた。以下、その記録である。

(1) 沖縄県立本部高等学校ご来校の記録

沖縄県立本部高等学校 本校訪問日程

- 1 日時：平成 25 年 6 月 20 日（木）10:00～16:00
- 2 訪問者：沖縄県立本部高等学校 教諭 玉城淳様、1 年生 仲宗根慎太様・勝連玲奈様
- 3 日程：(1) 10:00～10:25 学校概要説明 (2) 10:35～11:25 化学基礎(1 年)
(3) 11:35～12:25 世界史(1 年) (4) 12:25～13:05 昼食(更衣)
(5) 13:10～14:00 ゴルフ(1 年) 千草カントリー
(6) 14:10～15:30 千種中学校訪問(陶芸授業見学)・校長室で懇談
(7) 15:40～16:00 千種高校にて部活動見学

本部高校も「連携型中高一貫教育校」としての教育活動を展開されており、毎年このような形で生徒さんを伴って他府県での視察を行い、帰校後視察体験報告を行っておられる。



上記のように幾つかの授業を受けてもらったが、授業の初めに同じ 1 年生同士ということで質問をしたりして、終始和やかな雰囲気の良い交流をすることが出来た。5 校時には雨の中「千草カントリー」でアクティブのゴルフ授業に参加。6 校時は千種中学校で「千種学講座：陶芸教室」の見学をしてもらった。教師の学校訪問は多いが、生徒によるものは珍しい。

(2) 沖縄県本部町教育長様・本部町議会議員団様ご来校の記録

平成 25 年 10 月 3 日（木）10:00～12:00、沖縄県本部町から教育長様と町議会議員団ご一行が来校され、まず全学年の授業を見ていただいた。小規模クラスの授業展開及び生徒の元気な「こんにちは！」という挨拶に感銘を受けられたようである。続いて、会議室で浅田校長が「小規模校運営と連携型中高一貫教育」についてお話をされ、質疑応答が熱心に行われた。



IV 各教科の取り組み

1 漢字能力検定

国語科主任 西 佑一郎

実 施 日		級別受検者 内訳			
第 1 回	平成 2 5 年 7 月 1 2 日 (金)	二 級	3 年 生	3 名	計 15 名
			2 年 生	0 名	
			1 年 生	0 名	
		準二級	3 年 生	3 名	
			2 年 生	3 名	
			1 年 生	1 名	
		三 級	3 年 生	1 名	
			2 年 生	1 名	
			1 年 生	2 名	
第 2 回	平成 2 5 年 1 1 月 1 日 (金)	二 級	3 年 生	0 名	計 9 名
			2 年 生	1 名	
			1 年 生	0 名	
		準二級	3 年 生	0 名	
			2 年 生	2 名	
			1 年 生	3 名	
		三 級	3 年 生	0 名	
			2 年 生	3 名	
			1 年 生	0 名	
第 3 回	平成 2 6 年 1 月 2 4 日 (金)	二 級	3 年 生	0 名	計 5 名
			2 年 生	0 名	
			1 年 生	0 名	
		準二級	3 年 生	0 名	
			2 年 生	3 名	
			1 年 生	0 名	
		三 級	3 年 生	0 名	
			2 年 生	2 名	
			1 年 生	0 名	
平成 2 5 年 度 合 格 者 総 数		二級	0 名		計 7 名
		準二級	4 名		
		三級	3 名		

漢字能力検定実施の趣旨について

本校では、生徒の読み書き能力及び語彙力の増進を目指して、「漢字能力検定」を実施してきたが、国語力の増進は本校の多様な生徒たちにとって「学ぼうとする意欲」や「生活力」を身に付けさせる糧ともなっている。目標段階に応じた学習が容易であり、大きな意義を持っている。

実施の概要については上表の通りであるが、第3回は参加人数が団体受検に必要な10名に満たなかったため、三土中学校と合同で実施した。来年度も小中高一貫して取り組み、千種全体でさらなる学力増進を図りたい。また、今年度は2級の合格者を出すことができなかったが、一人でも多く合格できるように、生徒が平生の漢字学習に高い意識を持って取り組むための環境を整えていきたい。昨今、携帯等の機器に頼りすぎるが故に漢字能力即ち国語的思考力の低下が危惧されている。一人でも多くの生徒が漢字に興味を持つべく、努力を重ねる所存である。

2 数学検定

数学科主任 照本 和生

(1) 数学検定について

数学検定「数検」とは、数学の実用的な技能（計算・作図・表現・測量・整理・統計・証明）を測る検定です。三大検定のひとつでもあり、数検財団が実施している全国レベルの実力評価システムです。いまや数学・算数に関する検定のスタンダードとして進学・就職に必須の検定となっています。日本国内はもちろん、韓国やインドネシアなどでも実施され、海外でも高い評価を得ています。

(2) 本校での取り組み

今年度も中高連携の一環として千種中学校と合同で団体受験を2回実施することができました。補習は検定の約1ヶ月前から行いました。普段の補習や部活等もあり、なかなか時間がとれませんでした。極力空き時間を有効に利用し集中的に学習することができました。そして2級1次合格、準2級合格という成績を収めてくれました。去年と比較してもより多くの生徒が数学検定合格に挑んでくれました。数学離れが進んでいる現代社会において、一人でも多く数学検定に取り組み、数学を身近な存在として感じてもらえたらと思っています。まだまだ人数不足という課題はありますが、数検の取得が生徒の自信につながってくればと、また進学・就職に少しでも役に立てればと思っています。これからも実施していきたいと思っています。

今年度の実施状況

第239回（第1回目） 8月24日（土） 12名受験（2級、準2級、3級）
 第250回（第2回目） 3月 8日（土） 7名受験（準2級）

合格者人数

完全合格6名（準2級4名 3級2名）
 1次のみ合格6名（2級1次1名 準2級1次5名）

(3) 数学検定問題の実際

数学検定の問題は、1次の「計算技能検定」と2次の「数理技能検定」から成り立っています。解答時間は、準2級と2級の場合1次が60分、2次が90分です。実際の問題を見てみましょう。2級、準2級共に「数理技能検定」の問題から抜粋しています。

【2級】

問題7. (2面)

長さ40 cmの針金をすべて使って、直方体の骨組み(図だけの部分)をつくります。針金は自由に切ったり結びたりすることができますが、重ねてはいけません。また、針金どうしを繋ぎ合わせるのに必要な釘は考えなくてよいものとします。このとき、次の問いに答えなさい。

(1) 縦が a cm($0 < a < 10$)の直方体の骨組みをつくり、横を x cm($0 < x < 10 - a$)、できる直方体の体積を y cm³とするとき、 y を a と x を用いて表しなさい。この問題は解法の過程を記述せず、答えだけを書いてください。(表現技能)

(2) 縦が a cmのとき、できる直方体の体積の最大値を V cm³とします。[1]で求めた y を x の2次関数とみなすことにより、 V を求め、 a を用いて表しなさい。この問題は解法の過程を記述せず、答えだけを書いてください。(表現技能)

(3) [2]で求めた V の増減を調べ、 V の最大値を求めなさい。

【準2級】

問題10 A, B, C, D₁, D₂, D₃, E₁, E₂, E₃の9つの仕事を、下の①～④の条件のもとで行います。

① 1つの仕事にかかる時間について、Aは20分、Bは30分、Cは10分である。
 ② BはAが完了しないと始められず、CはBが完了しないと始められない。
 ③ 1つの仕事にかかる時間について、D₁, D₂, D₃はそれぞれ30分、E₁, E₂, E₃はそれぞれ10分である。
 ④ E₁はD₁が完了しないと始められず、E₂はD₂が完了しないと始められず、E₃はD₃が完了しないと始められない。
 ⑤ 1つの仕事は1人が連続して行うが、異なる仕事の合間に休憩時間があってもよいものとする。

① 仕事をやる能力が等しいP, Qの2人でA, B, C, D₁, D₂, D₃, E₁, E₂, E₃の9つの仕事をすると、仕事を始めてから完了するまでにかかる、最短の時間を求めなさい。
 ② 仕事をやる能力が等しいP, Q, Rの3人でA, B, C, D₁, D₂, D₃, E₁, E₂, E₃の9つの仕事をすると、仕事を始めてから完了するまでにかかる、最短の時間を求めなさい。

出典：公益財団法人「日本数学検定協会」主催

「第239回実用数学技能検定2級」、「第250回実用数学技能検定準2級」問題

3 英語検定・千種町英語教育研究会

英語科主任 松井 利澄

(1) 実用英語技能検定

昨年に引き続き中高連携の一環として、6月、10月、1月の年3回にわたって、本校を準会場とした実用英語技能検定試験（英検）の団体受験を実施し、町内にある小中高生の英語検定受験の一体化を図ることができた。

① 第1回実用英語技能検定試験（一次試験：6月7日 二次試験：7月7日実施）

受験者8名（内訳＝中学生3名 高校生5名）

2級＝1名 準2級＝5名 3級＝2名

合格者5名（内訳＝準2級…4名 3級…1名）

② 第2回実用英語技能検定試験（一次試験：10月11日 二次試験：11月10日実施）

受験者14名（内訳＝小学生9名 中学生1名 高校生4名）

2級＝2名 準2級＝2名 3級＝2名 4級＝2名 5級＝6名

合格者7名（内訳＝3級…1名 4級…2名 5級…4名）

③ 第3回実用英語技能検定試験（一次試験：1月24日 二次試験：2月23日 実施）

受験者14名（内訳＝小学生7名 中学生4名 高校生3名）

2級＝3名 準2級＝5名 3級＝1名 4級＝2名 5級＝3名

合格者5名（内訳＝2級…1名 準2級…3名 5級1名）

※今年度は千種高校生1名が2級に、5名が準2級に合格した。

(2) 千種町英語教育研究会

今年度、千種小中高の外国語活動及び英語科担当教員が「千種町英語教育研究会」を結成して情報交換会・授業研究会・講演会等を行い、小中高一貫の英語教育研究への第一歩を踏み出した。詳細は『平成25年度千種町英語教育研究会実践記録集』（平成26年3月発行）に譲ることとするが、その概略は以下の通りである。

① 平成25年度の動き

- | | |
|-----------|------------------------------|
| 4月初旬 | 千種町英語教育研究会構想立案 |
| 5月中旬 | 兵庫県教育委員会主催「教職員自主的研究推進事業」認可申請 |
| 6月 1日（土） | 上記事業認可 |
| 6月15日（土） | 小中連携授業実施（於：小学校） |
| 7月25日（木） | 第1回英語教育研究会情報交換会（於：中学校） |
| 8月22日（木） | 第2回英語教育研究会情報交換会（於：高等学校） |
| 9月20日（金） | 中高連携授業実施（於：中学校） |
| 10月15日（火） | 英語授業研究会・講演会（於：中学校） |
| 10月25日（金） | 中高連携授業実施（於：中学校） |
| 11月29日（金） | 中高連携授業実施（於：中学校） |
| 12月 2日（月） | 英語授業研究会（於：高等学校） |
| 12月10日（火） | 小中連携授業実施（於：小学校） |
| 1月31日（金） | 中高連携授業実施（於：中学校） |

② 平成26年度への展望

来年度においても、上記の如き各校間の「連携授業」や合同の「英語授業研究会」を引き続き実施するとともに、千種町ならではの活動、例えば「千種学」や映像版昔話「しその逸話・千種編」の英語教材化、或いは幼少中高どの年齢でも使える「英語童謡マザーグース」の普及活動等に取り組みたい。

「一所懸命」の教えの通り、我々はまずは自分の学校で力を尽くすべきである。しかし、自分の学校や同一校種の中だけで教科領域研究を進めていけばよい時代は既に過ぎ去っており、異年齢・異校種間での交流が今後さらに重要になってくると考えている。その、パイオニア的存在となることが我々の願いである。



4 商業関係検定

商業科・情報科主任 戎原 進一

(1) 商業関係検定について

本校では、平成25年度商業に関する下記の検定を実施しました。

検定試験名	主催団体	検定日
ビジネス文書実務検定	全国商業高等学校協会	平成25年6月30日(第48回) 平成25年11月26日(第49回) 平成26年2月1日(第50回)
日本語ワープロ検定	日本情報処理検定協会	平成25年12月1日(第97回)
情報処理技能検定	日本情報処理検定協会	平成25年7月14日(第97回) 平成25年10月12日(第98回) 平成25年12月8日(第99回)
簿記能力検定	全国経理教育協会	平成25年7月14日(第171回)

(2) 受験状況

今年度の各検定の受験状況は、以下の通りでした。

検定試験名	受験級	受験者数	合格者数
第48回ビジネス文書実務検定	1級	2	2
	2級	7	4
	3級	11	8
	4級	2	1
第49回ビジネス文書実務検定	1級	5	1
	2級	16	11
	3級	8	6
	4級	1	1
第97回日本語ワープロ検定	1級	1	1
	準2級	1	1
第97回情報処理技能検定	1級	5	3
	2級	5	4
	3級	16	16
	4級	2	2
第98回情報処理技能検定	1級	2	1
	3級	1	1
第99回情報処理技能検定	1級	4	3
	2級	8	8
第171回簿記能力検定	3級	8	7

(3) 今年度の取り組みについて

今年度は新たな検定試験に取り組み、多くの生徒が資格を取得することができました。今後も資格取得の機会を積極的に設け、資格取得が生徒の自信につながり、進学・就職に少しでも有利となればと考えています。

V 部活動の取り組み — 光る汗、輝く瞳、草魂千種の活動記録 —

1 硬式野球部

顧問 田中 孝英

【顧問】	部長：戎原 進一	監督：田中 孝英	
【部員数】	3年4名(マネージャ2名)	2年7名(マネージャ1名)	1年5名 合計16名
【戦績】	平成25年度 春季県下大会西播支部予選	1回戦	千種0-23 姫路工業
	第95回全国高等学校野球選手権記念兵庫大会	1回戦	千種1-8 尼崎工業
	平成25年度 秋季県下大会西播支部予選	1回戦	千種0-18 市川
	同 敗者復活	1回戦	千種6-11 上郡

我がチームは他部から選手を借りて試合に出場するなど苦しい時期もありましたが、4月には待望の新入生が5人入部し、今年度は計16人での活動となりました。普段の練習ではボールが見えなくなるまで一生懸命に取り組み、週末は主に姫路、高砂、神戸方面への遠征で練習試合をこなし、力を付けました。「少人数だからこそできること」を選手個々が考えて野球と向き合い、また野球だけではなく普段の学校生活や礼儀作法においても、他の生徒の模範となるように自らを厳しく律してきました。

3年生にとっては最後となる「夏の公式戦での1勝」という目標は、残念ながら今年も達成することはできませんでしたが、試合序盤では接戦を演じ、強豪校にも臆することなく最後まで粘

り、決してあきらめない姿勢を最後まで貫いた姿に、スタンドからは数多くの拍手をいただきました。悔しさを引き継いでスタートした新チームは、試合経験も豊富な選手が多く残り、来年への期待を抱かせるものがありました。「気持ちの良い野球部」、「気持ちのこもった野球」を今後さらに発展させ、全員の力を合わせて「愛される野球部」を作っていきたいと思っています。ご声援よろしくお願い致します。



2 サッカー部

顧問 角野 陽介

部員は1年生5名、2年生5名、3年生2名で毎日活動しました。ほぼ全員が高校からサッカーを始めましたが、毎日活動し上達しました。

8月2日に地域のサッカー教室を開催し、部員が小学生をリードし、一緒にサッカーを楽しみました。また今年度は西播磨大会(11月)に参加しました。3年生も出場することができるようになり、大会に参加しました。結果はよくありませんでしたが、最後まで粘り強くプレーすることができました。また、得点することができたことは自信になり、その後の練習ではモチベーションを高くもって取り組みました。



【公式戦試合結果】

兵庫県総合体育大会	1回戦	千種0-11 六甲アイランド
兵庫県選手権大会西播予選	1回戦	千種0-10 姫路西
西播磨大会グループリーグ		千種0-13 相生
		千種0-7 赤穂
3位グループトーナメント		千種1-3 太子
		千種1-5 山崎



3 男子バレーボール部

顧問 坂根 大樹・西 佑一郎・松井 利澄

4月に1年生5人が入部して、3年生3人、2年生3人の計11人でのスタートとなりました。3年生にとって最後の県総体では、1回戦で接戦を制し、2回戦では強豪校相手に圧倒的な強さを見せつけられました。試合には敗れてしまいましたが、選手一人一人が全力を尽くした結果なので、悔いはないように思います。千種高校男子バレー部、少人数ですが持ち前のチームワークの良さを磨きつつ、一日一日を大切にこれからも頑張っていきたいです。



戦績

<p>4 / 27 (土) 前期西播総合体育大会 千種0 - ②相生</p> <p>5 / 11 (土) ~ 5 / 12 (日) 前期 西播リーグ戦 (3部) 千種0 - ②姫路南 千種0 - ②県立大附 千種1 - ②姫路商 千種0 - ②伊和</p> <p style="text-align: right;"><u>4部降格</u></p>	<p>8 / 30 (金) ホープ杯 千種0 - ②相生 千種0 - ②山崎</p> <p>9 / 28 (土) 後期西播リーグ戦 (4部) 千種② - 0 佐用 千種② - 0 相生産 千種1 - ②県立大附</p> <p style="text-align: right;"><u>3部昇格</u></p>
<p>6 / 1 (土) 兵庫県高等学校総合体育大会 千種② - 1 柏原 千種0 - ②神港学園</p> <p>8 / 6 (火) 春の高校バレー西播予選大会 千種② - 1 県立大附 千種0 - ②山崎</p>	<p>11 / 23 (土) 秋季西播優勝大会 千種0 - ②姫路商</p> <p>12 / 25 (水) ~ 12 / 26 (木) 後期西播総合体育大会 千種0 - ②市川 敗者復活 千種0 - ②龍野北</p>

<平成25年度練習試合相手校>

- (西播) 姫路東・相生産・龍野北・香寺・佐用・伊和・県立大附
- (鳥取県) 岩美
- (岡山県) 津山東

4 女子バレーボール部

顧問 照本 和生・金本 有加・上山 麻美

4月。3年生3人、2年生2人の試合出場ギリギリのチームに1年生5人が入部し、計10人でのスタートとなりました。リーグ昇格を目標に熱心に練習に取り組んできました。西播大会では敗れてはしまいましたが、「次のリーグ戦では必ず勝つ」と生徒が一丸となって一生懸命に部活に励むことができました。結果こそリーグ昇格とはなりませんでしたが、なんとか1勝を掴み取り、次の総体に向けてさらに活気づきました。

3年生にとっての最後の総体。全員バレーで挑み、1戦目は勝利を収めました。2戦目は惜しくも敗れましたが、自分たちのバレーができたので、充実感で満ち溢れていました。総体後、3年生も引退し、8名での再出発となりました。

夏休み期間には、太子高校や上郡高校、福崎高校と合同練習を行うなど、意欲的に活動してきました。県西播予選大会、後期リーグ戦、秋季西播大会、後期西播大会とすべての試合に出場し、試合を行うたびに精神的にも成長することができました。部活動を通して、人間的にさらに成長することを願います。

戦績

- 4 / 27 (土) 前期西播大会
千種0—②赤穂
- 5 / 12 (土) 前期西播リーグ戦 (5部)
千種②—0 姫路別所
千種0—②相生産業
- 6 / 2 (土) 総合体育大会
千種②—0 網千
千種0—②豊岡総合
- 8 / 6 (火) 県西播予選大会
千種0—②太子
- 9 / 28 (土) 後期西播リーグ戦 (5部)
千種0—②飾磨
千種② 姫路別所
- 11 / 23 (金) 秋季西播優勝大会
千種0—②赤穂
- 12 / 24 (月) 後期西播大会 (本戦)
千種0—②琴丘
- 12 / 24 (月) 同大会敗者復活戦
千種0—②上郡



5 ゴルフ部

顧問 松井 利澄・照本 和生

ゴルフ部は、部員1年1名、2年5名、3年2名の計8名で活動しています。普段は半面芝生化されたテニスコートで練習を重ね、週1回程度は放課後に千草カントリークラブで3ホールのラウンドをさせていただいています。

月1度のペースで八幡ゴルフセンターに赴き、1時間程度の奉仕作業をしてから「香川塾」でお馴染みの香川プロによるレッスンを受けています。夏には合宿や2度のプロによるラウンドレッスンを実施し、様々な活動を通して体と心を鍛えてきました。

春と冬のチャレンジカップ（西播大会）にも出場し、1名が県大会出場を果たしました。全面的にご協力いただいている千草カントリークラブの皆さんをはじめ、ゴルフ部に関わってくださる全ての人への感謝の気持ちを大切に、さらなる飛躍を誓います。

<25年度出場大会>

4/30(月) 3支部合同チャレンジカップ(粟賀GC)

<5名出場>☆内海秀星トータル104(西播15位・県大会出場権獲得)

5/13(月) 県総体(宝塚GC)

7/29(月) アオノジュニアゴルフ大会(アオノGC)

<3名出場>

11/6(水) 県秋季(オリムピックGC)

<3名出場>

1/10(金) 関西マッチプレー選手権(大阪GC)

<2名出場>

1/28(火) 3支部合同チャレンジカップ

(吉川インターGC)

<3名出場>

☆津志隼114(西播10位)



<利用ゴルフ場(大会・公式Rを除く)>

千草CC(通算8ラウンド)・佐用GC(通算5ラウンド)・フォレスト市川GC(通算3ラウンド)

吉川インターGC(通算2ラウンド)・ペニンシュラ湯郷GC(通算1.5ラウンド)

播州CC(通算1ラウンド)・三日月CC(通算1ラウンド)

<合同ラウンド相手校>

東洋大姫路・市川



6 ライフル射撃部

顧問 西 佑一郎・安積 拓男・小林 愛

《部員数》 6名（男子4名、女子2名） 【平成26年3月現在】

《出場公式試合》

- ・全日本ジュニアビームライフル射撃競技大会
【日時：4月27日・28日 場所：岐阜メモリアルセンター】
【参加者：3年生1名】
- ・兵庫県大会
【日時：5月4日 場所：兵庫県立明石西高校】
【参加者：3年生3名、2年生2名】
- ・近畿高校春季ライフル射撃選手権
【日時：6月22日・23日 場所：能勢町国体記念スポーツセンター】
【参加者：（ビームライフル）3年生1名、2年生1名（ビームピストル）1年生1名：6位入賞】
- ・全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会
【日時：7月28日～31日 場所：広島県つつがライフル射撃場】
【参加者：（ビームライフル）3年生1名】
- ・近畿高校秋季ライフル射撃選手権
【日時：11月24日 場所：能勢町国体記念スポーツセンター】
【参加者：（ビームライフル）2年生1名1年生1名（ビームピストル）1年生1名】

「ビームライフル」は、普段の練習においても、試合においても、個人競技であるがゆえに、常に自分と向き合うことが求められる。冷静に自己批評を行い、課題を見だし、ひとつひとつクリアしていくという過程を忍耐強く続けていける者だけが上位に進むことができる。

3年生は今までの鍛錬の成果が実を結び、兵庫県の代表として大きな舞台で活躍することができた。また、2年生は日々の練習を欠かすことなく努力を積み重ね、大きな成長をみせている。その姿勢を見て、後輩である1年生も各自努力をし、自分の記録を更新するべく練習に励んでいる。部全体として、いい雰囲気で練習できており、練習に集中できる場所になってきている。来年度は、新入生を迎え、これまで以上に部の雰囲気を盛り上げ、さらなる発展を望みたい。



7 カルチャー部（軽音楽）

顧問 安積 拓男・小林 愛

- (1) 部員数 1年6人、2年6人、3年4人 計16人
- (2) 活動日 月曜日・木曜日（希望者は毎日）
- (3) 活動場所 音楽準備室
- (4) 活動記録

私たち、カルチャー部（通称：軽音楽部）は、特別教室等5階の音楽準備室を拠点に毎週活動を行っています。演目の幅はまだそれほど多いとは言えませんが、誰でも知っている懐かしい曲から最近はやりの曲まで、できるだけカバーしていこうと日々努力しています。

部員の中にも楽器専門の人とボーカル専門の人がいて、それぞれの道を極めようと日夜頑張っているのですが、やはりその実力が試されるのは年間何回かのコンサートの場です。主な発表の場は、本校の文化祭、7月終わり頃の妙見夏祭り、そして11月にあるJA祭りです。文化祭は、千種高校のみんなが舞台に迫ってきて一つになれるので貴重な機会です。そして、JA祭りでは浅田校長先生が私たちと共演してくださり、いい思い出ができました。

これからも、千種高校の音楽文化をリードするつもりで頑張っていきます。



①文化祭
6月15日（土）
本校体育館



②妙見夏祭り
7月27日（土）
千種小学校グラウンド



③JAふれあい祭り
11月10日（日）
JAハリマ千種営業部

8 ボランティア部

顧問 八十川 洋一・坂根 大樹

私たちボランティア部は、普段は一人暮らし高齢者の方、二人暮らし高齢者夫婦の方々等のお宅にお弁当を配食しています。その他には、地元商店街の集客イベントへの参加、千種町内の美化活動、雪遊びボランティアや老人ホームでの花植えボランティアなどを行っています。

日常生活では、高齢者の方々や、地域の方々と関わる機会が減っていますが、ボランティア部の活動を通して、たくさんの方々とお会いし、直接お話することができます。温かい地域のみなさんに支えられ、地域に貢献できるボランティア部を目指し、これからも笑顔と元気を届けていきたいと思っています。



9 茶華道部

顧問 金本 有加

- (1) 部員数 2年1人、3年2人 計3人
- (2) 活動日 火曜日・水曜日
- (3) 活動場所 特別教室棟1階 作法室
- (4) 活動記録
 - ① 文化祭 6月15日(土)
お茶席・生花展示
本校特別教室棟1階 作法室



茶華道部は、茶華道講師歴50年以上の小原千鶴子先生のご指導を受けて、毎週2回、特別教室棟1階の作法室で活動を行っています。流派は、茶道が「御所流（ごしよりゅう）」、華道が「東雲御流（とううんごりゅう）」で、非常に由緒ある流れを持つ教えを受けています。

今、私たちの暮らしのすべてが忙しく、ふと立ち止まって深く考えることすら出来ないような時の流れの中で、学校の中にかくも静寂な、そして清らかな空間があるのかと、いつも心洗われる思いと共に大切な時間を過ごさせていただいています。

勿論、茶道の作法を通じて一連の所作の美しさを学び、華道において草花の生け方に工夫を凝らす中で審美眼を高めることも、この部活動の大きな魅力となっています。私たちが、いつの間にか忘れてしまっていた日本古来の大事なものを取り戻すことのできる活動として、少しでも多くの生徒に理解してもらい、末永く続けられるように努力を重ねてまいります。



10 パソコン部

顧問 戒原 進一

パソコン部は、部員1年生4名、2年生1名、3年生1名の計6名で活動をしています。ビジネス文書実務検定・情報処理技能検定など各種検定取得を目指し、各自が目標をもって日々練習に取り組んでいます。

また、文化祭ではパソコンを利用した「うちわ」の作成・販売を行いました。予想を上回る多くの方に購入をしていただき、喜んでいただくことができました。

来年度は、検定取得だけでなく競技会出場を目指して頑張っていきます。



活動風景



うちわの製作販売（文化祭）

VI 平成25年度式典の記録

1 入学式 校長式辞

平成25年度 入学式式辞

遠く三室の山並みの名残雪も消え、今まさに春の風に桜が舞い、山の木々から新芽のはじける音が聞こえてくるような好季節となりました。

明るさと希望に満ちたこの佳き日に、たくさんのご来賓、保護者の皆様のご臨席を賜り、平成25年度 兵庫県立千種高等学校の入学式を挙行できますことは、私ども教職員一同、この上ない喜びでございます。ただ今、本校の第41回生として、入学を許可しました39名の皆さん、入学おめでとうでございます。保護者の皆様、本当におめでとうでございます。心よりお祝い申し上げます。私たち教職員はもとより在校生全員が、皆さんの入学を心から歓迎いたします。また教職員一同、大事な子どもさんを預かる責務の重大さを痛感し、皆様方の期待と信頼に応えるべく、一丸となって努力を惜しまず取り組む決意です。

さて本校は、平成22年度から兵庫県下で初の『連携型中高一貫教育校』のモデル校となり、宍粟市立千種中学校との連携に取り組んで3年、順風の流れに乗り、たいへん活発な教育活動が展開されています。「環境美化活動」「文化祭」「体育大会」「講演会」などを合同で行う「連携行事」、それぞれの教員が中高に出向く「連携授業」、理科・社会科などでは中高生が共に学ぶ「協同学習」などを実施しております。

また、「チャレンジ」「ベーシック」「アクティブ」の3コースを設置し、個性・能力・進路希望に合わせ、幅広い教育内容を実践してきたことで、進路実績でも進学・就職ともすばらしい成果をあげています。クラブ活動も、少人数ながら活発になり、上位大会に出場する成果も上げています。さまざまな教育活動の場面で、地域の方々のご支援・ご理解をいただき、少人数だからこそできる丁寧な指導により、生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、夢や希望をかなえ、地域に貢献できる人づくりをめざし、「明るいまなざし」と「さわやかな笑顔」が校風となり、純真・素朴な「千高生」が育っています。

これから千種高校で学ぶ新入生の皆さん、今日から皆さんが本校の主役です。皆さんに3つのことを話しておきます。

(一)1つ目は「しっかりとした目標を持って高校生活のスタートを切って下さい」

高校3年間の過ごし方でこれからの人生が大きく変わります。具体的な目標を一日も早く見つけ、着実に1歩を踏み出すことが大切です。

(二)2つ目は「自分の力の限界に挑戦して下さい」

自分の力を充分発揮できるよう、可能性への挑戦。自分自身の限界への挑戦を試みて下さい。皆さんには限りない可能性があります。

(三)3つ目は、「思いやりの心を持って下さい」

自分だけのことを考えるのではなく、相手の立場に立ち、弱い人の立場で物事が考えられる人になって下さい

今日から千種高等学校での生活が始まりますが、全員が期待される成果を手にするよう職員一同懸命に指導いたします。皆さんが町の熱いまなざしに忘れられる人物として成長するよう頑張りましょう。充実した高校生活を送られることを、心より願ひまして、式辞といたします。

平成25年4月8日
兵庫県立千種高等学校長
浅田 尚宏

2 卒業証書授与式

(1) 校長式辞

第三十九回卒業証書授与式式辞

三室の山並みにはまだ雪を残しながらも、千種川のせせらぎに注がれる陽光には日ごとに春の息吹が感じられるようになりました。

本日ここに、兵庫県立千種高等学校第39回卒業証書授与式を厳粛のうちに挙行できますことは、私ども教職員一同この上もない喜びであります。また、多数のご来賓、保護者の皆様のご列席を賜り、卒業生の門出を祝福していただきますこと、高い席からではございますが、心より厚くお礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました29名の皆さん、卒業おめでとうでございます。校訓「自立・信愛」のもと、学業にクラブ活動にひたすら研鑽と精進を重ね、本日、栄えある卒業の日を迎えました。本校を巣立って行かれる皆さんの一人ひとりに、心から賛辞を贈ります。また、保護者の皆様・ご家族の皆様、深い愛情を持って、これまで大切に守り育てていただいたご苦勞が今、ここに、実を結んだ喜びに対し、心よりお祝い申し上げます。

さて本校は、平成22年度から兵庫県初の「連携型中高一貫教育校」となり、千種中学校と連携を深めながら、魅力ある学校づくりに取り組んできました。同窓会・PTAをはじめ地域の方々の熱い支援をいただき、その成果は近隣の中学校のみならず県下各地に広まり、遠くは沖縄からも視察においでいただく程高く評価されています。39回生の皆さんはその中心となって、一人ひとりが勉強・クラブに文武両道の頑張りを見せ、一段と輝き、学校の発展に大いに貢献してくれました。

みなさんとは、私が校長として本校に着任し、初めての入学式以来、3年間のつきあいとなります。様々な学校行事・日常の生活でのいろいろな出会など、たくさんの思い出があります。中でも、沖縄への修学旅行は印象に残った一場面です。透き通るような青い海と抜けるような空の下、エイサーを踊ったり、グループごとの民泊体験、バナナボートなどを満喫し、本当に楽しかったです。

皆さん いよいよ明日からは、母校を巣立って新しい人生に挑戦していきます。皆さんのこれからの人生は大洋を航海するようなもので、楽しい中にもいろいろな困難や、障害も待ち受けていること

でしょう。日本経済は回復の基調と言われますが、国際社会の緊迫の度が高まり、これからの情勢は益々不安定で不透明な時代かもしれません。いつどこで大きな災害がおこるかもしれません。

苦しい時、挫折しそうな時、ここ千種の地で学び、体験し、培ってきたことを思い出して下さい。皆さんが実践してくれた「気持ちの良い挨拶」は人と人が生きる社会でとても大切です。良好な人間関係や信頼関係を築くための第一歩です。「いつでも笑顔で挨拶のできる人であってほしい」と思います。

皆さんの輝かしい門出にあたり、私の好きな名言を紹介します。「朝は希望で起き、昼は努力に生き、夜は感謝で眠る」希望とはあらたな勇氣です。朝、目標とやる気を持ってスタートし、昼はその目標に向かってひたすら努力を続ける。夜はその日を振り返り、今日出会った人、支えてもらった人、見守ってもらった家族など、すべての人に感謝することを忘れずということです。私自身、日々実践したいと思っています。

最後となりましたが、卒業生のみなさんの一層の飛躍と限りなき未来に幸多かれとお祈り申し上げます、式辞といたします。

平成26年2月28日
兵庫県立千種高等学校長
浅田 尚宏

(2) 在校生送辞

送 辞

梅のつぼみがほころぶ季節となり、日一日と長くなっていく陽の光に、確かに春の訪れを感じるができるようになりました。

第三十九回卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して心よりお祝い申し上げます。

時が経つのは早く、先輩方が千種高等学校に入学され、はや三年が過ぎました。先輩方にとって、この三年間という年月はどのようなものであったのでしょうか。おそらく勉強に部活動に、一生懸命に取り組んでこられた三年間だったのではないのでしょうか。卒業式がこんなに早く来ることが信じられないような気持ちであるとともに、別れの寂しさがこみあげてきます。

私たちの前にはいつも頼もしい先輩方の背中がありました。先輩方は個性豊かであたたかく、学校生活の様々な場面で私たちを励まし、また私たちを優しく、時には厳しく導いてくださいました。

本年度の文化祭のクラスステージでは、限られた時間の中で企画や準備に取り組み、様々な工夫を凝らしたすばらしい演劇を見せてくださいました。体育館全体に響き渡る「Best Friend」の歌声には胸に響くものがあり、今でも心に残っています。

体育大会では、完成度の高いパフォーマンスが印象に残っています。小物一つ一つ何から何まで手作りのあたたかみにあふれ、クラスが一体となったワンピースの仮装劇に感動しました。ソーラン節では、かけ声の大きさや躍動感あふれる演技の迫力に目を見張りました。

一人一人の輝いていらっしやる姿、頑張っている姿、一生懸命な姿、クラスの盛り上がり様を見るたびに励まされ、元気づけられました。そんな先輩方をとても尊敬しています。

また、日々の部活動では早朝からの練習、そして放課後は夜遅くまで積極的に取り組む先輩方の部活動に対する真剣な姿勢を、私たちはいつも見ていました。私たちが入部してから今に至るまで、優しく接して下さったり、何気ない面白い話をたくさんして下さったりした姿を絶対に忘れません。

何事も一生懸命に、クラス一丸となって取り組まれた先輩方は、私たちの憧れです。

四月から先輩方は、この千種から自分の夢に向かって、それぞれの道に旅立って行かれます。これから始まる旅の途中でくじけてしまうことがあるかもしれません。そんなときは、千種高校で過ごした日々を思い出してください。日々を懸命に送ってこられた先輩方なら、きっと困難を乗り越えられると思います。私たちは先輩が守り、育ててこられた伝統を受け継ぎ、全学年一クラスの日本で一番小さい学校だからこそできることを様々な形で、地域にアピールしていきたいと思っています。

名残は尽きませんが、いよいよお別れの時です。最後に、新たな世界へと旅立って行かれる先輩方が夢の実現に向かって大きく飛躍されることを心からお祈りし、送辞といたします。

平成26年2月28日
兵庫県立千種高等学校
在校生代表 平瀬 加菜絵

(3) 卒業生答辞

答 辞

日一日と暖かく、春の息吹を感じる今日この頃となりました。

このよき日、私たち卒業生二十九名は、新しい人生に向かって今大きく飛び立とうとしています。

今日、私たちのために、このようなすばらしい卒業式を挙げていただきありがとうございます。また、先ほどは、校長先生をはじめ、ご来賓の方々、在校生の皆さんから温かいお言葉を頂き、卒業生一同、心より感謝しております。

三年前の春慣れないブレザーやネクタイに苦戦し、緊張しながら千種高校に入学しました。一年生。入学してまだ学校に慣れない頃、皆生・大山野外活動に行きました。天候に恵まれず、一日目の皆生での遠泳はできませんでしたが、プールで楽しく泳ぎ、心肺蘇生法を学びました。二日目も天候はよくありませんでした。そのような悪天候の中、全員登頂という高い目標を掲げ、大山登山に挑戦しました。辛く諦めかけたときも、お互いに励まし合い、全員頂上にたどり着くことができました。残念ながら霧のため景色は見ることはできませんでしたが、景色以上に、達成感に満ち溢れたみんなの笑顔が印象的でした。

二年生。待ちに待った、修学旅行。私たちは沖縄に行きました。ひめゆり平和祈念資料館で千羽鶴を奉納しました。また、エイサーを習ったり、マリンスポーツを体験し、海の大きさを実感しました。最終日には歴史的建造物の首里城を見学しました。それらの全てが大切な思い出として心に残っています。特に大宜味村での民泊体験では、お世話になったご家族との別れに涙する生徒もいました。本当の家族のように接していただき、文化や考え方などさまざまなことを学ぶことができました。とてもすばらしい体験になってよかったです。

そして、三年生。最高学年としての自覚が少しずつ芽生えてきた頃、後輩から先輩になる緊張感がありました。「後輩に負けたらどうしよう」「先輩たちのように学校を引っ張っていけるだろうか」という不安な気持ちでいっぱいでした。そんな中、私たちにとって最後の文化祭が行われました。昨年は、先輩方がすばらしい作品を作られていました。私たちも劣らないようにと気合いを入れてのぞみました。しかし、意識しすぎて空回りしたり、ぶつかり合うこともたくさんありました。それでも、最高の作品を作りたい気持ちは同じで、クラスがひとつになりました。演じたのは「ドラゴン桜」。受験勉強などで忙しくなりつつあった私たちにはぴったりの内容でした。劇の最後には「BEST FRIEND」を全員で合唱しました。そして私たちはこの作品で初めて最優秀賞を受賞することができました。そのときの喜びは忘れられません。

二学期の体育大会。残念ながら三年間で一度も優勝を味わうことはできませんでしたが、三年連続三位というのも私たちらしいかな、と思っています。それでも、最後の体育大会の仮装大賞で披露した「ONE PIECE」と学級旗の部門では最優秀賞を受賞しました。優勝こそできなかったものの、仲間のしるしを腕に描き一丸となって、最高の思い出を作ることができました。

部活動では、勝つことや成功させること意外に、どの部でも楽しむことを大切に活動してきました。印象に残っていることはみんな違うと思いますが、約二年半の間で良い経験ができたと思います。部活の楽しさを教えてくださった顧問の先生や先輩方には心から感謝しています。そして、後輩たちにはたくさん場面で支えてもらい、とても助かりました。ありがとうございます。二年生は、残り少ない部活動を楽しんでください。一年生は、そんな二年生を支えてあげてください。応援しています。

行事だけでなく、毎日の授業や休み時間でのたわいのない会話、冬になるとストーブの周りをめぐって争奪戦が起こることもありました。そんな生活の一部だった何気ない一コマが一番に思い出に残っています。みんなで笑いあった生活は私たちにとって最高の宝物です。

これからは三年間笑いあった友達と離ればなれになり、それぞれの道を歩んでいきます。私たちは一番長くて幼稚園から約十四年間、一緒に過ごしてきました。これからは悩んだとき、苦しいとき、ずっとそばにいて話を聞いて励ましてくれた友達はいなくなります。それでも私たちはお互いのことを心強い友達だと信じ、それを心の糧にして飛び立ちます。そして、新しい地で新しい出会いを大切にこれからの人生を歩んでいきます。

先生方、事務の方々。皆様のおかげで、とても充実した学校生活になりました。先生方には、授業や部活動などで大変お世話になりました。その日々があったからこそ、私たちは成長できました。時には友達のように相談にのり、悩みを聞いてくださったり、一緒に話をして笑ったりしました。これから話ができなくなると思うと、寂しくなりますが楽しかった時間を忘れません。

在校生の皆さん。私たち卒業生は皆さんにとってどんな存在でしたか。いいお手本ばかりではなかったですが、皆さんのもとに何かを残すことはできたでしょうか。これからは皆さんが千種高校を引っ張って、より良い学校にしていってください。ご活躍を祈っています。

そして、三年間無事に学校に通ってこられたのもお父さん、お母さんのおかげです。ありがとう。学校で嫌なことがあればちょっとしたことで八つ当たりすることもありました。また、たくさんの方の苦労や心配をかけました。これからは今まで以上に心配をかけることが多くなると思います。そして、いつか私たちが恩返しできるようになるまで、温かく見守ってください。お願いします。これからも成長する姿をしっかりと見ていてください。

それから、三年間私たちの担任をしてくださった角野先生。先生はいつも私たちに「人の話を聞きなさい」とおっしゃいました。はじめは、ただ聞いているだけでしたが、卒業が近づくにつれて「人の話を聞く」ことは将来の自分のためになるんだなど、遅くなりましたが、やっと気がつきました。わがままで自由なこのクラスを三年間も受け持つことは大変だったと思います。しかし、私たちは角野先生のおかげで卒業を迎えることができました。これからは、一人一人が自分の個性を活かして、各面で活躍していきます。三年という長い月日を私たちのために割っていただき本当にありがとうございます。

私たちはこれから新しい世界へ飛び立ちます。上手くいくときもあれば、壁にぶつかり、悩むこともあると思います。しかし、どんなに高い壁でも、どんなに困難なことでも、自分らしさを忘れず立ち向かっていきます。そして、自分たちの夢のため日々精進していきたいと思っています。

今まで支えてくださったたくさんの方々、そして大切な友達。どんなに辛くても、前を向いて胸を張って歩きましょう。もし、辛くなったら、みんなの笑顔を思い出しましょう。

これから寂しくなりますが、今までの思い出を胸に抱き、友達や日々の生活を宝物とし、それぞれの夢のため飛び立ちましょう。そして、一步を踏み出すその勇気が皆さんの未来へとつながりますように。三年間、本当に、本当にありがとう。

平成26年2月28日
兵庫県立千種高等学校
卒業生代表 清水 彩奈



平成25年度 学校評価 関係者評価票

学校名 兵庫県立千種高等学校

4. 自己評価の実施方法についての学校関係者評価

生徒、保護者、関係中学校の生徒にアンケートを実施し、その結果を踏まえた上で、自己評価していることは評価できる。また評価を高くしているの自分が多い。

5. 総合的な学校関係者評価

自己評価、今後の改善策は概ね適切である。特に下記の改善策は評価されることを期待したい。ただし、あいさつも含め何事も、生徒が教員に「やらされた」と感じさせてはいけいない。その意識を醸成して初めて、改善策が効果的に行われる。教員の生徒に対する接し方、指導の仕方が問われてくる。改善策がどれほど適切であっても、教員自身の教育に自信がなければ効果がない。教員に求められるものは、多岐にわたる。本校の特色、歴史、文化、環境などを活かして、生徒の個性を伸ばし、進路指導などこれまでにないような取り組みを定着させ、生徒の成長を促すこと、部活動や実践活動などこれまでにないような取り組みを定着させ、生徒の成長を促すこと、部活動や実践活動などこれまでにないような取り組みを定着させる。

1. 学校教育目標

企業文化の理解を中高一貫教育で培い、夢を形にする進路指導の充実を通じて、企業文化・社会生活・国際社会に貢献できる人材を育成する。

2. 重点目標

- ①地域・保護者に期待され、評価される学校づくりを推進する。
- ②千種中学校区少連携、小中一貫推進事業との連携を深め、まわりの活動を推進する。
- ③確かな学力・豊かな人間性をもち、進路実現に向けて努力する生徒を育成する。
- ④主体的な学習・探究活動を通して心身を鍛錬し、将来の社会生活で逞しく生きる体力・精神力を養う。
- ⑤就職観は生徒に夢と希望をもたせられるよう、学習能力の向上に努める。

3. 自己評価結果（自己評価評価：「5」が最も高く、「1」が最も低い）

実践目標	実践項目	25年度評価	昨年	一昨年	課題・改善策等	自己評価、改善策の適切さに関する学校関係者評価
1	ホームペーページの充実・改善を深め、学校の様子を随時発信する。	4.5	4.5	4.6	ホームページのリニューアルと情報的な更新によりアクセス数は増えた。明治の様子をもっと見せたい。PR活動も作成しHPにUPすることも考えられる。HP以外にも一たん放送やラジオ、テレビなどを活用して情報を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進む本校周辺地域では、ネットの活用状況は必ずしも高くはないことが考えられる。更に地域に理解される学校を目指すには、災害時の広報や一たん放送（音源放送）、ラジオ・テレビなどのマスメディアを活用することも重要である。 ・早急にホームページのプログラムが記入できるようにしてほしい。 ・行事の案内ポスターや千高便りの配布を生徒にさせてほしい。
	地域に理解された「進路型中高一貫教育校」の定着、発展を図る。	4.1	4.1	4.1	文化祭、建機まつり大会は多数の来校、応援があり、地域の本校に対する関心は高い。地域連携の交流の場となるイベントを開催していく。公開授業週間は実施した。	
	生徒が地域と関わる機会を増やし、地域社会の発展を願う気持ちを高揚させる。	4.4	4.2	4.8	生徒が地域と関わる機会は昨年度以上に増えているが、教員側の意識の向上が課題。状況のふれあいフェスタに参加する。	
2	学校行事、授業参観等を充実し、開かれた学校づくりを深め、その感想や意見を学校経営に活かす。	4.1	4.1	4.1	文化祭、建機まつり大会は多数の来校、応援があり、地域の本校に対する関心は高い。地域連携の交流の場となるイベントを開催していく。公開授業週間は実施した。	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい基本的な生活習慣の確立には家庭との連携が大切なので、「生活調査」をきっかけとして改善を図る。 ・登下校時のあいさつは、学校園を基盤に、地域をのぞいてさらなる啓蒙が必要である。 ・「生徒の登校の機会を増やす」とあるのは必要事項であり、今後さらに発表の場を増やして欲しい。 ・駅活動は、小中高連携して育成強化できる仕組みを考案することができればいい。 ・駅活動の集研を認めて大会に参加できるようにしてほしい。 ・課題を自ら見つけ、仲間と協力して解決する力を育ててほしい。その中でコミュニケーション能力が高まる。 ・野球場を拠点にすると中高連携できるのでは。
	生徒の自ら学び、自ら考える主体的な学習を育成する。	3.3	3.6	3.8	インプロ学習、生活体験、人権作文、課題研究、職業体験等について、生徒自らが体験し、学んだことを全校集会等、自ら発表する機会を増やす。インプロ学習のあり方について、検討する必要がある。	
3	挨拶の励行等基本的な生活習慣の確立に努めさせる。	4.0	4.1	4.6	生徒が学校時や校舎内で自発的に挨拶することを中心に定着させる。校舎の開始前と終わりのあいさつの際、椅子を中に入れた挨拶をする機会もある。家庭との連携を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい基本的な生活習慣の確立には家庭との連携が大切なので、「生活調査」をきっかけとして改善を図る。 ・登下校時のあいさつは、学校園を基盤に、地域をのぞいてさらなる啓蒙が必要である。 ・「生徒の登校の機会を増やす」とあるのは必要事項であり、今後さらに発表の場を増やして欲しい。 ・駅活動は、小中高連携して育成強化できる仕組みを考案することができればいい。 ・駅活動の集研を認めて大会に参加できるようにしてほしい。 ・課題を自ら見つけ、仲間と協力して解決する力を育ててほしい。その中でコミュニケーション能力が高まる。 ・野球場を拠点にすると中高連携できるのでは。
	生徒が地域と関わる機会を増やし、地域社会の発展を願う気持ちを高揚させる。	4.2	3.8	4.1	体育と理科に加えて、英語、社会でも行った。その他の教科書も、動きかけの機会と中学校のみならず、小中学校に対して増やしていく。駅活動の連携も重要。	
4	挨拶の励行等基本的な生活習慣の確立に努めさせる。	4.0	4.1	4.6	生徒が学校時や校舎内で自発的に挨拶することを中心に定着させる。校舎の開始前と終わりのあいさつの際、椅子を中に入れた挨拶をする機会もある。家庭との連携を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい基本的な生活習慣の確立には家庭との連携が大切なので、「生活調査」をきっかけとして改善を図る。 ・登下校時のあいさつは、学校園を基盤に、地域をのぞいてさらなる啓蒙が必要である。 ・「生徒の登校の機会を増やす」とあるのは必要事項であり、今後さらに発表の場を増やして欲しい。 ・駅活動は、小中高連携して育成強化できる仕組みを考案することができればいい。 ・駅活動の集研を認めて大会に参加できるようにしてほしい。 ・課題を自ら見つけ、仲間と協力して解決する力を育ててほしい。その中でコミュニケーション能力が高まる。 ・野球場を拠点にすると中高連携できるのでは。
	生徒の自ら学び、自ら考える主体的な学習を育成する。	3.3	3.6	3.8	インプロ学習、生活体験、人権作文、課題研究、職業体験等について、生徒自らが体験し、学んだことを全校集会等、自ら発表する機会を増やす。インプロ学習のあり方について、検討する必要がある。	
5	挨拶の励行等基本的な生活習慣の確立に努めさせる。	4.0	4.1	4.6	生徒が学校時や校舎内で自発的に挨拶することを中心に定着させる。校舎の開始前と終わりのあいさつの際、椅子を中に入れた挨拶をする機会もある。家庭との連携を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい基本的な生活習慣の確立には家庭との連携が大切なので、「生活調査」をきっかけとして改善を図る。 ・登下校時のあいさつは、学校園を基盤に、地域をのぞいてさらなる啓蒙が必要である。 ・「生徒の登校の機会を増やす」とあるのは必要事項であり、今後さらに発表の場を増やして欲しい。 ・駅活動は、小中高連携して育成強化できる仕組みを考案することができればいい。 ・駅活動の集研を認めて大会に参加できるようにしてほしい。 ・課題を自ら見つけ、仲間と協力して解決する力を育ててほしい。その中でコミュニケーション能力が高まる。 ・野球場を拠点にすると中高連携できるのでは。
	生徒の自ら学び、自ら考える主体的な学習を育成する。	3.3	3.6	3.8	インプロ学習、生活体験、人権作文、課題研究、職業体験等について、生徒自らが体験し、学んだことを全校集会等、自ら発表する機会を増やす。インプロ学習のあり方について、検討する必要がある。	
6	挨拶の励行等基本的な生活習慣の確立に努めさせる。	4.0	4.1	4.6	生徒が学校時や校舎内で自発的に挨拶することを中心に定着させる。校舎の開始前と終わりのあいさつの際、椅子を中に入れた挨拶をする機会もある。家庭との連携を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい基本的な生活習慣の確立には家庭との連携が大切なので、「生活調査」をきっかけとして改善を図る。 ・登下校時のあいさつは、学校園を基盤に、地域をのぞいてさらなる啓蒙が必要である。 ・「生徒の登校の機会を増やす」とあるのは必要事項であり、今後さらに発表の場を増やして欲しい。 ・駅活動は、小中高連携して育成強化できる仕組みを考案することができればいい。 ・駅活動の集研を認めて大会に参加できるようにしてほしい。 ・課題を自ら見つけ、仲間と協力して解決する力を育ててほしい。その中でコミュニケーション能力が高まる。 ・野球場を拠点にすると中高連携できるのでは。
	生徒の自ら学び、自ら考える主体的な学習を育成する。	3.3	3.6	3.8	インプロ学習、生活体験、人権作文、課題研究、職業体験等について、生徒自らが体験し、学んだことを全校集会等、自ら発表する機会を増やす。インプロ学習のあり方について、検討する必要がある。	
7	挨拶の励行等基本的な生活習慣の確立に努めさせる。	4.0	4.1	4.6	生徒が学校時や校舎内で自発的に挨拶することを中心に定着させる。校舎の開始前と終わりのあいさつの際、椅子を中に入れた挨拶をする機会もある。家庭との連携を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい基本的な生活習慣の確立には家庭との連携が大切なので、「生活調査」をきっかけとして改善を図る。 ・登下校時のあいさつは、学校園を基盤に、地域をのぞいてさらなる啓蒙が必要である。 ・「生徒の登校の機会を増やす」とあるのは必要事項であり、今後さらに発表の場を増やして欲しい。 ・駅活動は、小中高連携して育成強化できる仕組みを考案することができればいい。 ・駅活動の集研を認めて大会に参加できるようにしてほしい。 ・課題を自ら見つけ、仲間と協力して解決する力を育ててほしい。その中でコミュニケーション能力が高まる。 ・野球場を拠点にすると中高連携できるのでは。
	生徒の自ら学び、自ら考える主体的な学習を育成する。	3.3	3.6	3.8	インプロ学習、生活体験、人権作文、課題研究、職業体験等について、生徒自らが体験し、学んだことを全校集会等、自ら発表する機会を増やす。インプロ学習のあり方について、検討する必要がある。	
8	挨拶の励行等基本的な生活習慣の確立に努めさせる。	4.0	4.1	4.6	生徒が学校時や校舎内で自発的に挨拶することを中心に定着させる。校舎の開始前と終わりのあいさつの際、椅子を中に入れた挨拶をする機会もある。家庭との連携を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい基本的な生活習慣の確立には家庭との連携が大切なので、「生活調査」をきっかけとして改善を図る。 ・登下校時のあいさつは、学校園を基盤に、地域をのぞいてさらなる啓蒙が必要である。 ・「生徒の登校の機会を増やす」とあるのは必要事項であり、今後さらに発表の場を増やして欲しい。 ・駅活動は、小中高連携して育成強化できる仕組みを考案することができればいい。 ・駅活動の集研を認めて大会に参加できるようにしてほしい。 ・課題を自ら見つけ、仲間と協力して解決する力を育ててほしい。その中でコミュニケーション能力が高まる。 ・野球場を拠点にすると中高連携できるのでは。
	生徒の自ら学び、自ら考える主体的な学習を育成する。	3.3	3.6	3.8	インプロ学習、生活体験、人権作文、課題研究、職業体験等について、生徒自らが体験し、学んだことを全校集会等、自ら発表する機会を増やす。インプロ学習のあり方について、検討する必要がある。	
9	挨拶の励行等基本的な生活習慣の確立に努めさせる。	3.9	3.6	4.1	駅活動、委員会活動への参加を積極的に推進し、充実した高校生活を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい基本的な生活習慣の確立には家庭との連携が大切なので、「生活調査」をきっかけとして改善を図る。 ・登下校時のあいさつは、学校園を基盤に、地域をのぞいてさらなる啓蒙が必要である。 ・「生徒の登校の機会を増やす」とあるのは必要事項であり、今後さらに発表の場を増やして欲しい。 ・駅活動は、小中高連携して育成強化できる仕組みを考案することができればいい。 ・駅活動の集研を認めて大会に参加できるようにしてほしい。 ・課題を自ら見つけ、仲間と協力して解決する力を育ててほしい。その中でコミュニケーション能力が高まる。 ・野球場を拠点にすると中高連携できるのでは。
	生徒の自ら学び、自ら考える主体的な学習を育成する。	3.9	3.7	3.8	駅活動、委員会活動への参加を積極的に推進し、充実した高校生活を支援する。	

実践目標	実践項目	25年度評価	昨年	一昨年	課題・改善策等	自己評価、改善策の適切さに関する学校関係者評価
10	各教科において、授業研究など学習指導について工夫・改善がなされている。	4.0	3.7	3.4	教科の内容を充実させるために、わかる授業のあり方について多方面から考察していく。持ち時間の偏りをなくす。英語の小・中高の研究会を他教科でも実施する。	・各教科の学力向上を旨とした、実のある小・中・高の連携が課題である。 ・今年度「公開授業週間」を実施した。他教科の授業を多視し意見交換を行い授業改善を進める取り組みを継続させることが大切だ。 ・「千種学」を実施する場合は、地域の人材等を活用して小・中での学びと連携させて欲しい。協力者は多いはずである。 ・商店街の空き店舗で、月1回でも高校生が企画運営して何かできないか。
11	生徒の興味・関心に応じた教育活動を展開し、「分かる授業」をするために、学習指導の工夫・改善に努める。	3.7	2.9	2.7	学期中に授業公開週間、研究授業を実施し、実施後に意見交換する機会を義務づける。	
12	地域の人材や素材を活用した特色ある授業の取り組みを行う。	3.7	4.0	3.9	千種中学校が実施する「千種学」を参考に、これまでの固定化された内容に留まらず新たな分野を開拓し、新たな特色づくりに取り組む。	
13	生徒の実態や能力に応じて、個に応じたきめ細かい学習指導を実施する。	4.3	4.0	4.1	ペーシング、アクティブフォーの授業では授業者のみならず、生徒のそばで授業理解を支援する補助教員のさらなる確信が必要である。	
14	課題や宿題の指導を通して、家庭学習の習慣化を図る。	3.5	3.1	3.1	通期一貫の取り組みの「家庭学習の手引き」「家庭学習調査」を取り入れる。週本課題等の実施点検や、家庭学習の習慣化を図る。	
15	適切な学習指導と家庭学習の習慣化を図り、個々の生徒の進路実現を支援する。	4.4	4.0	4.0	自己の将来のために基礎学力や資格がいかに必要であるかという考えを理解させ、やらされるのではなく、自ら進んで取り組み意識を高揚させる。	
16	家庭連絡や家庭訪問を通して、保護者との情報交換や意思の疎通を図る。	4.0	3.4	4.0	全家庭を家庭訪問する他、夏季休業中の面談以外にも担任と保護者が面談する機会を増やす。3年間を見通した計画的な指導体制を確立する。	・家庭学習を習慣化できないう生徒が多くいることについて、小中学生に配布されている「家庭学習の手引」の高校版を作成し、家庭学習調査も実施する。 ・進路選択では「3年間を見通した計画的な指導体制」のもと、生徒と保護者、担任と面談を数多く実行してもらいたい。
17	生徒の進路希望を達成するために、情報の収集や提供を行い、適切な進路指導を行う。	4.1	3.8	4.2	進路指導部と学年との連携を密にして進路LHRの年間計画を策定し、実施する。また進路検討会（進学・就職）の機会を増やす。	
18	マナーや規律、規範意識を高める取組を、ホームルーム、生徒会活動等で行う。	3.9	4.0	3.9	あくまでも全教職員が共通理解のもと、全教職員で指導する。その中で、情報モラル向上の取り組みでは生徒会が活躍し知見を挙げた。校則違反、意図的な器物破損を繰り返す生徒はほぼ皆無となった。人権ホームルームも活用する。	
19	生徒一人ひとりの役割や居場所を、クラスの中や様々な教育活動の場において規定する。	4.0	3.8	3.8	ホームルーム進出の委員に活動の場をこれ以上に与え、部活動の全入をさらに進める。	
20	生徒の個人面談や、日頃の声かけ指導を積極的に行う。	4.0	4.1	3.8	1・2学期の個人面談を定例化する。効果的な声かけ、思いが伝わる声かけの在り方について、研修を行う。	
21	防災教育や安全教育を、学校全体はもとよりホームルームまでで行う。	4.3	3.8	3.7	ホームルーム計画作成時に防災教育の計画を盛り込む。全教職員が防災、安全教育を意識して指導する。地域連携防災訓練を継続して実施する。	・社会に出ても通用するよう教員は支援してほしい。 ・高校時代に落けるよう教員は使ってほしい。 ・携帯電話、スマートフォンの使用に伴うトラブルなどがある。その危険性について、関係機関と連携し、定期的に意識付けをするべきである。今年度生徒会も巻き込んで情報モラルの向上に取り組んだことは大いに評価できる。 ・「カウセンリング」を1学年の全生徒に体験させたい。カウセンリングは是非継続してもらいたい。 ・防災教育、安全教育は学校内のみで取り組む問題ではなく、今年度のような地域と連携した取り組みを継続して欲しい。 ・幼児虐待の事件が起きてきている。育児体験等取り入れて命の授業も大切である。
22	人権に関わる課題を知識として学ぶだけでなく、日常生活において態度や行動に現れるような人権意識の育成に努める。	3.7	3.9	3.7	学期ごとに生徒参加型の人権LHRを充実させる。分りやすい人権講演会を実施する。	
23	教育活動全般に通じて、情報の活用に伴う情報モラルの育成に努める。	4.4	3.6	3.6	生徒会中心の情報モラル向上の取り組みを継続していく。他者の人権侵害をゼロにする。生徒の生活改善や家庭学習の充実にもつなげる取り組みを進める。	
24	キケンバスカウセンラーと連携を密に取ったり、悩みを抱える生徒の支援体制を作る。	4.3	3.8	4.3	カウセンラーの指導内容を必要部署にて共有する。生徒が相談しやすい環境づくりの一環として、今後も年度当初にカウセンリングを1学年全生徒に体験させる。	

Ⅷ 平成25年度年間実施行事

総務部

平成25年度 県立千種高等学校 年間実施行事

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
1月	月令交付	1水	全校集会	1土		1月		1木		1日	
2火		2木		2日	全校集会	2火		2金	サッカー教室・ゴルフ教室	2月	大掃除・始業式
3水		3金	(準)福祉講習	3月		3水		3土		3火	課題考査
4木		4土	(高)より行事	4火	中高進路環境美化活動	4木	期末考査①	4日		4水	
5金	合格者招集	5日	(にびの里)3年模試	5水		5金	期末考査②	5月	3年中期補習①	5木	
6土		6月	↓	6木		6土		6火	3年就職ガイダンス	6金	
7日		7火		7金	基礎学力到達度テスト①・英検1次	7日		7水	海と山の学校間交流(家島)	7土	
8月	着任式・始業式・入学式	8水		8土	3年模試	8月	期末考査③ 学校評議員会	8木	千種カウンスリング講習会	8日	
9火	課題考査・身体測定・対面式新法研修会	9木	PTA専門委員会 1年高層修	9日		9火	期末考査④ 進路ガイダンス	9金		9月	行プロ5
10水	PTA開業	10金		10月		10水	球技大会	10土		10火	
11木	心電図・X線・職員健診	11土		11火		11木		11日		11水	
12金	講任式	12日		12水	中高進路講演会	12金	中高進路講演会	12月		12木	
13土		13月		13木		13土		13火		13金	
14日		14火	中間考査①	14金	文化祭準備・中一特	14日	筆記能力検定・情報処理技能検定	14水		14土	
15月	行プロ1	15水	中間考査②	15土	文化祭(午後連演)	15月	(海の日)	15木		15日	
16火	内科検診・尿検査(1次)	16木	中間考査③	16日		16火	火心部共生法講習会(全学年)	16金		16月	(敬老の日)
17水	眼科検診・生徒総会	17金	中間考査④	17月	振替休業日	17水	1年野外活動①	17土		17火	中学校運動会(雨天開催のため)
18木		18土		18火		18木	1年野外活動② 着こなレレニナー	18日		18水	
19金	PTA新役員引継ぎ	19日		19水	千種校区心部共生法講習会	19金	終業式・合同職員会議	19月	ソフトボール教室	19木	
20土		20月	行プロ2	20木	千種県立本部高校来校	20土		20火	バレーボール教室	20金	
21日	PTA参観・総会	21火	尿検査(2次)	21金		21日		21水	オープンハイスクール 中高進路部活動体験	21土	3年模試
22月	振替休業日	22水		22土		22月	前期補習①	22火		22日	小学校運動会
23火		23木	合同職員会議	23日		23火	前期補習②	23金		23月	(秋分の日)
24水	歯科検診・合同職員会議	24金		24月	行プロ4	24水	前期補習③	24土	数学検定	24火	基礎学力到達度テスト②
25木	耳鼻科検診	25土		25火	供教委体育保健課訪問指導	25木	前期補習④	25日		25水	
26金		26日		26水	パソコン入カコンクール	26金		26月	後期補習①・中学生補習	26木	合同職員会議
27土		27月	行プロ3	27木		27土	妙見夏祭	27火	後期補習②・中学生補習	27金	
28日		28火		28金	1年野外活動前健康相談	28日		28水	後期補習③・中学生補習	28土	
29月	(秋分の日)	29水		29土	全学年模試	29月		29木	後期補習④	29日	
30火		30木		30日	ビジネス文書検定	30火		30金		30月	行プロ6
31日		31金	進路ガイダンス(3年)	31月		31水		31土		31日	行プロ7
行プロ8		行プロ9(5/13,20,27) 全生徒家庭訪問(全学年)		行プロ10(6/3,10,20,24) アテ下見6/20-23		行プロ11(7/18) 第1回漢字検定(7/12)		行プロ12(8/8) 消費者教育バスツアー(8/8)		行プロ13(9/5,9,17,30)	
1年生カウンスリング体験(4月末～7月上旬)											

平成25年度 県立千種高等学校 年間実施行事

10 月		11 月		12 月		1 月		2 月		3 月	
1 火	全校集会	1 金	全校集会 漢字検定	1 日	情報処理能力検定・日本語ワーキングの検定	1 水	(元日)	1 土	ビジネス文書検定	1 土	
2 水		2 土	学年年報誌	2 月	体育館照明工事(～10日)	2 木		2 日	看護・医療・公務員模試	2 日	
3 木	沖縄県本部町議会来校	3 日	(北見の日)ふれあい文化祭	3 火		3 金		3 月		3 月	学年末考査①
4 金	予行準備・中高合同体育	4 月		4 水		4 土		4 火		4 火	学年末考査②
5 土	体育大会(午後連携)	5 火	振替休業日	5 木		5 日		5 水		5 水	学年末考査③
6 日	予備日	6 水	本造飯設建前演習	6 金	期末考査①	6 月	(仕事始め)	6 木	第5回中高連携マラソン大会	6 木	学年末考査④ カウンセリング職員研修会
7 月	振替休業日 2学期生活調査	7 木		7 土		7 日		7 金		7 金	学校評議員会
8 火		8 金	高校教育課訪問指導(数学)	8 日		8 水	始業式	8 土	2年模試	8 土	数学検定
9 水		9 土	JA祭(中高吹奏楽部出演)	9 月	期末考査②	9 木	課題考査	9 日		9 日	
10 木		10 日	英検2次 JA祭(軽音楽部出演)	10 火	期末考査③・基礎学力別進級テスト③	10 金		10 月		10 月	
11 金	英検1次 2年修学旅行説明会	11 月	ライブ08 オープンスクール	11 水	期末考査④ 千種実習対策プロジェクト発表	11 土		11 火	(理研発表の日)	11 火	3.11追悼行事
12 土	3年模試 情報処理技能検定	12 火		12 木		12 日		12 水		12 水	学力検査入学者選抜
13 日		13 水	小中高連携講演会 部活動体験	13 金	県庁ビジョン課出前授業	13 月	(成人の日)	13 木		13 木	生徒休業日
14 月	(体育の日)	14 木		14 土		14 火	創立記念日 生徒休業日	14 金	連携型入学者選抜	14 金	
15 火		15 金	数学検定	15 日		15 水		15 土	数学検定	15 土	
16 水	2年ふれあい育児体験	16 土		16 月	心のサポート実践研究発表会	16 木		16 日	簿記能力検定	16 日	
17 木	中間考査①	17 日		17 火		17 金	1.17追悼行事 センター試験	17 月		17 月	
18 金	中間考査②	18 月	修学旅行(～23日)(アナム島)	18 水		18 土		18 火		18 火	
19 土		19 火		19 木		19 日		19 水	連携型合格者発表 学校保健委員会	19 水	学力検査合格者発表
20 日		20 水	1年大学・専門学校見学会	20 金	合同職員会議	20 月	3学期 生活調査	20 木	スキー検定	20 木	終業式・進路実行委・合同職員会議
21 月	中間考査③	21 木		21 土		21 火		21 金	1・2年進路ガイダンス	21 金	
22 火	中間考査④ 芝生化作業	22 金		22 日		22 水	進路検討会	22 土		22 土	
23 水	本造パネル作製作業・育児体験	23 土		23 月	(天皇誕生日)	23 木		23 日	情報処理技能検定	23 日	
24 木		24 日	ビジネス文書検定 もみじ	24 火	終業式	24 金	英検1次	24 月		24 月	補習①
25 金		25 月	振替休業日	25 水	補習①	25 土	1・2年模試	25 火		25 火	補習②・合格者説明会
26 土		26 火		26 木	補習②	26 日		26 水		26 水	補習③
27 日	千種町ふるさと芸術大会	27 水		27 金	補習③ (仕事始め)	27 月	卒業考査① 家鳥交流	27 木	表彰伝達式・予行	27 木	補習④
28 月	ライブ07	28 木		28 土		28 火	卒業考査②	28 金	第39回卒業証書授与式	28 金	
29 火	修学旅行前健康相談	29 金		29 日		29 水	卒業考査③	29 木		29 木	
30 水		30 土		30 月		30 木	卒業考査④ 1年アフターアライズ	30 日		30 日	
31 木		31 日		31 火		31 金	3年卒業校最終日	31 月		31 月	
キリン・SAP/カワガ(10/21,28)		キリン・SAP/カワガ(11/6,11)		キリン・SAP/カワガ(12/3,9,16)		キリン・SAP/カワガ(1/20,27)		キリン・SAP/カワガ(2/3,10,24)		キリン・SAP/カワガ(3/3,6,10,17) 個人写真・教科書販売(3/19)	

IX 平成25年度の広報活動

総務部広報係

1 「千高だより」の発行について

(1) 「千高だより」の特徴

本校の広報紙「千高だより」の特徴は、そのカラフルさにある。町内の小学生からお年寄りまで、幅の広い年齢層の方々に親しみを持って読んでいただけるように、文章の量を抑えて写真を多用し、必要に応じてイラストも取り入れている。手に取りやすいようにA4判の美しい白上質紙を用いているのも自慢のポイントである。

(2) 発行回数と発行部数

平成25年度は、速報性を大事にしようと毎月2回の発行回数を旨とした。3月末版は「第23号」となっている。ちなみに、平成24年度は13号までの発行であったので、大幅な増加と言えよう。また、毎回の発行部数は約800。町内の各学校園には全生徒及び全教職員分、宍粟市内の各中学校には各校10部、西播磨管内の各中学校には5部ずつ、千種町内の主な施設及び営業所等にも各10部を配布して回っている。

浅田校長先生は、県教委及び光都の西播磨教育振興室に行かれるたびに「千高だより」を持参されており、事務局の先生方にも楽しみにしていただいている。次項のHP運営も、勿論時代の流れの中にあって重要ではあるが、依然として「紙媒体」が学校現場の情報発信の上で非常に重要な役割を担っているのである。

2 「HP」の運営について

(1) 「千種高校HP」の特徴

① 「千種高校ブログ」で生徒の様子を日々発信

千種高校生が今どんなことをしているのかということ、できるだけ回数多く写真入りで伝え、遠くにおられる卒業生や不特定多数の千種高校応援団の方々にお伝えするように日々記事を執筆し、更新している。

② 「英文版ブログ」を開設した平成25年度

平成25年5月、本校HP内に「英文ページ（英文版ブログ）」を開設し、本校における日常の教育活動や千種町の歴史・文化・自然等について広く海外に発信するという試みを行った。「English」という項目を持ち、学校要覧の英訳をHP上に掲載している学校は多い。しかし、その英語は10年経っても変わらず、意欲的に日々の活動を英語で発信している例はほとんどない。これは、英語教育における実験という意味合いもあり、近い将来生徒の英語作品（エッセイ、英語俳句、英詩等）の発表の場としても活用できるという可能性を秘めている。それを世に問うているのである。

③ 「Leaflet & Booklet」・「新聞掲載記事」等、豊富な資料コーナー

本校でこれまでに作成した資料（チラシ、冊子）を公開し、いつでもご覧になっていただけるようにトップページの画面上に「資料庫」とでも呼ぶべきコーナーを設け、広く半永久的に読んでいただけるようにしている。

(2) アクセス件数について

HP画面上左側の下に、「2011.8.23～2012.3.6 5945」という数字がある。これは本校のHP開設（第1期）が「2011年8月23日」であったということ、学校評議員会での提案を取り入れて、山崎町のHP運営会社「Will 学習塾」の名賀様に依頼して現在のHPに作り替えた時、つまり「2012年3月6日」までの約半年間のアクセス数が「5945件」であったことを示している。3月7日にリニューアルされ、「第2期」となっている。

詳しいシステム上の仕組みは不明であるが、第2期に衣替えして以降、つまり「2012年3月7日」以降2年が経過した2014年3月末現在のアクセス数は、「約250000件」である。単純に計算しても半年間で約65000件のアクセスを記録してきており、これは第1期に比べて飛躍的なのか、爆発的な伸びである。現在も日に1000件に迫ることもある。今後とも、このアクセス件数に耐え得るだけの内容の充実と情報発信に努めたい。

X 提言：千種高校の更なる成長を図るために

生徒指導部長 福永 順二郎

過去 8 年間にわたって千種高校の変容と成長を見てきた。本校に着任した時に、ステージ上から見た生徒の姿が今も蘇ってくる。そして今、私たちの目の前にいる現在の生徒と比べれば、その違いは余りにも大きく隔世の感がある。生徒指導件数も今や西播で最も少ない学校となり、兵庫県下初の「連携型中高一貫教育校」として、様々な活動に意欲的に取り組むことができることを非常に嬉しく思っている。

嬉しくは思うが、現在の千種高校に満足しているわけではない。寧ろ危機感さえ抱いている。私たち教師が日々相手にしているのは生身の人間であり、常に変化しているということを肝に銘じておかねばならない。現状に満足して気を緩めれば、その瞬間に学校の衰退は始まる。ましてや、少子化の傾向が更に進みゆく山間僻地の最小規模校として如何なる方向性を打ち出すべきなのか、その点を明確にしておかねば千種高校の未来はない、と言っても過言ではなからう。

千種高校の更なる成長を願って、私なりの考えを述べたい。この『千種高校展望』の中で、一つの時代の記録として後世に語り継がれ、これからの教育を担う若い先生方へのヒントとなれば幸いである。

1 目 標：「県下に誇れる魅力ある学校づくり」

県下一小さな学校であるが、生徒に自信をつけさせ、誇りを持たせる学校運営に全職員で取り組もう。小さな学校でもやれば出来るということを実証しよう。

2 成長戦略：魅力ある教師集団 ⇔ 魅力ある生徒を育てる ⇔ 魅力ある学校へと進化！

*立地条件等を始め、他の学校に比べてハンディを背負っている。

マイナスをプラスのエネルギーに！



- 1 千種高校は入学者が20人を3年間続けて切れれば存続が難しいとも言われている。
→ 教員は絶えず「危機感」を持って取り組むことが大事である。
- 2 悪評高き時代が以前あったので、汚名返上がなかなか難しい。
→ 広報活動をしっかり行う。今の千種高校生を見ていただく。
- 3 伝統に乏しい → 良き伝統を作っていこうという気持ちを生徒に抱かせる。
- 4 小規模校 → 団体スポーツが成立しにくい。だからこそ、結果を残し自信をつけさせる。重点的部活動を明確にし、力を注ぐ。
- 5 僻地である → 学校通信やクラブ通信を発行し、勉強合宿、クラブ合宿を行い、情報の発信を行う。そして地域の活性化にもつなげる。

「1人1人の生徒を大切にし、絶えず**夢**を持って指導していこう！」

3 具体策：以下の5つの取り組みにより、千種高校はより成長し希望者も増える。

(1) 生徒指導：千種高校を良くしていくには生徒指導が最重要である。

<目標> 問題件数ゼロ 不登校ゼロ 留年者ゼロ

上記の目標を達成するために、躰教育(挨拶、服装、マナー)を徹底して行う。本校の生徒は非常に多様で、学力や生活習慣の面で様々な問題を抱えた生徒も多いのが現実である。その生徒たちに対して、自信をつけさせ、学ぶことの喜びを教え、そして昨日よりも今日、今日よりも明日へと伸びていくことを実感させることが肝要である。

自信がない、低学力である、諦めやすい、心が不安定で切れやすい、多動症である、服装がだらしない等の問題を持った生徒たちを如何に伸ばせるかが、千種高校の一番大事な鍵となる。

(2) クラブ活動：学校の核を作る → 学校を明るく引っ張る原動力になる。→ 強いクラブが出来たら刺激を受け、お互いに切磋琢磨して向上していける。

*クラブ活動を通じて人間力を育てる。(挨拶・服装・清掃・努力できる等)

*成績 西播上位入賞

(小さな学校でもやれば出来ることを身をもって実証する)

⇒ 「県下に認められるクラブを作る」

勝利至上主義ではないが、結果は大事な要素である。結果を出すことにより生徒は自信をつけていく。また挑戦意欲も増してくる。結果が出ないのは、教師として指導者として反省しなければならないことである。

(3) 進路指導：① チャレンジコースの学力アップ

勉強する習慣をつける(家庭学習不足)。国公立大5人合格を目指す。夏の勉強合宿を実施し、外部から遠慮なく講師を招く。

② アクティブコース・ベーシックコースの基礎・基本の徹底

③ 教師の資質向上及び指導力アップ・授業力のレベルアップ

*研究授業の実施(月に一回ぐらいはやっても良い)。

*講師を招いて研究授業をやってもらう、等の方策を果敢にとっていく。

(4) クラス運営：生徒と一番身近にいるクラス担任が大きくウエイトを占める。

生徒をしっかり掌握して指導できればクラスの生徒はどんどん伸びていく。

学年のまとめ → 一番大変なのは担任である。そのフォローを他の担当教員がいかにも目立たずやっていけるかが大事なポイントとなる。

(5) 問題を抱える生徒：不登校生徒・多動・学習障害を持つ生徒を如何に育てるか。

現在の千種高校には、中学時代不登校及びその傾向のあった生徒たちや特別な支援を要する生徒たちが数多くいる。その現実をしっかりと直視し、小規模校だからこそできるきめ細やかな指導を行い、生徒一人ひとりに関わっていく教育を展開する。

教育相談活動を充実させ、教員間の連絡を密にすることで共通理解を図り、多くの教員の「まなざし」によって生徒を育ててゆくことが肝要である。また、カウンセリングの内容をできる限り共有し、教師の認識を高める。要は、何事に当たるにしても教師が生徒一人一人の心をしっかりつかむことである。

4 結 語：大事なものは、「教師」である。

教師で学校は変わる。学校が良くなるのも悪くなるのも教師次第である。いい加減な教師にもってもらえば、その時は楽でいいかもしれないが学力も付けてもらえず、人間的な成長もなく、かわいそうなのは生徒であると同時に学校もどんどん悪くなる。

<望むべき教師像>

・人間的魅力を備えている → この先生のことなら聞こう頑張ろうという気にさせる教師

・生徒を育てる、伸ばすと熱い情熱を持っている教師 → サラリーマン教師ではダメ

・教科指導が出来る → 教科指導で生徒はついてくるし、信頼関係もできる

・生徒指導が出来る → 生徒を人間的に成長させるには叱る先生が必要

(今一番生徒に欠けているのは躰と忍耐力。社会に出れば通用しない)

・バランスのとれた教師 → 勉強だけしてきたエリート教師は勉強が解らない生徒の気持ちや非行に走る生徒の気持ちが理解できない。

「千種高校は教師の人数が少ない分、教師一人の力が大切になる。」

以上の提言をもって、千種高校が更に発展することを切に願い、筆を置く。

XI 千種高校の書画・石碑等あれこれ 一校内に点在する歴史の語り部一

教頭 原田 尚昭

本校は、平成30年に創立70周年を迎える。ここ数年来、伊勢神宮や出雲大社の式年遷宮が様々な場面で取り上げられ、歴史や伝統及び記憶の継承という点で大きな役割を果たしてきたことが改めて認識されることとなった。学校も同様である。ある一定の労力が必要であり、時間も要することではあるが、10年という節目に歴史を振り返るとともに資料を整理することが大事である。時、正に平成26年。70周年まで4年を残すのみとなった。いずれ近いうちに同窓会を始め、PTA及び地域の皆様方と共にその準備を始めることとなろうが、その資料整理に少しでも役立てることができればという思いで、平成24年4月の本校着任以来、校舎及び敷地内に点在する書画や石碑等について来歴を調査しつつ、書き溜めてきた。それらは本校HP内の「千種高校データベース」にも収めてあり、いつでもお読みいただくことができる。

ここでは、それらの原稿から重要な部分のみを抜粋し、『展望第88号』の最終章としたい。

(1) 石碑「自主敬愛の道」

学校にはそれぞれの歴史があり、卒業生や地域の方々が様々な願いを込めて校舎の内外に石碑や記念樹、そして書画扁額等の品々を残されている。千種高校の中にも数多くの記念碑や書画等があり、その第一が「自主敬愛の道」の石碑である。東門から学校に入って真っ先に目につくのがこの碑であり、今ではその後方にある中庭や特別教室棟の姿と共に千種高校の顔となっている。



上の写真1枚目(左)の石碑右下部分に、黒い小さな石が見える。そこに「千種町ライオンズクラブ」から贈られたということと、この碑文を書かれたのは本校の第4代校長・上山勝先生だということが記してある。先生によれば、ちくさ高原でのスキー実習から帰って来られたその晩に、ライオンズの塚崎会長さんから「校長さん書いてくれ」と頼まれて必死になって書かれたとのことで、この時書かれた墨跡が左の写真である。平成25年8月のお盆に、岩野邊にある先生のご自宅をお訪ねした時、「こんなんがあるんやが…」と見せられたのが、巻紙状態の墨書だった。これはある意味では学校の家宝にもあたる物なので、是非にと譲り受けて表装をしたものである。現在は、箱に収めて校長室に置いてある。この碑文の意味について上山先生は、当時のPTA会報「敷草」で次のように述べておられる。

これからの社会は、ますます情報化、科学技術化がすすみます。これらの進歩によって、ふりまわされ、惑わされるのではなく、自ら判断し行動するためには主体性をもち、自主性を身につけることが大へん大事なことです。また、国際化もいっそうすすみ、人を敬愛する精神がより必要とされます。高齢化社会では異なる年代の人々が、ともに敬愛することが求められます。在学中には自主敬愛の道を求め、卒業後は自主敬愛の道を歩む、21世紀を迎えるにふさわしい碑文です。(第18号：昭和62年2月25日発行)

なお、校歌2番の「自主敬愛の道行かむ」であるが、これは作詞者松井利男先生(姫路商業高校初代校長、元兵庫県教育次長、兵庫県同和教育運動の父)が最も大事にされていた言葉で、同じく先生が作詞をされた姫路商業高校校歌の1番に「自主の道」、3番に「敬愛の誓ひ」がある。「自主敬愛の道」、これは松井先生信念の言葉であり、幼少の頃より培われてきた生活信条なのである。両校の校歌に相通ずる、松井先生魂の言葉として心して慈しみ、末永く歌い継いでいきたい。

(2) 校訓碑「自立・信愛」

本校の校訓「自立・信愛」は、昭和 55 年 2 月 25 日に制定された。どのような経緯でこの校訓が制定されたかは、特に記録には残っていないが、本校の旧職員であり前宍粟市教育委員であられた村上紘揚先生(元山崎高校長)に伺うと、当時同和教育の研究が盛んに行われ、迷信や因習にとらわれない科学的な物の考え方を身につけなければいけないということで、「自立」や「自律」という言葉が重んじられたとのことである。

第 4 代校長上山勝先生は、『学校開設 40 周年記念誌』の中で、「校訓の「自律・信愛」の精神は、21 世紀に生きる人間の指標でございます。自らに対しては厳しく律して立ち、他に対しては温かく敬愛し信頼し、ともに生きる人づくりのために、ますます努力してまいりたいと思います。」と述べて、校訓の意味するところを説いて下さっている。



さて、玄関西横に校訓碑「自立・信愛」がある。真西ではなく、妙見社や日名倉山の方向を向いて建てられており、校訓の横には「一九八六年三月 兵庫県立千種高等学校 第十一回卒業生一同 学校長 樫本玉男書」と書かれてある。

この文字を揮毫された第 3 代校長樫本玉男先生は、昭和元年生まれで現在 87 歳、姫路で今もお元気にされている。時折地元の人権教育研究会等で講師を務められるなど、若い頃に培われたご経験を基に今なお活躍である。元々社会科の先生であられたが、昭和 40 年代半ばに兵庫県教育委員会の中に設置された「同和教育指導室(現在の人権教育課)」の指導主事となられ、当時の教育次長で本校校歌の作詞者松井利男先生の薫陶を受け、兵庫県同和教育行政の揺籃期に力を発揮された方である。

先生は、昭和 57 年 1 月 1 日に本校の校長として着任され、3 年 3 カ月をこの千種で単身赴任の形で過ごされた。校訓碑建立当時の事について伺うと、「定年退職の間際になって頼まれて、千種を去り行く前の記念として書かせていただいた。」とのことであった。

先生はまた、当時の育友会報「敷草」に数多くの実に味わい深い、随筆とでも呼ぶべき文章を残されている。同じ西播磨とはいえ、南端から来られた先生の眼に映った当時の千種町の人情や風物について、実に優しい「まなざし」で書かれている。一つ、「敷草」第 14 号(昭和 60 年 2 月 25 日発行)から、「干柿」と題する文章を紹介する。

干 柿

千種高校校長 樫本玉男

今年も福海寺の和尚から干柿を頂いた。窓ぎわにつるし、毎朝その一こだけをほおばる。これがまた何ともいえずおいしい。

「しぶ柿のしぶがそのまま甘味かな」この句は誰だったのだろう。

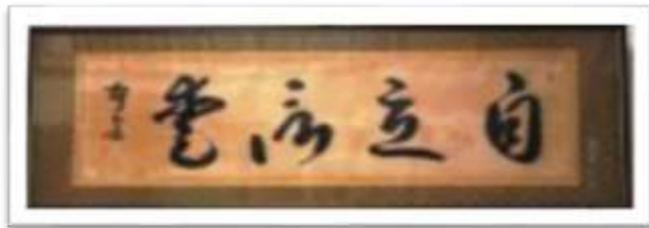
しぶが転じて甘味となるのは、しぶ味を除去して甘味を注入するのではなく、しぶ柿のまま太陽の光と熱に熟されて、しぶそのものが甘味に転化されるのだそうである。

人それぞれその人なりに短所、つまり「しぶ」を持ち合わせている。ところがそのしぶをかなり苦にしている人を時として見かける。それは間違いのように思えてならない。そのしぶはそれなりにその人の個性をつくり出している一部の要素となっていると思うからである。

短所を苦しみに除去しようとするのではなく、干柿に学び、短所そのものがその人の長所に転化されていくなかでこそ、その人としての深みがそして磨きが増していくのではなかろうか。

(3) 校訓額「自立・信愛」

如何なる学校であれ、小中高の別を問わず、その学校の校訓を記した校訓碑や校訓額は必ずあるものであり、特に珍しい話でもないが、千種高校ほど多くの校訓額を掲げている学校は他に例を見ないと思う。まずはそのすべてをご覧いただきたい。



校長室 林 正男 先生 書



職員室 林 正男 先生 書



会議室 山部 一之 先生 書



体育館 山部 一之 先生 原書（彫刻版）



応接室 林 正男 先生 書

林正男先生は、昭和50年1月から55年3月まで千種中学校の校長先生をされていた。また、それ以前に千種東小学校（平成22年度末閉校）の校長であられた時に、千種に昔あった「チャンチャコ踊り」を復元された方でもある。昭和52年、校長として千種中学校の当時の教師集団を率いて出版された教育実践集『よるこびそだつ』は目を見張るような名著であり、今読んでも新しい知見に満ちたものとなっている。元々は、国語や書道の先生であり、千種町内でも先生の号である「柳生」の入った扁額をよく見かける。千種羊羹で有名な「塚崎末廣堂」様のお店にある「羹羊練（ねりようかん）」の額。旅館「瀧長」様の宿泊室「葵の間」に掲げてある達磨画「不動心」を始めとする書画の類など、見かけられた方も多いのではないかと思う。応接室の扁額には号（名前）が入っていないが、筆跡から林先生であろうと推測をしている。

山部一之先生は、本校で昭和48年から29年間書道を教えておられた方で、現在も山崎町のご自宅で「山部一翠（いっすい）書道教室」を開いておられる。山崎高校6回生、現在79歳。会議室の扁額には、校訓の横に「庚申春 一翠書」とある。「一翠」は先生の号で、「庚申春（こうしんはる）」とは「昭和55年春」のことだが、本校の校訓「自立・信愛」が制定されたのが「昭和55年2月25日」であるので、この山部先生の書がその直後に書かれたものであるということで、最も古いものである。電話で先生にその時のことを伺うと、「学校で校訓を決められて、その後すぐに書いてくれと頼まれ書きました。校訓の意味するところが生徒の皆さんに伝わればと願っています。」とのことであった。

いずれにしても、学校内に校訓額がこれだけ多数あり、いつどこにあって私達を見守ってくれていることの意味を噛みしめつつ、日々の教育実践に打ち込んでいきたいと思う。

(4) 玄関「堀井隆水先生の書」

千種高校の玄関に足を踏み入れると、まず目に入るのが実に立派な書の額二幅である。右の額には「成名毎在窮苦日 敗事多因得意時」、そして左の額には「盛年不重来一日難再晨 及時当勉励歲月不待人 隆水書」と書いてある。

この額がかけられるに至った事情と左側の書の意味について、第4代校長上山勝先生が本校の育友会報「敷草」(第20号:昭和63年2月25日発行)で次のように述べられている。

本校の玄関に、大きな額が二つ掲げてあります。その一つに「盛年不重来 一日難再晨 及時当勉励 歲月不待人」とあります。わたしが千種高校へ赴任した時、丹波の石籠寺(せきがんじ)の住職堀井先生が、千種高校生のためにと、筆をとってくださった書です。「盛年(せいねん)重ねて来たらず、一日(いちじつ)再び晨(しん)(夜明け)なり難し、時に及びて当に勉励すべし、歲月人を待たず」と読みます。歲月は再び戻ることはない、その時その時に学び、今を有意義に過ごしてほしい、という意味です。



また、第9代校長長谷川文彦先生は、「敷草」(第44号:平成12年2月25日発行)の中で、この左の書について次のように解説をされている。

本校玄関に入った壁に次のような漢詩が書かれた額が飾られています。

盛年不重来	盛年重ねて来たらず
一日難再晨	一日再び晨(あした)なり難し
及時当勉励	時に及んで当(まさ)に勉励すべし
歲月不待人	歲月は人を待たず

「若盛りの元気あふれる年頃は再び繰り返せない。貴重なその時期にしっかりと勉強するべきだ。」の意味ですが、4~5世紀、東晋の詩人陶淵明の「雑詩」に書かれているもので、書は平成10年度兵庫県公立高等学校校長会会長を務めておられた堀井隆水先生です。朝、玄関を入るとこの詩が目に入ります。さあ、今日は一生懸命頑張ろう、と気迫がある時はこの詩が後押ししてくれるような気がします。しかし、今日は何となく気力が無く、気分が優れない時はこの詩が重たくのしかかってくるようです。

右の額の書「成名毎在窮苦日 敗事多因得意時」については、第10代校長平形秋友先生が「敷草」(第48号:平成14年2月26日発行)の中で卒業生に寄せる言葉の中で紹介し、次のように述べておられる。平形校長先生は、「小規模校活性化」の研究指定を打ち出し、今の「連携型中高一貫教育」につながる動きを創り出した方である。

・・・ そういった色々な思いをめぐらせながら、正面玄関に掲げている書『名を成すは、常に窮苦の日にあり、敗れることの多くは、得意の時による。』という錢のことばを贈ります。

これは、「物事に成功したり、立派な行いや人間としてよりよく成長するのは、困ったり苦しんだり窮したりしている時にこそ達成される。また反対に失敗したり、敗れたりすることの多くは、得意になっている時である。」と意味しています。

「毎」という字は「つねに」と読み、読み下し文も他の文献では「名を成すは毎に窮苦の日にあり。事を敗る(破る)は多くは得意の時に因る。」という文献もある。

39 回生の卒業式で第 15 代浅田尚宏校長先生が、式辞の中でこの言葉を卒業生への饒に紹介されたが、生徒諸君はそれが、玄関にかけてある額の中の言葉だと気がついただろうか。校長先生がその時おっしゃったように、これは、「日本資本主義の父」と呼ばれた澁澤榮一先生（天保 11 年～昭和 6 年）が、座右の銘として好んで書き、特に米寿を迎えた時に何枚か書いて知人に贈ったという話がよく伝えられている。澁澤先生はこの名言を選ぶに際し、中国・明末の教養人陸紹珩（りくしょうこう）の書いた『酔古堂劍掃（すいこどうけんすい）』という古今の名言等を集めた本の中にある「成名毎在窮苦時 敗事多因得志時」を参考としたようである。では、この言葉の典拠は何であるかと云えば中唐の詩人韓愈（韓退之）の詩からの引用らしい。『酔古堂劍掃』というこの本は、江戸中期から大正期にかけてよく読まれていたが、昭和に入るとほとんど読まれなくなった。いずれにしても、この言葉が云わんとすることは本当にその通りで、常に肝に銘じておきたいものである。

さて、これらの書を書きとてくださった堀井隆水先生は、上山校長先生も紹介されているように丹波の真言宗石龕寺のご住職であると同時に、兵庫県教育委員会の地域改善対策室長や兵庫県同和教育協議会（兵同教）会長を務められた、同和教育及び人権教育のエキスパートでいらっした。ご著書には、『人権文化の創造』（2000 年明石書店）があり、この書名と同じ演題で多くの講演をされている。また、県立西脇工業高校や柏原高校の校長を歴任され、ご退職後は武庫川女子大学文学部教授となられ、平成 17 年から兵庫県人権教育研究協議会の会長を務めておられた。残念ながら、ご病気のため平成 19 年 8 月 5 日に 68 歳でお亡くなりになった。もし生きておられたならば、もう少し深く両方の書の意味について伺うこともできたはずなのだが…。本校の生徒のみならず教職員に対して実に貴重な贈り物をしていただいたことに深く感謝申し上げ、ご冥福をお祈り致したい。

(5) 「絵画」(玄関・応接室)

本校に縁の深い絵画を 2 つ紹介したい。

① 「舟溜り」(福岡久蔵先生 作)

本校の玄関に足を踏み入れると、まず目につくのは堀井隆水先生の書ではあるが、左に目を移すと少し薄暗い玄関の中で水色による表現が印象深い絵がある。これは、現在も山崎町にお住まいで、いわゆる山崎画壇の重鎮、筆頭であられる福岡久蔵先生によって描かれた「舟溜り（ふなだまり）」という作品である。

この絵についての解説を当時の育友会報「敷草」(第 20 号)の中から拾ってみる。

卒業記念に絵画を寄贈

第 13 回卒業生が、卒業記念に 80 号(約 1.6m×1.3m)の絵画を寄贈してくれました。画家は山崎町にお住まいの福岡先生で、作品は東京の美術展で入選された「舟溜り（ふなだまり）」です。本館玄関に掲示して、長く鑑賞させていただきます。



作者のことば

宍粟の山中で育ったせいでしょうか、私は海や舟を見ると心が晴れる思いがするのです。それででしょうか、私の絵は海や舟をテーマとしたものが殆どです。

この 80 号の油絵も揖保川の河口近くの舟溜りを描いたものです。私がこの場所をテーマとして絵を描き始めてから、かれこれ 30 年近くになります。当時は木製の小さな海苔舟がひっそりとたたずみ、静かで落ち着いた雰囲気がありました。しかし、今では舟もプラスチック製でモーターを付け、うなりを上げて走ります。なんとなく周辺の風景とそぐわないようになってきました。

示現会会員 福岡久蔵

福岡先生は、山崎高校の 5 回生。元は中学校の数学の先生で、山崎西中学校の校長を

お務めになってご退職になった。教師時代から絵をよく描かれ、美術も担当されることが多かったが、ご退職後その画業たるや尚いっそう盛んとなり、齢79となられる今も非常にお元気で、山崎画壇を率いておられる。毎年5月の連休時期に、「ターンアート展」と称する美術展を20数名の方々と共に宍粟防災センターで開いておられるので、是非行ってご覧になり、先生の今なお瑞々しい画風に触れてみていただきたい。

② 「三室山」(児島格二先生 作)

もう一つ紹介しておきたい絵が、本校の応接室に掲げられている。「三室山」という題は元々そのように名付けてあるからではなく、この絵の中心に描かれているが故に、そのように呼ばせていただいている。まずは絵をご覧いただきたい。



千種をよくご存知の方ならばこの絵を見れば、「ああ、七野(ひつの)のあたりからの風景だな。」とすぐにおわかりになると思う。右手の山が「城宮」で、その名の通り中世には「千草城」があり、今ではその頂上に「五社神社」がある。中央から左手にかけて「笛石山」があり、さらにその先は「後山」へと連なっている。

真ん中の奥に白銀をたたえてそびえている山が、我が校歌にも「緑すがしき 山脈(やまなみ)の 極みに高し 三室山 厳しきすがた 仰ぎつつ…」と唄われている「三室山」である。三室は「御室(みむろ)」につながり、いわば「神のおわします山」という意味を持っている。

この絵を描かれた児島先生も、日々その凜とした姿を眺め、接する中で信仰心にも近いものを育んでいかれたのではないかと思う。

児島格二(かくじ)先生は赤穂の方で、元々は英語の先生であった。本校では、昭和52年4月から56年3月までの4年間教頭として、初代吉田校長及び2代池戸校長を支えておられた。絵画や文学に造詣が深く、また、よく茶道部の活動に参加されてお茶をたしなんでおられた雅な方であったと、現在も本校がお世話になっている茶華道講師の小原千鶴子先生がおっしゃっている。

児島先生は、昭和60年4月から62年3月まで山崎高校第23代校長を務められた。その間、兵庫県高等学校教育研究会英語部会の西播磨支部長を務められ、昭和61年度に英語スピーチコンテスト県大会を実施するにあたり、西播磨支部予選を姫路YMCAが行っていたスピーチ大会に合流させて行くという英断を下していただいたのが、実に懐かしく思い出され、スピーチコンテストも今に至っている。非常に温和なジェントルマン。その表情に接すると誰もがほっとする、そんな方であった。

(6) 「千種高校独立記念庭園」(昭和50年造営)

特別教室棟の1階を通過して体育館に向かう時に「ピロティ」と呼ばれるコンクリートの空間に出るが、その壁の南側、つまり千種高校の敷地の未申の方向南西隅に「富士山」形の岩を中心に据えた実に見事な「日本庭園」がある。5階建ての校舎に隠れてしまっていてわかりにくいのが、形のよい数々の岩は苔むして、四季折々の草花が石庭の周辺に生い茂り、秋には秋の、また冬には冬の風情が漂う不思議な空間となっている。



さて、この庭園は何のためにいつ頃造られたのであろうか。この庭園については明確な記録が残されておらず、すべては校長室に保存されている歴代の「卒業アルバム」から推測した結果であるが、これは「昭和50年に県立千種高校として独立を果たしたことを記念して



造られた、独立記念庭園である。」と結論付けた。現在の体育館が建てられたのは昭和45年3月。特別教室棟が完成したのは昭和56年10月。昭和49年のアルバムには、体育館西方は黒い土のままで何も無いが、昭和51年3月卒業の方のアルバムには、左のような立派な石灯籠を配した日本庭園の写真が残されている。この年以降のアルバムにこの庭園の写真を見つけることはできず、実に貴重な記録写真である。どの程度の面積を持つ庭園であったかは不明だが、昭和56年までは体育館の西方に存在し、特別教室棟の工事によってその大部分が切り取られてしまった、つまり、現存するこの庭園は「千種高校独立記念庭園」の一部であることは間違いない。

(7) 「千種高校校歌の音声」について

平成25年1月18日(金)、本校の校歌音声完全版がカセットテープで事務室倉庫内に残されていることがわかった。調べてみると、「混声三部合唱」・「独唱」・「ピアノ伴奏のみ」の3種類が作製されており、テープと共にケースの中に小さく折りたたまれて入っていた手紙によって、昭和63年11月に兵庫県立西宮高等学校音楽科1年生の生徒たちによって作られた、言わば「友情制作」によるものであることがわかったのである。昭和63年11月27日に本校の「学校開設40周年記念式典」が挙行されており、その式典での披露に向けて当時の校長上山先生が、音楽科を持つ県立西宮高校に校歌テープの作製を依頼されたものである。以下、テープケースの中にあつた手紙の文面を掲げる。

秋もめっきり深まってきましたが、お変わりございませんか。私は音楽科1年生担任の吉永陽一と申します。寺尾先生からこのお話を受け、クラスで話しましたところお役に立てるならばと皆、大乗り気でお引き受けしました。しかし、出来ばえはもう一つで、ご期待に添えましたかどうかは疑問ですが、お納め下さい。

A面には「合唱」、B面には「独唱」と「ピアノ伴奏のみ」を録音いたしましたので用途に応じてご利用下さい。

歌唱指導には、B面の「独唱」がメロディーがはっきりするのでよろしいかと存じます。

なお、伴奏及び混声合唱の編曲は山畑誠、独唱は江平真理子、伴奏安田亮子、そして合唱は1年生全員とすべて生徒が行いましたので拙い部分も多いかと存じますが、お許し下さい。また、この録音に使用いたしました楽譜につきましては、後日改めて送らせていただきます。

これから、ますます寒い季節を迎えますので、くれぐれもご自愛下さい。

上山 勝 先生

昭和63年11月22日 吉永陽一

手紙に登場する「寺尾先生」とは、当時の県立西宮高校校長寺尾滋明先生である。後に、県立教育研修所長と県立長田高校校長を歴任され、退職校長の会「柏樹会」の会長にもなられている。「上山勝先生」とは本校の第4代校長で、電話でお尋ねすると「寺尾校長が友人であったので気軽に頼んだのですが、西宮高校の生徒たちがこころよく引き受けてくれたり、また吉永先生からそのような手紙をいただき、ありがたいことです。」とのことであった。そして、当時の西宮高校音楽科1年担任の「吉永陽一先生」は吹奏楽界では非常に有名な方で、母校である兵庫高校を数々の全国優勝に導き、西宮高校でも同様に大きな足跡を残され、現在神戸夙川学院大学特任教授、兵庫県吹奏楽連盟理事長、関西吹奏楽連盟副理事長、NPO法人アマバンド&スポーツ副理事長等の要職に就かれている。(お名前の漢字「吉」は、本当は上が「土」。)

この音声は、3種類とも本校HP上で聞くことができるので、是非試して頂きたい。

(8) 「春名文庫」について

本校図書室の窓側西端の書棚に、「春名文庫」と書かれた木製の掲示板が立てられている。年を経る中でその意味もほとんど忘れ去られてしまっているのので、「春名文庫」についての記録を後世に遺すべく書き留めておきたいと思う。

左下の写真で、書棚の2段目と3段目に並んでいる「NHKブックス」が「春名文庫」である。ページの表紙と背中に青いマークが付いているのでよくわかる。この書棚と離れて、図書室北側に置かれている棚にもNHKの大型本、「交通博物館」等が数冊あるが、これも「春名文庫」の中に含まれている。形が大きいので、別の所に置かれているようである。



図書室の春名文庫



後列左端が春名先生



前列中央が先生

「春名文庫」とは、昭和40年から昭和59年1月まで本校に数学科教諭として奉職された、「春名俊秀先生」の名前からつけられている。千種町七野のご出身で千種分校1期生のお一人。そして分校時代から昭和50年の独立を経て、18年間にわたって本校で教鞭を執られ、昭和59年1月18日にご病気のため現職でお亡くなりになった。今から30年前のことで、51歳でいらっしまった。

学校で一番厳しい先生—春名先生。そして一番優しい先生—春名先生。当時そのような声が生徒の中にはあり、同僚の先生方にも広く慕われていた方であった。本校のPTA会報「敷草」第12号（昭和59年2月25日発行）から、追悼文を一編紹介する。

「教えて厳」—春名先生を悼む— 大西 一爾（昭和56年～60年教頭）

「教えて厳ならざるは、師としての怠りなり」。『言志四録』にあったと記憶している。なくなられた春名先生をおもうと、この言葉が浮かぶ。

定時制時代の分校に学び、本校卒業生の大先輩であった先生は、教職を天職とし情熱を傾けられた。「社会に出て通用する人間に」、「知識や技能だけでなく、しつけが身についた人間に」。先生がいつも口にしておられた言葉である。本校創立の精神に生き、身をもって厳しく実践されていた姿を、いまも目前にするようなおもいである。

一年後の昭和60年2月に発行された「敷草」第14号には、春名先生と同期の尾関豪一様（千草）が一周忌の追悼文を寄せておられ、当時中学校の仮住まいで夜の授業をローソクの火を灯して受けたことや、授業が終わった後は教室の火鉢を囲んで話し込み、家に帰るのは夜中になったことなど、春名先生との懐かしい思い出を綴っておられる。

その同じ「敷草」の中に、「春名文庫」創設の紹介文が掲載されている。

故春名俊秀先生のご家族から、千種高校のために、といただいた大切なお金で、本を購入させていただきました。NHKブックスの中から千種高校生に読んでもらいたい本を選び、「春名文庫」として図書室の一画に、コーナーを設けることになりました。生徒の皆さんは、故春名先生や御家族のおこころにかなうよう、大切に、十分に、活用して下さい。

昨年のお亡くなりになった山本賢有先生もそうであるが、分校時代から独立を果たす頃を含めて、長きにわたって千種高校を見守っていただいた多くの大先輩の先生方がおられてこそ、今があるのだということを、私たちは決して忘れてはならない。

(9) 「沿革写真」(40周年・50周年記念誌)と「桜の木」

手元に『学校開設40周年記念誌』と『50周年記念誌』がある。『40周年』の13頁に、「沿革写真」があり、千種分校初期の頃の様子を伝えてくれている。長かった旧千種中学校での仮校舎時代を経て、町内の正に一等地を得て建てられた校舎に対する喜びが伝わってくる。そして、『50周年』の25頁に、定時制第6期生大北佐代子様の「卒業記念樹に願いを込めて」と題する文がある。昭和32年3月のご卒業で、「独立校舎での生活はできませんでしたが、植樹によって校舎との繋がりが持てるのが嬉しくて、しっかり根付いて立派な花を咲かせてほしいと、祈るような気持ちで一生懸命植えました。」と述懐しておられる。

同じ第6期生に、前市議会議員で前同窓会長の岩路昭美様もおられ、「1月になってから、同級生4・5名と姫路の植木屋に行って桜の苗木を50本ほど買ってきて植えました。枯れたものもありますが、20本ぐらいいは残っているのかなと思います。」とおっしゃっている。

昭和32年に植えられた桜の木は、今もちょうど入学式の頃に見事な花を咲かせてくれている。独立校舎への切なる想いが込められた我校歴史の語り部として、末永く語り継ぎたい。

